

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」

外部評価委員会議事次第

日 時：平成30年3月16日(金曜日) 13時00分～15時30分
場 所：金沢大学医学類B棟1階応接室

(進行) 統括コーディネーター 金沢大学附属病院がんセンター教授 矢野 聖二

I. 開会挨拶

金沢大学基幹教育改革・附属病院担当理事 大竹 茂樹

II. 議 事

1. 配付資料確認
2. 外部評価の手順、確認 (資料1)
3. 活動状況報告（北信がんプロ全体） (資料2)
(発表30分、質疑応答15分 計45分)
4. 活動状況報告（連携各大学） (資料3)
(発表5分程度、質疑応答5分 計60分程度)
 - ① 信州大学 包括的がん治療学教授 小泉 知展
 - ② 富山大学 附属病院臨床腫瘍部教授 林 龍二
 - ③ 福井大学 がん診療推進センター教授 片山 寛次
 - ④ 金沢医科大学 再生医療学教授 下平 滋隆
 - ⑤ 石川県立看護大学 成人看護学領域教授 牧野 智子
 - ⑥ 金沢大学 附属病院がんセンター教授 矢野 聖二
5. 評価委員・コーディネーター意見交換
6. 各外部評価委員からの講評
7. 松浦成昭外部評価委員長 講評（総括）

III. 閉会挨拶

金沢大学医薬保健学総合研究科長 堀 修

IV. 閉 会 (15:30 終了予定)

次紙へ

配布資料

- 資料 1 外部評価委員会の手順、確認
- 資料 2 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（北信がんプロ全体 パワーポイント資料）
- 資料 3 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
活動状況報告資料（連携各大学（信州大・富山大・福井大・金沢医科大・
石川看護大・金沢大） パワーポイント資料）
- 資料 4 平成 29 年度 事業報告（2 月末。大学別事業報告）
- 資料 5 平成 29 年度 取組状況・受入状況報告（2 月末。中間・文科省資料）
- 資料 6 「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
文部科学省 平成 29 年度多様な新ニーズに対応する「がん専門人材（が
んプロフェッショナル）養成プラン」公募申請書
- 資料 7 資料 6「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」
採択時の推進委員会からのコメント

外部評価の評価手順（平成30年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

(1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、中間評価（内部点検）活動状況と評価、運営協議会によるプレゼンテーション・質疑応答に基づき評価を行う。

(2) 当該評価報告書は、本プログラム担当ががんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 3月23日（金）17時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月30日（金）17時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

【問い合わせ先】金沢大学がんプロ事務局 担当 石塚・内山
TEL 076(234)4205、076(265)2854 FAX 076(265)2855
mail:gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ活動状況報告

統括コーディネーター 矢野 聖二

(金沢大学附属病院がんセンター)

(金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科)

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

平成29年度予算額（案）：15億円（新規）

背景

- ・がんは、わが国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題。
- ・がん対策の一層の充実を図るため、「がん対策基本法」が制定（H19.4施行）。

（がん専門医療人材養成に係るこれまでの成果）

日本のがん医療で不十分とされている放射線療法、化学療法、緩和医療等に関する専門資格取得に向けた大学院教育コースや臓器横断的な講座の設置等によりがん専門医療人材の育成に一定の成果。

（※基本法に基づき「がん対策推進基本計画」を閣議決定）

【死因別死亡者数】

がんによる死亡者数は、第1位

1日に約1,000人が、
がんで亡くなっている。

1 悪性新生物	381,443人
2 心疾患	195,933人
3 肺炎	120,846人
4 脳血管疾患	111,875人
5 老衰	84,755人
6 その他	395,576人
死亡者数計	1,290,428人



（出典）：平成27年人口動態統計（速報値）

新たなニーズ

【今後のがん対策の方向性について】（平成27年6月 がん対策推進協議会）

- ・ライフステージごとに異なった身体的問題、精神心理的問題、社会的問題が生じていることから、AYA（Adolescent and Young Adult）世代（思春期世代と若年成人世代）や高齢者のがん対策等、他の世代も含めた「ライフステージに応じたがん対策」として、対策を講じていく必要。

【がん対策加速化プラン】（平成27年12月総務省を基に厚労省まとめ）

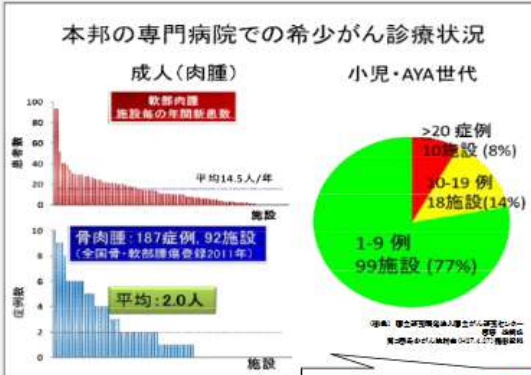
- ・今後、アカデミアや企業と協力してゲノム医療の実用化に向けた取組を加速させていく必要。
- ・希少がん医療に関する医師や医療機関等の情報が不足していることや、病理診断が難しいこと、希少がんに関する臨床研究を推進するための体制が不足していること等が課題として指摘。

【緩和ケア推進検討会報告書】（平成28年4月 緩和ケア推進検討会）

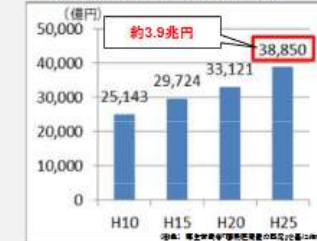
- ・がん看護領域の専門・認定看護師等の確保が必要。
- ・緩和医療に関する大学講座が少なく、卒前教育は不十分な状況。
- ・医学生、臨床研修医、看護学生、薬学生等への緩和ケアに関する教育・研修を推進する必要。

「がん対策推進基本計画」（平成24年6月 閣議決定）

- ・緩和ケアは精神心理的、社会的苦痛を含めた全人的対応が必要であり、その対象者は、患者のみならず、その家族や遺族も含まれている。



【がん治療に係る医科診療医療費】



【仕事をしながら悪性新生物で通院している者】



がん治療のため、仕事をしながら通院している者は32.5万人いる。

対応策

【取組・期待される成果】

これまでに構築された「がん医療人材養成拠点」における人材養成機能を活用し、以下の取組を実施。

○高度がん医療人材の養成

ゲノム医療従事者の養成

- ・標準医療に分子生物学の成果が取り入れられることによるオーダーメイド医療への対応。
- ・ゲノム解析の推進による高価な免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬の効果的な使用による医療費コストの軽減。

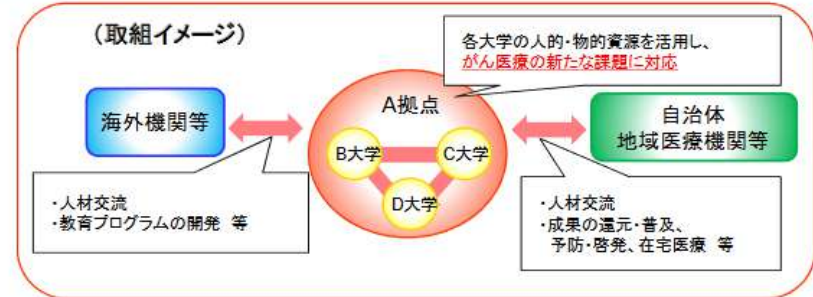
希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成

- ・希少がん及び小児がんについて、患者が安心して適切な医療・支援を受けられるよう様々な治療法を組み合わせた集学的医療を提供できる医療チームの育成。

○ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成

- ・ライフステージによって異なる精神的苦痛、身体的苦痛、社会的苦痛といった全人的苦痛（トータルペイン）を和らげるため、医師、看護師、薬剤師、社会福祉士（ソーシャルワーカー）等のチームによる患者中心の医療を推進し、患者の社会復帰等を支援。

（取組イメージ）



「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

〈これまでの取組〉

2期の北陸がんプロの成果

- 1) 本科生充足率138%の達成
- 2) 認定資格取得者139名の輩出
- 3) がんプロキャンサーボードTV会議（109回、194症例、6,337名参加）による

多施設・多職種連携の基盤構築

〈背景〉〔北信地域の特徴〕

●先駆的ながん・ゲノム医療関連施設

●全国と比較し15年以上進んだ少子高齢化社会

新たな医療人育成システムへの展開

本事業



金沢大・がん進展制御研究所
（全国唯一のがん共同研究拠点）
信州大・遺伝子診療部
（全国初：H7年に開設）

	生産人口(15-64歳)率			
	H17	H27	H37	H42
全国	65.8%	60.8%	58.7%	58.1%
北信	62.8%	57.0%	56.0%	55.6%

総務省統計局 統計データ(人口の推移と将来人口)

〈コース概要〉

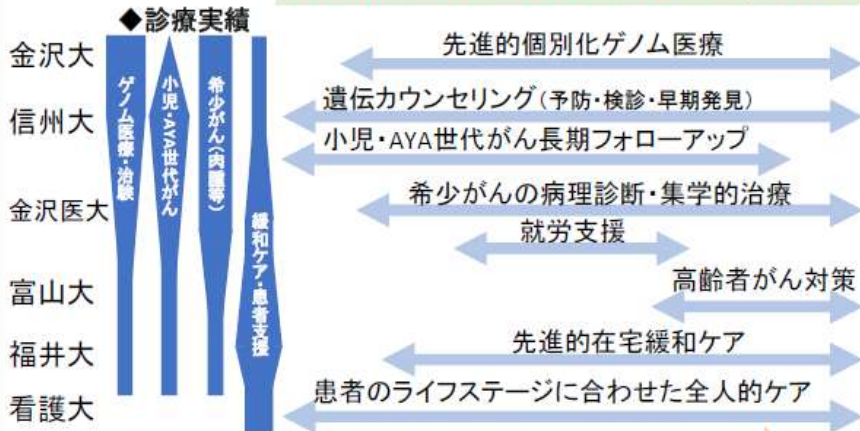
地域での症例や先進的がん医療の実態を把握し、戦略的がん医療人を育成するシステムを構築

学長連絡協議会

各校の学長による
事業の進捗管理

◆各大学の強みを生かした相互補完的教育コース （本科10コース、インテンシブ9コース）

小児・AYA世代 働き盛り世代 高齢世代



+ 多施設・多職種 連携の演習

TV会議システム、
遠隔教育システム活用

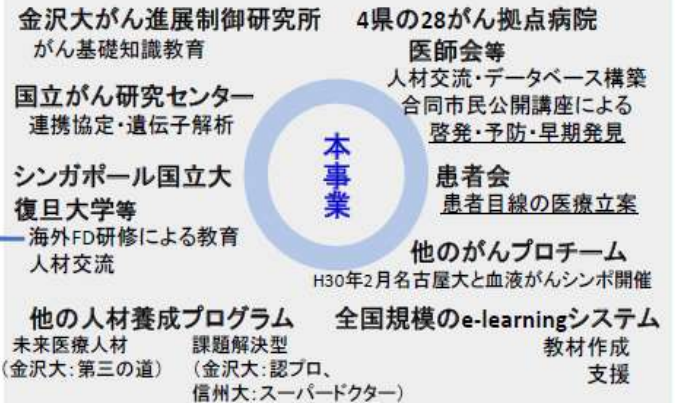
海外研修者による
FD講習会

ライフステージ事例検討会

北信オンコロジーセミナー

多職種連携・チーム医療

◆事業の連携体制



◆数値目標

- ・受入れ学生（本科91名、インテンシブ264名）
- ・北信オンコロジーセミナー（18回、6,500名）
- ・ライフステージ事例検討会（30回、4,500名）
- ・FD研修（海外 各大学1回、FD講習会 3回）
- ・国際シンポジウム（2回）
- ・合同市民公開講座（5回）
- ・地域医療機関との人材交流（3,000名）
- ・北信地域がんデータベース（7種以上）

特徴ある症例の地域がんデータベース構築

超少子高齢化地域で活躍する
先進的がん医療人

- ・免疫チェックポイント
阻害薬使用症例
- ・小児長期フォローアップ症例
- ・在宅緩和ケア実施症例
- ・障がい者ががん症例
- ・妊孕性保存症例 等

「将来の日本を映し出すデータベース」

大学院生による学会・英語論文発表

モチベーションを高め事業の求心力を保つ

社会に対する成果の発信・還元



予防からケア、啓発まで

「将来の日本の
がん医療人育成モデル」

⇒がん教育・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰へ

北信がんプロの実施事業

金沢大・がん進展制御研究所
国立がん研究センター

① 講義

全国e-learningクラウド

がんゲノム、小児・AYA・希少がん、
ライフステージに関する教材を
教員が作成

④ スタッフ研修(FD)

地域でのFD研修

がん拠点病院や
大学プログラムと連携
した研修会を実施

海外FD研修

ライフステージを
テーマとした研修を
今年度に予定

海外連携施設

② 演習(多職種連携)

北信オンコロジーセミナー
ライフステージ事例検討会
(TV会議システムを使用)



⑤ 人材交流

国際シンポジウム

合同シンポジウム

他のがんプロ拠点
他の人材育成プログラム
「第三の道」、「認プロ」
「スーパードクター」等

北信4県のがん拠点病院等

北信4県の医師会

北信4県の自治体

③ 地域がん医療の特徴把握

地域がんデータベース
(院内がん登録データを活用)

小児・AYA世代・高齢者の
がんデータの把握→対策立案

⑥ 市民啓発・教育

市民公開講座

アンケートでニーズの把握

患者会

北信4県の自治体

北信4県の医師会

北信4県のがん拠点病院等

北信がんプロの教育に関する基本構想

地域での症例や先進的がん医療の実態を把握し、
戦略的がん医療人を育成する教育システムを構築

北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる
北信6大学の強み(金沢大:先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大:がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大:希少がん病理診断や就学的治療・就労支援、富山大:高齢者がん対策、福井大:先進的在宅緩和ケア、石川看護大:患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成)を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設(本科10コース、インテンシブ9コース)し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換を導入します。

北信地域での遠隔教育システム構築・活用

TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取り組めます。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー(病態や治療中心)やライフステージ事例検討会(患者ケア・支援中心)を定期開催します。これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習することができます。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	5
申請担当大学 (連携大学)	金沢大学(計6大学) (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)		
プログラム名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成		
事業推進責任者	矢野 聖二(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授)		
取組の概要			
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>			
推進委員会からのコメント ○:優れた点等、●:改善を要する点等			
<p>○北信地域は超少子高齢化地域であり、本地域でのがん医療の進め方は、今後、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとして評価できる。</p> <p>○各大学の役割分担に具体性があり、かつ連携のメリットが明示されている点が評価できる。</p> <p>○相互補完的教育プログラムの追加と導入は、本事業活性化の点で評価できる。</p> <p>○地区医師会や患者会を含めた運営協議会を設置し、意思決定や運営を行うことは先進的な取組であり評価できる。</p>			
①	●	取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。	
②	●	●事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。	
③	●	●少子高齢化と小児・AYA世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。	
④	●	●外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査の要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。	
⑤	●	●北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。	
⑥	●	●各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与れるのか具体策が不明確である。	
⑦	●	●人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。	

推進委員会からのコメントへの対応

- ① NPOがんプロ認定機構を新たに立ち上げ
予算確保を試みる
- ② 実施体制、北信地域がんデータベースの項参照
- ③ 少子高齢化、小児・AYA世代がんのがん医療の
問題点を北信地域がんデータベースで解明する
- ④ 外部評価委員会は毎年開催に変更
(H29年9月の学長連絡協議会で変更を決定！)
- ⑤ まずTV会議を用いた演習に注力
がんデータベースを用いた研究予定
- ⑥ 各大学の専門性の高い教員の講義をe-learningや
演習で聴講し他大学の院生が恩恵を与える
- ⑦ 他のがんプロチームとの合同シンポジウムで
人材育成モデルの情報発信を想定。
今後、合同シンポジウムを計画する

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制**
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

北信がんプロ実施体制

金沢大 信州大 富山大 福井大 金沢医大 石川看護大

学長連絡協議会

外部評価委員会

北信がんプロ運営協議会

- ・6大学
- ・地域医療機関
- ・医師会
- ・自治体
- ・患者会 等

総務委員会 教務委員会 オンコロジーセミナー委員会 がんデータベース委員会 広報委員会 企画委員会 看護保健系会議

運営一般	カリキュラム E-learning教材 など	演習計画	データベース作成法 解析法決定 成果発表法など管理	WEB管理 印刷物作成 など	シンポジウム 市民公開講座 FD研修など	看護、保健、薬学系 の事案 事例検討会の計画 など
------	------------------------------	------	---------------------------------	----------------------	----------------------------	------------------------------------

北信がんプロ

連携校責任者

福井大



片山寛次

金沢医大



元雄良治

金沢大



矢野聖二

石川看護大



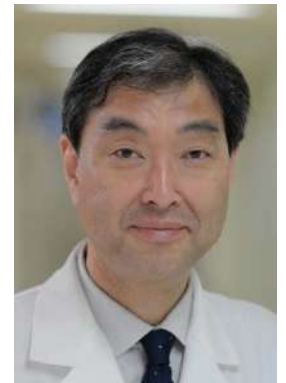
牧野智恵

富山大



林 龍二

信州大



小泉知展

北信がんプロ事務局(金沢大内)



北井恵理

石塚靖志

内山 恵

各種委員会 委員リスト

大学名	総務委員会	教務委員会	広報委員会	がんデータベース委員会	オンコロジーセミナー委員会	企画委員会	看護保健系会議
金沢大学	矢野聖二	溝上敦	大島正伸	中田光俊	矢野聖二	絹谷清剛	稲垣美智子
	中田光俊	鈴木健之	吉崎智一	土屋弘行	中田光俊	谷本梓	塚崎恵子
		田嶋敦		谷本梓			武村哲浩
		松下良					松下良
		武村哲浩					崔吉道
信州大学	田中榮司	田中榮司	塩沢丹里	小泉知展	小泉知展	伊藤研一	内田緑
	小泉知展	中沢洋三		野見山哲生	中沢洋三		
		小泉知展		中沢洋三	塩沢丹里		
				塩沢丹里	伊藤研一		
				伊藤研一			
富山大学	(主)林龍二	(主)北村寛	(主)新田淳美	(主)林龍二	(主)藤井努	(主)北村寛	(主)安田智美
	(副)新田淳美	(副)籾秀人	(副)長田拓哉	(副)関根道和	(副)梶浦新也	(副)櫻井宏明	(副)八塚美樹
福井大学	片山寛次	小林基弘	片山寛次	吉田好雄	片山寛次	谷澤昭彦	上野栄一
	谷澤昭彦	磯見智恵	上野栄一	黒川哲司	谷澤昭彦	山下芳範	繁田里美
	磯見智恵	片山寛次					
金沢医科大学	元雄良治	下平滋隆	犀川太	西野善一	安本和生	山田壮亮	
	下平滋隆	川端浩	新井田要	浦本秀隆	木南伸一	川崎康弘	
石川県立看護大学	石垣和子	牧野智恵	今井美和		今井美和	牧野智恵	牧野智恵
	牧野智恵	岩城直子	林静子		磯光江	山崎智可	金谷雅代

北信がんプロ 平成29年度予算内訳

(千円)

	共通	金沢大	信州大	富山大	福井大	医科大	看護大	合計
直接経費	27,053	24,390	15,871	12,371	13,626	11,007	12,272	116,590
間接経費	6,000	5,510	3,800	0	0	0	0	15,310
総事業費 間接経費含	35,557	29,900	19,000	12,230	13,626	11,007	10,580	131,900

学長連絡協議会



がんプロ運営会議



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 北信がんプロ キックオフミーティング

文科省 平成29年度大学教育再生戦略費 多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プラン

連携大学の実績を 相互補完する課程

本邦生科コース(大学院)
昨年4月受け入れへ
連携大学がこれまで培ったがん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。連携大学の代表者や、がん専門医療人材の養成に携わっている関係者が集まり、連携大学の役割や、がん専門医療人材の養成について話し合いました。

連携大学の役割や、がん専門医療人材の養成について話し合いました。連携大学の代表者や、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

北信がんプロの教育コース

連携大学	教育コース	所属
国立がん研究センター東病院長	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
大阪大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
山梨大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
新潟大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
富山大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
金沢大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
石川県立大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
金沢医科大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
石川県立看護大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院
石川県立保健医療大学	がん研究の最先端に立つがん研究リーダーコース	東大病院

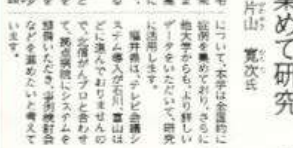


連携大学の代表者や、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

高齢者対策にスポット

高齢者対策にスポットを当て、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

国立がん研究センター東病院長 大津院長が特別講演



国立がん研究センター東病院長の大津院長が特別講演を行いました。

研究成果を地域に還元

研究成果を地域に還元することを目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

薬剤師のリーダー育成



薬剤師のリーダー育成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

先端技術扱える人材を

先端技術扱える人材を養成することを目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

心のケア担当看護師に



心のケア担当看護師を養成することを目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

医師のリーダー育成

医師のリーダー育成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

今年度スタートの、又部科学省の「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プラン」に採択された、金沢市ならではの3種と長野県の6大学による「北信がんプロ」のキックオフミーティングは9月18日、金沢市のホテル金沢で開かれました。参加大学の担当教授が、各大学の教育コースの内容や、取り組みの目標を紹介しました。

特徴的な役割を「データベース化」
連携大学がこれまで培ったがん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

がん専門医療人材の養成を目的として、がん研究の成果や、臨床経験が豊富で、がん研究の最先端にいるという人材が、北信がんプロのキックオフミーティングに集まりました。

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容**
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

北信がんプロの教育コース

本科生コース（10）平成30年4月受入れ開始

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	先端的个人化医療コース	医師・歯科医師	0	5	5	5	5	20
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師	0	1	2	2	2	7
	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	医学物理士	0	2	2	2	2	8
信州大	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	医師	0	2	2	2	2	8
	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	多職種	0	1	1	1	1	4
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	0	4	4	4	4	16
	個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	1	1	1	1	4
福井大	地域がん専門医養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
金沢医大	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
石川看護大	がんライフステージコース	看護師	0	2	2	2	2	8
合計			0	22	23	23	23	91

インテンシブコース（9）平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム医療生涯教育コース	医師・歯科医師	2	6	6	6	6	26
	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	薬剤師	0	2	2	2	2	8
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	2	2	2	2	2	10
	個別化医療で支える専門的薬剤師養成コース	薬剤師	1	2	2	2	2	9
	在宅がん緩和リハビリテーションコース	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大	在宅栄養管理コース	医師等	0	12	22	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大	がん集学的治療医養成コース	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケアコース	多職種	3	7	7	7	7	31
合計			8	55	67	67	67	264

旧北陸がんプロコンテンツの全国e-クラウドシステムへの登録状況

旧北陸がんプロコンテンツ 16科目中11科目(78コンテンツ)を公開

カテゴリ	北陸がんプロ科目名	筑波カテゴリ	筑波タイトル
全職種共通	がん緩和医療学	緩和医療学	鎮痛剤および鎮痛補助剤 ほか
全職種共通	腫瘍薬物学特論	腫瘍内科学・薬学	腫瘍内科学概論 ほか
全職種共通	腫瘍放射線医学特論	臨床腫瘍学概論ほか	放射線腫瘍学 放射線生物学ほか
全職種共通	分子腫瘍学特論	基礎腫瘍学	腫瘍生物学1 ほか
全職種共通	臨床栄養学特論	栄養学	栄養学項目1 ほか
医師共通	がん外科学特論	腫瘍外科学	消化器がん ほか
医師共通	腫瘍病理学特論	基礎腫瘍学・病理診断学	がん検査医学 ほか
医師共通	臨床腫瘍学特論	臨床腫瘍学概論	代表的疾患の標準的治療 4 造血器腫瘍 ほか
医師共通	臨床統計学特論	臨床研究と生物統計学	医療統計学1 ほか
コメディカル	医学物理学特論	医学物理/放射線物理学ほか	1.原子と原子核の構造 ほか
コメディカル	コンサルテーション論	緩和医療学 ほか	家族・遺族のケア ほか

北信がんプロで作成予定のe-learning教材(全国Eクラウドに参加)

項目	担当(責任校)
ゲノム医学の基礎とがんゲノム	金沢大
がんゲノム医療総論	金沢大
がんゲノム医療の実際:1 体細胞変異がん(1)	金沢大
がんゲノム医療の実際:2 体細胞変異がん(2)	金沢大
がんゲノム医療の実際:3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん)	信州大
ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題	TBD
がんゲノム医療に必要な体制と人材	TBD
がんゲノム医療の応用と将来	TBD
小児・AYA世代の特徴	福井大
小児・AYA世代のがん治療総論	金沢医大
小児・AYA世代腫瘍各論1 (この時期特有の腫瘍)	金沢医大
小児・AYA世代腫瘍各論2(この時期に起きる成人腫瘍)	信州大
希少がん(小児・AYA世代以外)	金沢医大
晩期合併症と長期フォローアップの問題点(1)	信州大
晩期合併症と長期フォローアップの問題点(2)	信州大
小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(1)	TBD
小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援(2)	TBD
ライフステージに応じたがん予防医学	金沢医大
ライフステージにおける壮年期がん医療	福井大
ライフステージにおける高齢者がん医療ー機能・合併症の特徴と評価	富山大
ライフステージにおける高齢者がん医療ー治療の特徴	富山大
ライフステージに応じた包括的支援	石川看護大
ライフステージにおける終末期のがん医療	石川看護大
社会とがん医療	TBD
ライフステージに応じたがん医療の臨床試験	福井大

収録完了

収録完了

北信オンコロジーセミナー(多職種連携演習)

- ・目的 : 最先端のゲノム医療、**小児・AYA世代・高齢者がん**、希少がん症例の研究、診断、治療、**緩和ケア**、**就労支援**等を効率的に学習する演習

がんの病態、診断、治療に主眼をおいたセミナー

- ・対象 : 北信がんプロ**受講生**および北信地域の医療機関の**多職種**

- ・開催方法 : がんプロTV会議システム

- ・開催頻度 : 3か月に1回(5年間で18回)

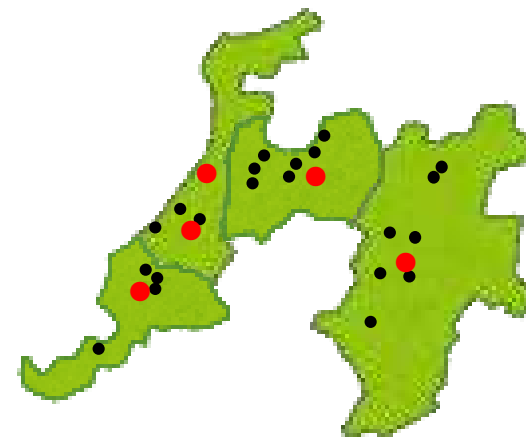


がん診療連携拠点病院等との 診療連携ネットワーク

大学

6拠点

がん診療連携拠点病院等 **26拠点**
(平成30年3月現在)



がんプロテレビ会議システム概要（導入拠点）（平成30年3月現在）

北信がんプロ連携6大学、北陸・長野県のがん診療連携拠点病院など 計32施設に設置

	大学(6大学)	がん診療連携拠点病院 地域がん診療推進・協力病院		
		1期がんプロ (H19～)	2期がんプロ (H24～)	3期がんプロ (H29年度内設置)
石川県	金沢大学 金沢医科大学 石川県立看護大学	小松市民病院 金沢赤十字病院 公立能登総合病院 恵寿総合病院	金沢医療センター 石川県済生会金沢病院 芳珠記念病院 金沢市立病院	石川県立中央病院 公立松任石川中央病院 浅野川総合病院
長野県	信州大学			諏訪赤十字病院 飯田市立病院 長野赤十字病院
富山県	富山大学	富山県立中央病院 富山市民病院 高岡市民病院 富山労災病院 厚生連高岡病院 市立砺波病院 黒部市民病院	金沢医科大学氷見市民病院 富山県済生会高岡病院 富山県済生会富山病院	
福井県	福井大学	国立病院機構福井病院 福井県済生会病院		

新しいTV会議システム(センター設備入替)



(旧)金沢大学メディア基盤センター内
がんプロ会議専用機器

(テレビ会議端末のみ) **最大12拠点接続**
保守契約切れ・パーツが入手困難

富士通

館林センター内

クラウド型サーバー

・TV会議システム

・PC・スマートフォン

でも参加可能

最大40拠点接続まで

拡張可能

(現在は20拠点接続)

クラウド型コラボレーションサービス

1. 社内で利用するコミュニケーションツールをすべて提供
→ ビデオ会議、チャット、資料共有
→ 予約、録画、録画配信機能は、オプションサービスとして提供予定(*)
2. 閉域やインターネット経由の接続を提供 (他社とのコミュニケーションに活用)



北信がんプロ

第1回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時

2017年12月8日（金）
18：00～20：00

会場

金沢大学医学類教育棟
地下大多目的室

プログラム

症例検討1（担当：金沢大学がんセンター）

オシメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示した
T790M陽性EGFR変異肺がんの2症例

症例検討2（担当：信州大学信州がんセンター）

子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえた
ALK肺がんの一例

特別講演 演題「がん研究が導くゲノム医療」

東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野教授
国立がん研究センター 理事・研究所長

間野 博行 先生

受講手続き（大学院生）

- ・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。
- ・詳細は所属大学の学務係にお問い合わせください。

問い合わせ先

- ・ご不明な点は所属大学の学務担当係または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ事務局

[金沢大学大学院医薬保健学総合研究科内]

〒920-8640 金沢市宝町13-1

TEL 076(234)4205/(265)2854 FAX 076(265)2855

E-mail gpro@med.kanazawa-u.ac.jp <http://www.gan-pro.net/>

北信がんプロ第1回オンコロジーセミナーを、各大学・がん診療連携拠点病院間を結んだテレビ会議システムにより開催致しました。

（第1回オンコロジーセミナー 参加人数:90名）

第1回目となる今回は、金沢大学附属病院がんセンター・信州大学医学部付属病院がんセンターより2症例の発表と、国立がん研究センター理事・研究所長の間野博行先生に特別講演として「がん研究が導くゲノム医療」をご講演いただきました。

次回は、3月に富山大学主催にて開催予定です。



オンコロジーセミナーへのご参加お待ちしております！



オンコロジーセミナーの担当予定（案）

	2017年度			2018年度						2019年度						2020年度						2021年度																											
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
金沢大	担当	担当																	担当																														
富山大			担当																	担当																								担当					
金沢医科大							担当														担当																									担当			
福井大									担当																																								
信州大																																																	

ライフステージ事例検討会(多職種連携演習)

平成29年度 石川県立看護大学
超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

テレビ会議システムを利用した

休職中の看護師
大歓迎!

ライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう!

北陸3県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います!
施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう!

◆開催日程(8回予定)

平成29年 6月6日(火)、7月4日(火)、8月1日(火)
10月3日(火)、11月7日(火)、12月5日(火)

平成30年 2月6日(火)、3月6日(火)

◆開催時間 17時45分~19時15分
(事例検討:60分、ミニレクチャー:30分)

◆対象 看護師、医療従事者
がん看護専門看護師申請予定者
休職中の看護師で復職を予定している方

◆会場 開催予定施設のテレビ会議システム設置室
※開催予定施設につきましては、裏面をご覧ください。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討: 外来化学療法、在宅の患者支援
倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
2) ミニレクチャー: OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します

お近くの開催予定会場からの
参加をお待ちしております!
詳細はホームページをご覧下
さい。
石川県立看護大学
<http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
がんプロ.com
<http://www.gan-pro.com/>



石川看護大



牧野智恵

- ・石川県立看護大が中心
- ・参加対象: 医師、看護師、
薬剤師、理学・作業療法士、
ソーシャルワーカーなど

(開催予定)

29年度	8回
30年度	12回
31年度	12回
32年度	6回
33年度	6回
計	44回

H29年度
参加人数

第1回	65名
第2回	96名
第3回	56名
第4回	92名
第5回	66名
第6回	58名
第7回	中止
第8回	@名

計 433名



◆アドバイザー◆

・牧野智恵: 石川県立看護大学 成人看護学 教授(がん看護専攻)
・山田圭輔: 金沢大学大学院医薬保健研究域医学系 准教授(麻酔・集中治療医学)

・がん看護専門看護師(OCNS)

我妻 孝則(金沢医科大学病院)	山本 恵子(富山大学附属病院)	坂井 桂子(富山県立中央病院)
村上 真由美(富山赤十字病院)	高池 弥生(石川県済生会金沢病院)	内村 恵里子(石川県立中央病院)
山瀬 勝巳(KKR北陸病院)	平 優子(市立砺波総合病院)	佐伯 千尋(金沢大学附属病院)
松本 友梨子(福井県済生会病院)	上埜 千春(金沢医科大学病院)	原子 裕子(金沢医療センター)
竹中 健(富山県立中央病院)	玉村 尚子(福井県立病院)	藤川 直美(石川県立中央病院)
久保 博子(福井大学附属病院)	高野 智早(福井大学附属病院)	時山 麻美(富山県立中央病院)

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。

*開催予定施設、連絡先は裏面をご覧ください

◆お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 総務課
〒929-1210 石川県がまろ市学園台1-1 TEL (076)281-8303 FAX (076)281-8309

企画・運営 石川県立看護大学

主催: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)
共催: 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター

がん看護事例検討会

日時: 6月6日(火) 17時45分～

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

事例検討

テーマ:「認知機能が低下している患者の
治療選択について考える」

担当施設 : 富山大学付属病院
事例発表者: がん化学療法認定看護師 竹本 朋代 さん

ミニレクチャー

テーマ:「患者とその家族を抗がん剤曝露から守ろう」

- ①「抗がん剤曝露の基礎知識」
講師: 石川県立看護大学 教授 牧野 智恵 先生
- ②「北陸3県の病院における抗がん剤曝露予防支援の実態調査報告」
講師: 金沢医科大学病院 看護師 飯下 佳子 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計11施設)

金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、公立総合病院、恵寿総合病院、
公立市民病院、国立病院機構富沢医療センター、富山県立中央病院、富山市民病院、富山赤十字病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

がん看護事例検討会

日時: 7月4日(火) 17時45分～

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ:「在宅酸素療法を受け入れ困難であった
症例との関わりを振り返る
～その人らしさを大切に～」

担当施設 : 市立砺波総合病院
事例発表者: 看護師 寿盛 志津子 さん

2.ミニレクチャー

テーマ:「より良いチーム医療のために」

講師: 市立砺波総合病院
がん看護専門看護師 平 優子 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計11施設)

金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学、恵寿総合病院、石川県厚生会金沢病院、
金沢市立病院、富山県立中央病院、富山市民病院、市立砺波総合病院、金沢医科大学水見市民病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会

日時: 8月1日(火) 17時45分～

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ:「終末期がん患者の退院支援」

担当施設 : 福井大学附属病院
事例発表者: 看護師 坪川 光 さん

2.ミニレクチャー

テーマ:「在宅療養を支える家族の不安
-症状変化に対する家族の思い-」

講師: 福井大学附属病院
がん看護専門看護師 久保 博子 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計11施設)

金沢大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、金沢赤十字病院、公立総合病院、
金沢医療センター、富山市民病院、富山赤十字病院、富山県済生会富山病院、富山県済生会高岡病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会

日時: 10月3日(火) 17時45分～

対象:どの職種の方でも参加できます

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ:「疼痛緩和と困難な患者への対応
—アセスメントとマネジメントの視点から—」

担当施設 : 福井県済生会病院
事例発表者: がん看護専門看護師 松本 友梨子さん

2.ミニレクチャー

テーマ:「がん患者の痛みのマネジメント
—患者の苦しみに近づくと一歩—」

講師: 福井県済生会病院
がん看護専門看護師 松本 友梨子 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計11施設)

金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学、小松市民病院、恵寿総合病院、
金沢医療センター、富山県立中央病院、市立砺波総合病院、金沢医科大学水見市民病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会

日時: 11月7日(火) 17時45分～

対象:どの職種の方でも参加できます

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ:「悪い知らせを伝えられないまま
終末期を迎えた患者と家族への関わり」

担当施設 : 金沢医療センター
事例発表者: 小西 美帆 さん

2.ミニレクチャー

テーマ:「がん告知の現状と看護の役割」

講師: 金沢医療センター
がん看護専門看護師 原子 裕子 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計11施設)

金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学、公立総合病院、済生会金沢病院、
金沢市立病院、富山県立中央病院、富山赤十字病院、金沢医科大学水見市民病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会

日時: 12月5日(火) 17時45分～

対象:どの職種の方でも参加できます

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ:「病状説明後、せん妄が出現した
患者への関わり」

担当施設 : 金沢医科大学病院
事例発表者: 相上 恵子 さん

2.ミニレクチャー

テーマ: 「せん妄へのケア」

講師: 金沢医科大学病院
がん看護専門看護師 上埜 千春 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計12施設)

金沢大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、富山赤十字病院、恵寿総合病院、
金沢医療センター、富山市民病院、砺波総合病院、済生会富山病院、済生会高岡病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会

日時: 2月6日(火) 17時45分～

対象:どの職種の方でも参加できます

がん看護専門看護師とともに実践を振り返り
ケアと一緒に見直してみませんか!

1.事例検討

テーマ
「がん終末期にBad Newsを拒否した
患者と家族のケア」

担当施設 : KKR北陸病院
事例発表者: 鳥越安子 さん

2.ミニレクチャー

テーマ
「希望を持ちながら心の準備をする緩和ケア」

講師: KKR北陸病院
がん看護専門看護師 山瀬 勝巳 さん

場所:各開催施設・テレビ会議室(計13施設)

金沢大学、富山大学、福井大学、石川県立看護大学、富山赤十字病院、公立総合病院、
金沢市立病院、富山県立中央病院、富山市民病院、富山赤十字病院、
金沢医科大学水見市民病院、滋/日総合病院

□参加申し込み先 お近くの会場の担当までお願いします。
□お問い合わせ先 石川県立看護大学 総務課 澤本
TEL(076)281-8303 FAX(076)281-8319

ライフステージ事例検討会 (H29年度の開催実績)

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース**
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

地域がんデータベース

金沢医大



西野善一

目的: 北信地域のがん患者さん、がん医療の特徴を明らかにする



将来のがん対策立案に活用する

28のがん拠点病院/北信4県

院内がん登録データ **35,000人/年**

がん種別罹患数、年齢分布、
発見ステージ、初回治療の種類

解析対象案

- 高齢者がん(80歳、85歳、90歳)
- 小児・AYAがん
- 希少がん(肉腫・原発不明)
- 障がい者がん
- 甲状腺がん分子標的薬使用症例
- 免疫チェックポイント阻害薬使用症例
(メラノーマ、肺がん、腎がん、頭頸部がん、胃がんなど)



北信地域でのがん対策立案に活用

小児・AYA世代のがん症例(2015年金沢大学附属病院) 全年齢(2234例)

部位	性別	小児(25例)				AYA(161例)				合計
		0~5歳	6~10歳	11~15歳	16~20歳	21~25歳	26~30歳	31~35歳	36~40歳	
全部位	男	3	4	3	8	2	8	8	19	55
	女	4	5	6	6	11	13	37	49	131
	計	7	9	9	14	13	21	45	68	186

1. 子宮頸がん (23.1%)
2. 脳・髄膜腫瘍 (15.1%)
3. 白血病 (11.8%)
4. 甲状腺がん (10.2%)

読み取れること

- ・全年齢のうち8%!
- ・年代順にがんが多い!
- ・AYA世代には子宮頸がんが多い!
- ・おそらく妊娠時の検診で発見!



行政が考えるべき対策

妊娠時の検診は必ず・精度高く! 精度管理に注力!

障がい者のがん症例 (2015年金沢大学附属病院)

全がん患者さん(2234例)

	症例数*	治療を受けた症例数
頭頸部がん	4	4
脳・髄膜腫瘍	4	4
悪性リンパ腫	2	2
腎がん	2	2
白血病	2	2
卵巣がん	2	2
その他	4	4
合計	20	20

*院内がん登録の診断日以前に「(障がい者)医療費受給者証」の認定を受けている人を対象

読み取れること

- ・全症例の1%
- ・障がい者にも様々な臓器にがんが発生
- ・当院紹介例では全例何らかの治療を実施



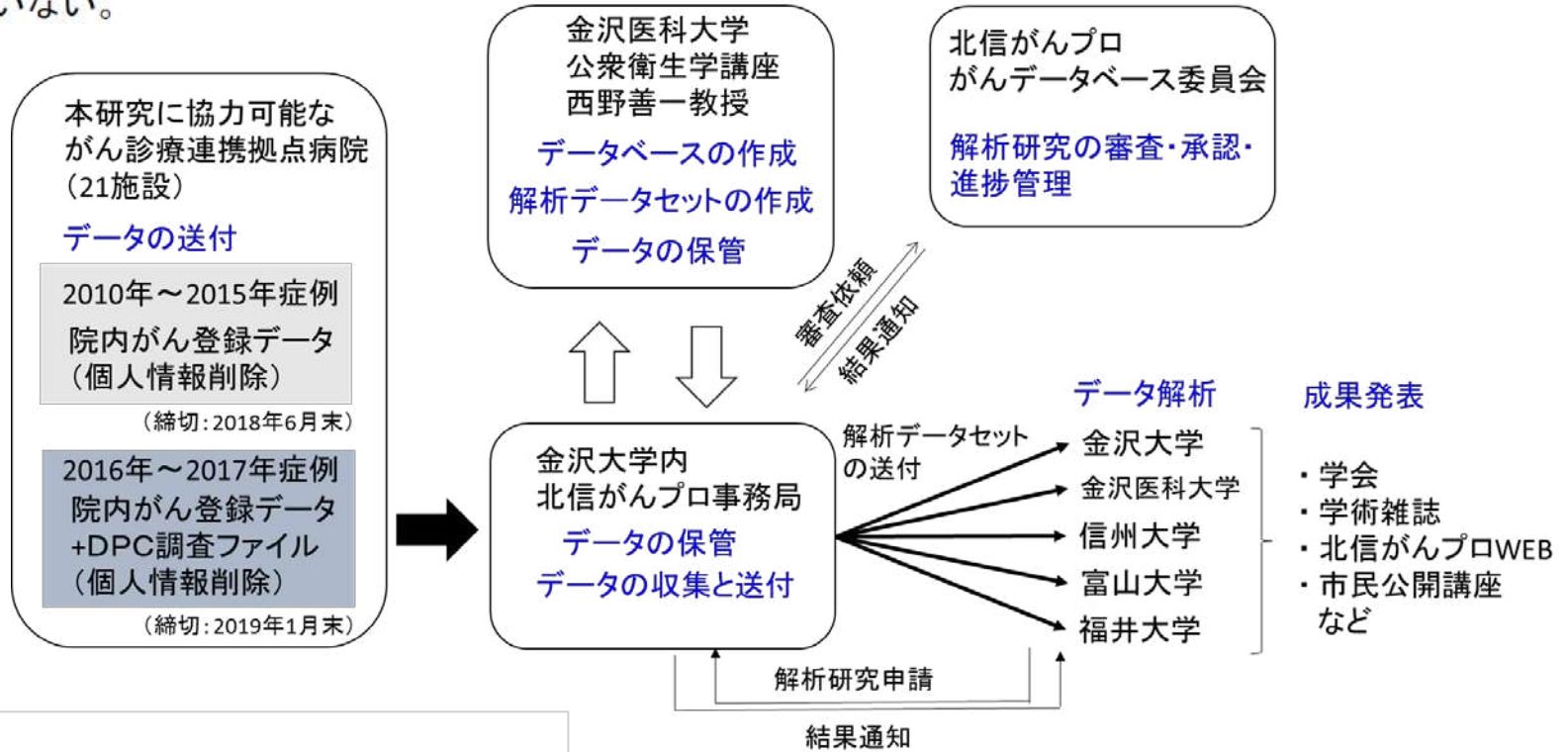
行政が考えるべき対策

障がい者のかたが
全身の検診を受けられる
仕組みをつくる！

北信全体での症例数は？ 治療実施割合は？ 障がいの種類は？

推進委員会のコメント

- 事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。



様式：既存試料・情報研究用（2015.8ver）

研究計画書

- 1 課題名：北信地域におけるがん医療の実態を把握するデータベース構築
- 2 研究期間：倫理委員会承認日～西暦 2024年 3月 31日
(原則5年以内、なお、研究期間には、症例登録期間、追跡(観察)期間を含みます。)

3 研究実施体制

	氏名	所属部局	所属分野等	職名	研修の受講
実施責任者	矢野 聖二	がん進展制御研究所	腫瘍内科	教授	■受講済 □未受講
研究分担者(学内)	中田 光俊	医薬保健研究域医学類	脳機能制御学	教授	■受講済 □未受講
	谷本 梓	がん進展制御研究所	腫瘍内科	助教	■受講済 □未受講
	山下 豊	附属病院	がんセンター	助教	■受講済 □未受講
	山岡 伸介	附属病院	経営企画部	特任助教	□受講済 □未受講
	板谷 典輝	附属病院	臨床診療情報管理係		□受講済 □未受講

協力施設

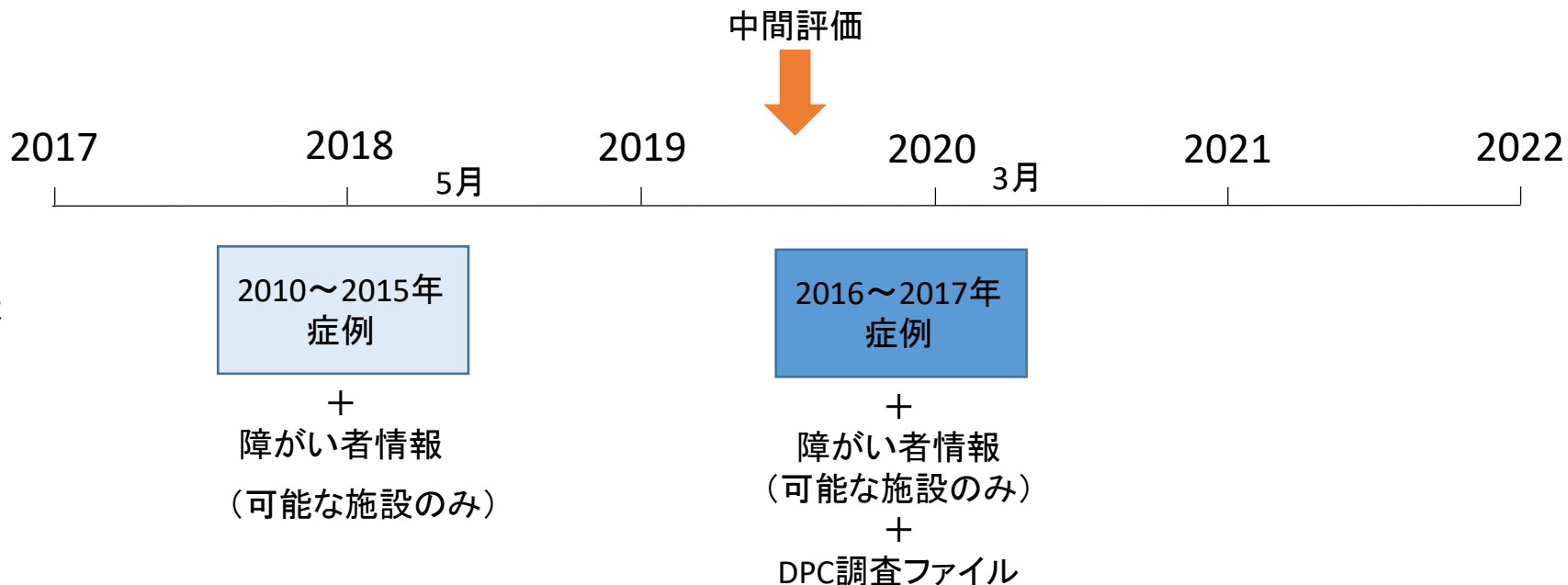
長野県： 信州大学病院、佐久総合病院、諏訪赤十字病院、相澤病院、長野赤十字病院、長野市民病院

富山県： 富山大学病院、富山市民病院、黒部市民病院、富山労災病院、厚生連高岡病院、高岡市民病院、砺波総合病院、富山県立中央病院

石川県： 金沢大学病院、金沢医科大学病院、石川県立中央病院、金沢医療センター

福井県： 福井大学病院、福井県立病院、敦賀医療センター

データ収集と発表のスケジュール



学会発表

● 北信がんプロDB事業

がん対策立案

- 障がい者がん(6年分)
- 高齢者がん(6年分)
- 小児・AYAがん(6年分)
- 肉腫(6年分)
- 障がい者がんなど4種(8年分)
- 甲状腺がん(2年分)
- 免疫CP阻害薬使用5がん種(2年分)

英語論文発表

4報

10報

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修**
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

多様なライフステージに対応するための研修会(富山県)

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座 in 富山

看取りへの「苦手意識」から「関わる自信」へ
人生の最終段階(エンドオブライフ)をケアできる人材育成プログラム

◆日程 : 2017年12月16日(土)17日(日)
◆時間 : 一日目 9:00-17:30、二日目 9:00-17:00
◆会場 : 富山大学附属病院 多目的研修室(総合臨床教育センター2階)
◆対象 : 富山・石川・福井・長野県に勤務する医療・介護・福祉従事者
◆定員 : 先着100名
◆受講料 : 無料
◆主催 : 富山大学附属病院 医学部がん臨床センター、一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会、都道府県別地域での医療的ケア推進協議会(北陸6県)

講座概要
人生の最終段階にある人やその家族と関わる事を苦手と感じる人は少なくありません。日に日に食事が少なくなり、やがて眠っていく人と、どのように関わっていいかわからない。援助者が、自身を持って支援にあたれるようになることを目的として、この講座は企画されました。地方医師会が中心となって協賛を募集し、受講料を減らすことで、医療・介護の仕事を担う、一人ひとりが自信を持って人生の最終段階にある人と関わるようになることを目指します。

人生の最終段階にあると見られる状態、医療・介護施設で求められる役割や働き、意思決定支援の基礎知識のほか、エンドオブライフ・ケアの現場でも特に難しいとされるスリ・チーム・ペインに対するケアについて、1日1日の研修方法から多職種研修で行う支援方法まで学びます。

中絶講座
●医療・介護の現場研修1日コース(研修センター)
●在宅、葬儀、終末期医療、緩和ケアの
実践(バーチャル実習)
●(医療・介護職として専修・初任者)の人生の
最終段階に接している、感じていること、
想いや悩み、これから関わろうとしている
https://endoflifecare.or.jp/program/20171216toyama/

講師 小澤 竹俊
研修会講師、めぐみ育生のりんの研究
1983年東京府立第一高等学校で、そして1人の医師として
臨床に携わり、研修医、主治医、副院長を経て、2006年富山大学附属病院に
勤務開始。2010年、富山大学附属病院に勤務開始。2015年、富山大学附属病院に
勤務開始。2015年、富山大学附属病院に勤務開始。

SHIBA Web、郵送、FAXで承ります <https://endoflifecare.or.jp/program/20171216toyama/>

受講者の声
●30年間の臨床の中で、看取りを担っていた人への関わりが深まるきっかけになって、精神的にも成長することができました。
●身近なところで見られることになり、看取り、葬儀、終末期医療について学ぶことができて、大変勉強になりました。
●多職種で学ぶことで、医療・介護現場で求められる役割や働き、意思決定支援の基礎知識のほか、エンドオブライフ・ケアの現場でも特に難しいとされるスリ・チーム・ペインに対するケアについて、1日1日の研修方法から多職種研修で行う支援方法まで学びました。

一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会 電話: (03)6435-6404 (土日祝日も受付10:00~17:00)
〒122-0001 東京都板橋区/〒317-8511 茨城県/〒202-8585 千葉県/〒270-8585 東京都/〒220-8585 神奈川県/〒220-8585 東京都/〒220-8585 東京都
Web: <http://endoflifecare.or.jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/endoflifecare.or.jp/> e-mail: info@endoflifecare.or.jp

平成29年度 富山大学附属病院 がん医療に携わる医師に対する コミュニケーション 技術研修会

「悪い知らせ」を伝えられることは、患者とその家族にとって精神的な出来事であり、その後の日常生活に大きな影響を与え、場合によっては治療の選択を促さることが知られています。また同時に「悪い知らせ」を伝える側の医療者にとっても大きなストレスを伴います。この研修会は、患者が納得したうえで安心して治療法等の選択ができるように、医療・患者間のコミュニケーションの質の向上を目的としています。

開催日 2017年 9月30日(土)・10月1日(日)
(2日間通しての研修会です)

会場 富山大学附属病院
総合臨床教育センター2階
多目的研修室

等々悪い知らせの場でも、演技力に定評のある研修者を相手に合計2時間のロールプレイングを行います。

受講者の声
●今まで「自分が話すことばかりに注意を向けてしまっていたが、この研修会を受けて、「患者さんの言葉をよく聴き、受け止めること」が大変重要だということを知りました。
●ロールプレイングを通して、本を勉強だけでは習得できないスキルを学ぶことができました。

具 富山大学附属病院 医学部がん診療センター
平成29年度がん医療連携推進事業フェーズ2「医師に対する「がん専門人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の一環として実施される研修会(富山県主催、富山大学共催)
協 力: 一般社団法人日本がんコミュニケーション学会 / 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会
実 践 場 所: がん診療連携推進センター3以上の研修室
開 催 期 間: 1日目 10:00~18:00 / 2日目 8:30~15:00
受 取 料 無料 ※グループで食事をする際の昼食代として2,000円(2日分)及び受講者のために使用する費用(交通費、宿泊費等)は受講者負担となります。
内 容: 講話(がん、再発、抗がん剤の中止など悪い知らせを患者に伝えるロールプレイング)詳細は <http://www.share-cst.jp/index.html> をご覧ください。
お申し込み 富山大学附属病院 臨床研修部
申込用紙をダウンロードの上、FAX [076-434-5112]までお送りください。
お申し込み期限: 2017年7月31日
お問合せ先: 担当 新田
TEL 076-434-7608
e-mail: muedan@med.u-toyama.ac.jp

平成29年度北信がんプロ人材育成セミナー

暮らしやすい地域づくりにかかす 「聞き書き」

日時: 10月28日(土)15時~
場所: 中新川郡上市町法音寺51
かみいち総合病院2階 大会議室
定員: 80名(当日先着順)

講演
聞き書きで変わる私たちの看護

一関市国民健康保険藤沢病院
病棟副院長 島山 貴江先生

実践交流会
地域医療と聞き書き

司会: 日本聞き書き学校講師 天野良平先生

指定発言者: 前かみいち総合病院副院長 山崎列子先生
一関市国民健康保険藤沢病院 院長 佐藤元義先生
病棟副院長 島山貴江先生

13時30分より、日本聞き書き学校講師天野良平先生による
講演「聞き書き」のすすめ(看護協会主催)も合わせて、ご参加ください。

主催: 北信がんプロ
富山大学/2017年度勇典奨励会事業

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座
(参加人数 100名)



富山大
林 龍二

FD研修セミナー

(H29年度の開催実績)

石川看護大



牧野智恵

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
平成29年度 看護実践セミナー

本セミナーは
終了証を
発行します

臨床で行なう リンパ浮腫のケア アドバンス編

2018/
2.17
9:30~15:30
(受付9:15~)

石川県立看護大学
教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

講師
山岸 愛 石川県済生会中央病院 リンパ浮腫療法士
日本医療リハビリテーション学会セラピスト
高地 弥里 石川県済生会中央病院 がん看護専門看護師
日本医療リハビリテーション学会セラピスト
時山 麻美 富山県立中央病院 がん看護専門看護師
日本医療リハビリテーション学会セラピスト

演習内容
・事例のグループワーク
・患者指導場面のロールプレイ
・マッサージの体験

対象 医療職者 18名
※平成28年または29年度開講の
本学リンパ浮腫セミナーに参加された方

料 2月2日(金) 参加費無料
※お申し込みはWEBで
お願いします

主催 超少子高齢化社会での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
[石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同開催事業]

【申し込み・お問い合わせ】 石川県立看護大学 〒920-1210 石川県金沢市南町1丁目1番地
TEL: 076-281-8300 FAX: 076-281-8304 E-mail: gango@shikawa-nu.ac.jp (2階) (MC)

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ) 石川県立看護大学
平成29年度 FD・SD研修

ケアの意味を見つめる 事例研究

講師 山本 則子 先生
東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護学分野
教授

日程 平成30年 1月 28日 (日)

時間 10時~16時 受付 9:30~

場所 石川県立看護大学 中講義室3 **定員40名**
参加費無料

対象 看護職の方(教員・院生を含む)

*定員になり次第、締め切らせていただきます

【申込締切】平成30年
1月24日(水) 申し込みは左のQRコードを
読み取るか裏面をご確認下さい

お問い合わせ先 石川県立看護大学 石川県立看護大学〒920-1210 石川県金沢市南町1丁目1番地
TEL: 076-281-8300 FAX: 076-281-8304 E-mail: gango@shikawa-nu.ac.jp (2階) (MC)

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同開催事業)

平成29年度 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)SD講演会
石川県立看護大学/金沢大学医療保健研究推進学系

参加費無料

医療者・患者への 抗がん剤曝露予防を 考えよう

定員120名

第1部 講演 13:00~13:30
座長/ 菅 孝生(金沢大学薬学系 准教授)
1. 抗がん剤による曝露状況の調査と薬剤師の職業性曝露を考える
講師 米澤 美和 先生(石川県立中央病院 薬剤師)

第2部 特別講演 13:40~14:40
座長/ 牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)
1. 我が国の曝露対策の現状と課題
講師 青俣 健二郎 先生(研経研センター がん臨床内科 臨床研究推進室)
2. 院内の曝露予防の取り組み
講師 岸田 恵 先生(研経研センター がん化学療法臨床推進室)

第3部 パネルディスカッション 14:40~15:00
座長/ 牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)
菅 孝生(金沢大学薬学系 准教授)
北陸の曝露対策の実態と課題

会場/ホテル金沢(4階エメラルド)
金沢市川崎町1番1号 TEL:076-223-1111

平成30年
2/24
13:00~15:00
(受付12:15~)

締切:平成30年2月10日(土)
※定員になり次第、締め切らせていただきます

【申し込み・お問い合わせ】 石川県立看護大学 石川県立看護大学 (2階)MC
〒920-1210 石川県金沢市南町1丁目1番地
TEL/FAX:076-281-8300 E-mail:gango@shikawa-nu.ac.jp

【本講演会は、石川県保健医療計画(生)第24年度(1単位)、石川県保健医療計画(生)第25年度(1単位)に申請中】

主催: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同開催事業)

共催: 石川県医療従事者協会
後援: 北信新聞社

北信がんプロ
超少子高齢化地域での先進的
がん医療人養成
看護セミナー

地域で暮らすがん患者への支援

日時:平成29年11月24日(金) 17:30~19:00 (17:00開場) **参加費無料**

場所:福井大学医学部 臨床大講義室
対象:看護職、医療・福祉関係者、一般市民

基調講演
「つながる・ささげる・つくりだす
在宅現場の地域包括ケア」

講師 山本 則子
東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護学分野
教授

講師 上野 亮一
福井大学医学部 臨床大講義室 講師

主催:北信がんプロ超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同開催事業)

共催:福井大学大学院医学系研究科
医療:福井市看護協会
石川県立看護大学
福井大学看護学センター(協賛) 後援:石川県

〒910-1193 福井県福井市南町1丁目23-3
Tel: 0776-61-8210
Fax: 0776-61-8153
E-mail: sukikaku@f.u-fukui.ac.jp

腫瘍病理セミナー(H29年度の開催実績)

第26回 腫瘍病理セミナー

(北信がんプロ FD 講演会)

ゲノムシーケンズによって 発がん過程を解き明かす

東京大学 医学研究所
ゲノム医学分野
教授 栗田 龍弘



1. Alexandrov, LB, et al. Mutational signatures associated with tobacco smoking in human cancer. *Science*, 2016, 354(6187):922.
2. Hjeltnes, A, et al. Whole genome mutational landscape and characterization of non coding and structural mutations in liver cancer. *Nat Genet*, 2016, 48:550-559.
3. Totoki, Y, et al. Trans-ancestry mutational landscape of hepatocellular carcinoma genomes. *Nat Genet*, 2016, 48:1267-1273.
4. Alexandrov, LB, et al. Signatures of mutational processes in human cancer. *Nature*, 2013, 500:415-21.

日時:平成29年10月11日(水)18時から
金沢医科大学 基礎研究棟3階大学院セミナー室
各大学・施設テレビ会議室




第30回 腫瘍病理セミナー

(北信がんプロ FD 講演会)

がんを理解するための ゲノム科学と人工知能


東京医科大学 難治疾患研究所
ゲノム病理学分野 教授
石川 俊平



2000年 東京大学医学博士
2004年 東京大学大学院医学系研究科 医学博士課程終了 (人体解剖学・病理学専攻)
2004年 東京大学 先端科学技術研究センター ゲノムサイエンス部門 特任助手
2007年 東京大学 大学院医学系研究科 人体病理学・病理診断学分野 助教
2010年 同 准教授
2013年 同 教授

1. Kamera D, Ishikawa S. Machine learning methods for histopathological image analysis. arXiv (preprint) 2017, arXiv:1709.00785.
2. Lathia S, Kamera D, Ishikawa S, et al. Immunogenetic Profiling for Gastric Cancers Identifies Sulfate Glycosaminoglycans as Major and Functional E-Cadherin Antigen in Human Malignancies. *Cell Reports* 2017, 20:1873-1887.
3. Kakuchi M, Ishikawa S, et al. Recurrent gain-of-function mutations of RHOA in diffuse-type gastric carcinoma. *Nat Genet*, 2014, 46(6):583-7.

日時:平成30年1月26日(金)18時から
金沢医科大学 基礎研究棟3階大学院セミナー室
各大学・施設テレビ会議室



金沢医大



清川悦子



元雄良治

第27回 腫瘍病理セミナー

金沢女性がん研究者フォーラム

(北信がんプロ FD 講演会)

15:05 ~ 15:30
炎症依存的な胃発がんモデルマウスを用いた研究
金沢大学がん進展制御研究所 特任助教 越前佳奈恵

16:00 ~ 17:30
病理組織検体のオミックス解析に基づくがんの個別化医療開発とその実装
慶應義塾大学医学部病理学教室 教授 金井弥栄

15:30 ~ 15:55
子宮で発症する癌とPtenの関係 ~マウスモデルを用いた解析~
金沢大学学際科学実験センター 教授 大黒多希子

本講演では、がん発症の病理診断に際して、病理組織検体を収集してバイオバンクを構築し、エシカルな主体とする多層的オミックス解析をもとにデータ駆動型がん研究を行ってきた最新の経験を紹介する。
特に炎症性癌組織検体を用いることが研究であるので、日本病理学会が行ってきた「ゲノム研究用癌組織検体採取の取組」に関する最新の動きを紹介する。
さらに、「バイオバンク」遺伝子のDNAメチル化異常は腫瘍発生の発がん早期に普遍的な事象で、胃・結腸における発がんの「ドライバー」効果の本質はDNAメチル化異常であり、結腸がんの多段階発生過程でドライバー変異の前駆体におけるDNAメチル化異常が腫瘍発症を決定することを示す。発癌前がん状態では、DNAメチル化プロファイルに基づいて予後不良群を識別し、多層のオミックス情報を統合してその診断的価値を向上させた。単一のコルモロモロ発症前から診断可能なリスク診断、DNAメチル化診断の実用化も望まれる。
最後に、データ駆動型研究成果の医療実用化ならびにゲノム医療実現の急速な動きがあり、クリニカルシーケンズから得る治療法を最大にするための病理診断の役割について解説したい。

主催:金沢医科大学病理学!
共催:北信がんプロ・金沢大学がん進展制御研究所・HWRN

日時:平成29年11月21日(火)15時から
金沢医科大学 基礎研究棟3階大学院セミナー室
各大学・施設テレビ会議室

お問い合わせ:
金沢医大事務局 (大学院担当)
g-gakuin@kanazawa-med.ac.jp




第29回腫瘍病理セミナー (北信がんプロ共催)

「小児脳腫瘍における分子メカニズム解析」

2017年12月13日(水) 18:00-19:30
金沢医科大学 基礎研究棟3階 大学院セミナー室
(テレビ会議システムを利用して連携機関に配信されます)
京都大学大学院医学研究科 脳神経外科学 講師 荒川 芳輝 先生



小児脳腫瘍は小児がんの中で血液細胞由来の白血病に次いで多く、小児のがん関連死の大きな部分を占める。小児脳腫瘍の特徴は稀な腫瘍型が多く、その発生のメカニズムがあまりよく分かっていないために適切な治療がない。近年、次世代シーケンサーなどによる解析から、従来の病理組織診断とは異なった分類が行われるようになった。そこで、現在解析を進めている胚細胞腫、髄芽腫などの疾患の発生・進展における分子メカニズムについて、最近の知見について解説する。




連絡先: 金沢医科大学 病理学 | 平田 英周
ehirata@kanazawa-med.ac.jp

がん拠点病院と連携したFD研修会

第37回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 平成29年6月29日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「大腸がん化学療法の現況と展望」
 九州大学大学院 連携病態修復内科学講座 教授 馬場 英司先生

座長: 井口 雅史先生 (金沢大学附属病院 乳腺科)
「乳がん治療の最前線」
 愛知県がんセンター中央病院 乳腺科 部長 岩田 広治先生

共催: 金沢大学附属病院、株式会社ヤクルト本社、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン
 後援: 石川県病院薬剤師会

問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

第38回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

(合同開催: 第20回クリニカルパス大会)

日時 平成29年11月9日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 伏田 幸夫先生 (金沢大学附属病院 胃腸外科)
「医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用」
 千葉大学医学部附属病院 医療の質向上本部 地域医療連携部特命医員 教授 小林 美亜先生

座長: 井口 雅史先生 (金沢大学附属病院 乳腺科)
「乳がん治療としての乳房再建～広がる選択肢～」
 聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科 教授 津川 浩一郎先生

共催: 金沢大学附属病院、アストラゼネカ株式会社、北信がんプロ
 後援: 石川県病院薬剤師会 (石川県病院薬剤師会認定シール) 1単位申請中)

問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

第39回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 平成30年3月1日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「がん患者の就労について」
 石川労働局労働基準部 健康安全課 課長 藤井 健人先生

座長: 熊野 智康先生 (金沢大学附属病院 放射線治療科)
「小線源治療」
 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 放射線科 医長 萬 篤憲先生

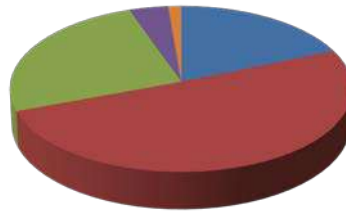
座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による肺癌治療」
 北里大学 呼吸器内科 教授 猪木 克彦先生

共催: 金沢大学附属病院、小野薬品工業株、後援: 石川県病院薬剤師会
 プリストルマイエーススクリプト株、北信がんプロ

問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

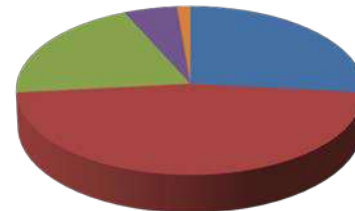
参加者へのアンケートの結果

11月9日開催分



クリニカルパスの講義

- 大変興味がある
- 興味がある
- 普通
- あまり興味がない
- 興味がない
- 無回答



乳がんの講義

- 大変理解しやすい
- 理解しやすい
- 普通
- やや理解しにくい
- 理解しにくい
- 無回答

がん拠点病院と連携した研修会(石川県)

H19年から39回開催: 2496名以上が参加

平成19年度

研修会名	日時	内容	参加者
第1回	平成19年6月17日(日) 13:00~15:00	分子標的薬剤による治療 Tumor Dormancy Therapy	不明
第2回	平成19年7月21日(日) 14:00~16:00	肺がんの外科的治療と化学療法 がんの発生、転移に関する病理学	不明
第3回	平成19年10月27日(土) 14:00~16:00	化学療法の基本 化学療法の臨床試験、抗癌剤の臨床薬理、抗腫瘍 効果判定など 放射線治療 放射線の基本、最新の治療法、ノバルス、リニアックなど	38名
第4回	平成19年11月24日(土) 14:00~16:00	がん性疼痛治療 強オピオイドによる疼痛治療 大腸がん 疫学、病態、病期毎の治療法選択、標準療法	52名
第5回	平成20年1月19日(土) 14:00~16:00	肺がん 分子標的治療の基礎と臨床 乳癌 診断から治療まで	64名

平成20年度

研修会名	日時	内容	参加者
第6回	平成20年5月17日(土) 15:00~17:30	脳腫瘍「最近の脳腫瘍治療指針」 泌尿器「泌尿器科の領域の悪性腫瘍」	64名
第7回	平成20年7月5日(土) 14:30~17:00	血液「造血器腫瘍の治療」 病理「がんの病理診断」	53名
特別講演会	平成20年7月30日(水) 18:00~19:30	命の終焉を愛するー在宅ホスピスにおける心のケア	88名
第8回	平成20年9月20日(土) 14:30~17:00	肝癌「診療ガイドラインから最新情報」 肺癌「肺癌の診断と内科的治療」	57名
第9回	平成20年11月16日(日) 13:00~15:30	婦人科「婦人科癌治療のup to date」 核医学「がん医療におけるアイソトープ診療のポテンシャル」	30名
第10回	平成21年1月25日(日) 13:00~15:30	胃「胃がんの up to date -病態から治療まで-」 栄養「消化器癌化学療法の前線」	42名
第11回	平成21年3月14日(土) 14:30~17:00	骨軟部「骨軟部腫瘍の診断と治療」 頭頸部「1時間でわかる頭頸部がん」	42名

平成21年度

研修会名	日時	内容	参加者
第12回	平成21年7月1日(水) 17:30~18:20	患者及びメディアからがん拠点病院とがんプロに期待するもの	74名
第13回	平成21年9月27日(日) 13:00~15:30	治療と並行する早期からの緩和ケア～チーム医療における看護師の役割～ 粒子線治療:兵庫の経験	15名
第14回	平成22年1月29日(金) 18:00~20:00	大阪府のがん診療連携拠点病院による統一型地域連携バス 腎癌の分子標的治療について	89名
第15回	平成22年2月27日(土) 14:30~17:00	国立がんセンターにおける通院治療センターの現状 精神腫瘍に関する緩和ケア	24名

平成22年度

研修会名	日時	内容	参加者
第16回	平成22年7月31日(土) 13:00~15:30	血液「多発性骨髄腫の診断と治療の進歩」 肺癌「肺癌の診断と内科的治療の現状」	33名
第17回	平成22年9月24日(金) 18:00~20:00	胃がん「胃癌の化学療法と副作用対策ー最近の臨床試験と制吐剤を中心にして」 緩和ケア「がん性疼痛に対する最新のペインコントロールーその有用性と注意点ー」	43名
特別講演会	平成22年10月8日(金) 17:30~19:30	緩和医療の課題と展望	83名
第18回	平成23年1月21日(金) 18:00~20:00	放射線治療 禁煙支援	91名

平成23年度

研修会名	日時	内容	参加者
第19回	平成23年7月14日(木) 18:00~20:00	陽子線治療 外来化学療法室	92名
第20回	平成23年9月30日(金) 18:00~20:00	クリニカルパス 栄養	56名
第21回	平成24年1月27日(金) 18:00~20:00	小児がん オンコロジーエマージェンシー	55名

平成24年度

研修会名	日時	内容	参加者
第22回	平成24年9月6日(木) 18:00~20:00	化学療法 ロボット手術	75名
第23回	平成24年11月2日(金) 18:00~20:00	がん検診 地域連携バス	65名
第24回	平成25年3月7日(木) 18:00~20:00	放射線治療 支持療法	82名

平成25年度

研修会名	日時	内容	参加者
第25回	平成25年7月25日(木) 18:00~20:00	がん研有明病院における腹腔鏡下胃切除の教育 外来化学療法のマネジメント	85名
第26回	平成25年11月8日(金) 18:00~20:00	「つらい場合はなうめ」におけるがん患者さんの声 当院におけるクリニカルパスの現状ーDPCデータに基づくパス改訂と地域連携ー	36名
第27回	平成26年2月20日(木) 18:00~20:00	積極的がん治療期における緩和ケア・支持療法 ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)が拓く、がん放射線治療の未来	63名

平成26年度

研修会名	日時	内容	参加者
第28回	平成26年7月24日(木) 18:00~20:00	切除不能肺癌、最強の化学療法 ビデオで見る胃癌手術とコメディカルによるそれぞれの癌治療アプローチ	102名
第29回	平成26年10月23日(木) 18:00~20:00	肺癌の新たな治療法について-2014アップデート- 電子カルテにおけるクリニカルパスの運用	66名
第30回	平成27年2月26日(木) 18:00~20:00	がん患者をとりまく就労の課題とその支援 ここまで進んだ免疫療法 肺がん診療における放射線治療へお役立ちのあれこれ	100名

平成27年度

研修会名	日時	内容	参加者
第31回	平成27年6月18日(木) 18:00~20:00	がん個別化治療を推進する病理・遺伝子診断の現状と課題 胃癌治療、私たちの取り組み	89名
第32回	平成27年10月22日(木) 18:00~20:00	遺伝子異常を有する希少肺癌に対する個別化治療の確立への挑戦 パスを通して実現するチーム医療	71名
第33回	平成28年3月10日(木) 18:00~20:00	がん患者の就労について 前立腺癌の放射線治療、治療の実態と晩期障害 肺癌薬物療法 updateーがん免疫療法の位置づけー	58名

平成28年度

研修会名	日時	内容	参加者
第34回	平成28年6月23日(木) 18:00~20:00	肺がん診療の真実:最新の診断と手術 胃癌化学療法の新展開	65名
第35回	平成28年11月17日(木) 18:00~20:00	NSCLCに対する治療戦略~新しい時代の幕開け~ クリニカルパスによる医療の標準化	71名
第36回	平成29年3月日(木) 18:00~20:00	働く世代のがん患者の支援:就労問題を中心に がん放射線治療の基礎になる放射線生物学の進展 ここまでわかってきたNivolumabの臨床とそのメカニズム	81名

平成29年度

研修会名	日時	内容	参加者
第37回	平成29年6月29日(木) 18:00~20:00	大腸がん化学療法の現況と展望 乳がん治療の最新線	66名
第38回	平成29年11月9日(木) 18:00~20:00	医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用 乳がん治療としての乳房再建~広がる選択肢~	97名
第39回	平成30年3月1日(木) 18:00~20:00	がん患者の就労について 小線源治療 長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による肺癌治療	87名

海外FD研修会(ワシントンDC)

メインテーマ **がんゲノム医療**

日程 H30年2月12日～17日

訪問先 国立ヒトゲノム研究所
(National Human Genome
Research Institute (NHGRI))
国立がん研究所
(National Cancer Institute)

参加者

	大学/病院	役職
1	金沢大学	特任助教
2	金沢大学	主任
3	金沢大学	薬剤師
4	金沢大学	助教
5	金沢大学	准教授
6	金沢大学	助教
7	金沢大学	准教授
8	信州大学	准教授
9	富山大学	講師
10	福井大学	助教
11	福井大学	准教授
12	金沢医科大学	教授

若手スタッフが
中心



海外FD研修会(メルボルン)



石川看護大
牧野智恵

メインテーマ **ライフステージに応じた先進的緩和ケア**

日程 H30年3月24日～30日

訪問先
 モナッシュ大学
 ビクトリア州保健福祉局
 ロイヤル・メルボルン病院
 モナッシュ・ヘルス
 エップワース・ヘルスケア

バンキシア・パリアティブケアサービス
 H30年度AMED新規応募課題

参加者

大学/病院	役職
1 石川看護大	教授
2 石川看護大	助教
3 石川看護大	教授
4 石川看護大	講師
5 石川看護大	講師
6 石川看護大	特任助手
7 金沢大	緩和ケア認定看護師
8 信州大	薬剤師
9 信州大	緩和ケア部門 教授
10 富山大	緩和ケア認定看護師
11 富山大	助教
12 福井大	緩和ケア認定看護師
13 福井大	副看護師長
14 金沢医科大学	講師



参加者は成果報告として、H30年度に北信がんプロのスタッフ対象にFD講習会を担当

発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

合同シンポジウム/国際シンポジウム

- ・目的: 大学院生、スタッフの情報交換・人材交流・国際化
- ・対象: 大学院生、教育・指導スタッフ
- ・方法: 他の教育プログラムとの合同開催

未来医療研究人材拠点形成事業「第三の道」
認知症プロフェッショナル(認プロ)
スーパードクター(信州大)
他のがんプロ拠点
金沢大学がん進展制御研究所
WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所(NanoLSI)

国際セミナー 「Beyond Targeting Oncogenes: Emerging Anti-Cancer Strategies」 9月26日開催 参加人数:87名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
国際セミナー

Beyond Targeting Oncogenes: Emerging Anti-Cancer Strategies

Tak W. Mak, Ph.D.

Director, The Campbell Family Institute for Breast
Cancer Research, Princess Margaret Cancer Centre,
University Health Network, CANADA

【日時】平成29年9月26日(火) 18:00~19:30
【場所】金沢大学医学部記念館
(2階プレゼンテーションルーム)

Tak Mak博士は、免疫学、細胞生物学、がん生物学領域で、数多くの卓越した業績を挙げられ、現在も最先端の研究を精力的に推進している世界的に著名な研究者です。また、最近、免疫や代謝などに関する基礎研究を進展させ、新たながん治療法の開発、創薬研究にも力を入れておられます。この度、日本癌学会より、名誉会員の称号が授与されることとなり、来日を機に、本学で講演いただけることとなりました。奮ってご参加ください。

金沢大学がん進展制御研究所
所長 平尾 敦
(連絡先: 渡辺子 染色体研究分野 内線6755)

主催: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
金沢大学がん進展制御研究所(がん研セミナー)



特別講義 「臨床研究事案から学ぶCOI管理」 10月26日開催 参加人数:107名 未来医療事業と共催

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
北信がんプロ

「臨床研究事案から学ぶCOI管理」 特別講義

このことについて、下記の通り開催いたします。
聴講される教職員、学類生、大学院生は、直接会場までお越しください。

記

日 時 : 平成29年10月26日(木) 17:00~18:30
場 所 : 外来診療棟4階 金大病院CPDセンター
講 師 : 徳島大学名誉教授 / 徳島市病院局・病院事業管理者
曾根 三郎 先生

CONFLICT OF INTEREST

< 共催 >
金沢大学附属病院先端医療開発センター

※ 本講義は金沢大学附属病院先端医療開発センターが認定する平成29年度
第5回「人を対象とする医学系研究実施のための講習会」として実施されます。

未来医療研究人材養成拠点形成事業

※ メディカル・イノベーションコースでは、毎週木曜日17:00より講義を行っています。
興味のある方、スキルアップをお考えの方などご自由に聴講下さいませ。

医療保健系事務部内
☎ 076-265-2869

CONFLICT OF INTEREST

がん進展制御研究所 50周年記念国際シンポジウム 10月25日開催 参加人数:221名

金沢大学がん進展制御研究所
**50周年記念
国際シンポジウム**
Cancer Research Institute,
Kanazawa University
The 50th Anniversary International Symposium

Venue
Kanazawa Tokyu Hotel
Date
25 October 2017

13:00-15:50 International Symposium

Nick Barker
AT STAR Institute of Medical Biology, Singapore
Cancer Research Institute, Kanazawa University, Japan
Lgr5⁺ stem cells in epithelial homeostasis, regeneration and cancer

David Virshup
Program in Cancer & Stem Cell Biology, Duke-NUS Medical School, Singapore
Exploiting Wnt secretion pathways for therapeutic benefit

Seong-Jin Kim
Precision Medicine Research Center, Advanced Institutes of Convergence and Technology, Seoul National University, Korea
Lessons learned in translating preclinical studies in TGF- β kinase inhibitor drug development. Rationale for combinatorial therapy regimens

Da-Qiang Li
Shanghai Cancer Center & Institutes of Biomedical Sciences, Shanghai Medical College, Fudan University, China
Epigenetic silencing of RNF144A promotes breast cancer progression by enhancing the stability of HSPA2 protein

Seiji Yano
Cancer Research Institute, Kanazawa University, Japan
Mechanism and circumvention of targeted drug resistance in central nervous system metastasis

10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会

10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会

国際シンポジウム 「Joint international symposium 2017」 11月8日開催 参加人数:100名

Joint international symposium 2017
free entrance

DATE
November 8 wed 15:00~

PLACE
Kanazawa University School of Medicine Memorial Hall 2F

[15:00] Opening remarks (Host: Yu Yamazaki, President of Kanazawa University)
[15:05] Genma University remarks
[16:10] Project introduction (Chairperson: Seigo Hirayama, Professor and Project Leader, Department of Nuclear Medicine)
Our performance over 5 years and our hope for the future

Special lecture 1
[15:30] **Takahiro Uchida, MD, PhD** President & CEO, Japanese Organization for Medical Device Development, Inc.
Title: "More Japanese medical devices to the world"
(Chairperson: Takashi Yonezaki, Professor, Institute of Liberal Arts and Science)

Special lecture 2
[16:10] **Professor Claude Sardet, PhD** Director Montpellier Cancer Research Institute, University of Montpellier, France
Title: "Coordinated Controls of checkpoints and metabolism by E4F1: Toward novel synthetic lethal approaches to cancer vulnerabilities?"
[16:30] **Professor Jacques Collinge, PhD** Professor Montpellier Cancer Research Institute, University of Montpellier, France
Title: "Bioinformatics to uncover gene essentially and synthetic lethality in large data sets"
[16:50] **Dr. Peter Paul Yu, MD, FACP, FASCO** Physician-in-Chief Hartford Healthcare Cancer Institute, Hartford, Connecticut, USA
Title: "Accelerating Knowledge Generation in Cancer Genomics"
(Chairperson: Akimori Hara, Associate Professor, Department of Environmental and Preventive Medicine)

[17:10] Guidance session descriptions
[17:15] Break (Venue layout change)
[17:25] Guidance session (career advice for our students)
[18:25] Student comments
Guest comments
Project Leader comments
[18:50] Closing remarks
(Shigeki Ohtake, Trustee, Liberal Arts and Science and Hospital)

●Main Sponsors:
Kanazawa University, Kanazawa University
●Co-Sponsors:
Innovative Clinical Research Center, Kanazawa University (ICRC)
Pamela Carter Museum, Kanazawa University Hospital
Institute of Liberal Arts and Science
Cancer Drug Laboratory for Gender Equality, Kanazawa University
University of Frontier Science and Innovation
Frontier Science Initiative
University Project
Health Training (HST) Program
Health Professionals for Changing Needs of Cancer (HealthPro Gai-pro)



群馬大と共催

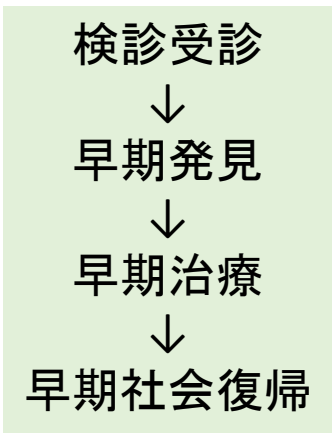
発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発**
- 8、今後の予定

合同市民公開講座

(参加人数:157名)

目的:市民への啓蒙
がん教育



の流れを作る

- ・年1回ずつ
- ・場所は毎年持ちまわり
- ・毎回全大学関係者が1名は出席
- ・順番は石川→福井→長野→富山



第1回北信がんプロ合同市民公開講座

がん になって 考える? になる前に

平成29年 10月29日(日)
14:00 ▶ 16:15
(開場・受付開始13:00)

入場無料
定員500名

金沢大学医学展と同時開催
金沢大学宝町キャンパス・十全講堂
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1

▶ 参加お申込みについては裏面をご確認ください ◀

清水 健 (元読売テレビキャスター)

- 2001年、読売テレビに入社し、アナウンサーとなる。
- 2015年、妻・幸緒さん、長男を出産した3か月後に、乳がんのため逝去。(享年29)
- 2016年、「112日間のママ」を小学館から刊行。

また、一般社団法人清水健基金を設立し、代表理事に就く。手記、講演会の収益などは、入院施設の充実、がん検測、難病対策などへの団体へ寄付している。

開会 開会挨拶 山崎 光悦 (金沢大学長)

第1部

北信がんプロってなんだ?

座長 小泉 知展 (信州大学包括的がん治療学教授)

演者 矢野 聖二 (金沢大学附属病院がんセンター教授
北信がんプロ統括コーディネーター)

第2部

最新のがんの診断や治療を理解しよう!

座長 片山 寛次 (福井大学がん診療推進センター教授)
岩城 直子 (石川県立看護大学成人看護学准教授)

講演1:「がんの薬物療法って
どんな意味があるの?」

元雄 良治 (金沢医科大学腫瘍内科学教授)

第3部

講演2:「免疫チェックポイント
阻害薬ってどんな薬?」

林 龍二 (富山大学附属病院臨床腫瘍学教授)

講演3:「必ず受けよう がん検診!」

加藤 駿一 (金沢大学医学類2年)
田中 大貴 (金沢大学医学類5年)

特別講演 『大切な人の「想い」とともに』
~112日間のママ~

座長 蒲田 敏文 (金沢大学附属病院長)
和田 真由美 (前の会 代表)

演者 清水 健 (元読売テレビキャスター)

開会 開会挨拶 大竹 茂樹 (金沢大学理事)

主催 北信がんプロ (超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成)、
金沢大学医学実行委員会、北信新聞社

共催 石川県がん診療連携協議会、金沢大学がん進展制御研究所、
金沢大学附属病院がん診療推進センター、北信がん研究推進協議会、
北信がん研究推進協議会、北信がん研究推進協議会、
未来医療研究人材養成拠点形成事業

後援 石川県、金沢市、石川県医師会、金沢市医師会、
石川県看護協会、テレビ金沢、エフエム石川、
金沢ケーブルテレビネット、北陸放送

お問い合わせ先 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (北信がんプロ事務局)
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科内
TEL:076(265)2854、076(234)4205 FAX:076(265)2855
http://www.gan-pro.net/ Eメール: gpro@msd.kanazawa-u.ac.jp



第1回 北信がんプロ市民公開講座 がんになって考える？ がんになる前に考える？

北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」は10月29日、第1回の信州市民公開講座を金沢大学宝町キャンパスの十全講堂で開催しました。出席講演者ががんの診断と治療について解説し、来場者はがん治療の「今」に理解を深めました。



ごあいさつ
山崎光悦氏
金沢大学長

がんプロは文部科学省が定める教育修習経験者による多様な働き方によるがん医療人育成事業です。これまで約10年、北信の5大学が連携して活動してきましたが、3期目となる今年度は信州大学が加わりスタートします。

今や国民の2人に1人ががんを患う時代です。がんプロの主旨は医療人材の養成であり、市民の健康にもがん医療の最前線を知っていただければ幸いです。

第1部

北信がんプロってなんだ？
矢野 聖一氏
北信がんプロ推進協議会幹事長

がん医療の質を向上させる「がんプロ」がスタートしたのは、平成20年です。現在、全国50以上の大学で運営されています。北信がんプロはその一つで、北信地域の教育・医療関係者によるがん医療の質を向上させるための取り組みです。



がん医療の質を向上させる「がんプロ」がスタートしたのは、平成20年です。現在、全国50以上の大学で運営されています。北信がんプロはその一つで、北信地域の教育・医療関係者によるがん医療の質を向上させるための取り組みです。

最新の治療・診断に理解 技術向上で負担は最小限

第2部

講演1

がんの薬物療法って どんな意味があるの？

元 磯 良治氏
北信がんプロ推進協議会幹事長

講演2

免疫チェックポイント 阻害薬ってどんな薬？

林 能一氏
北信がんプロ推進協議会幹事長

講演3

必ず受けよう！ がん検診！

加藤 駿一さん
田中 大興さん
北信がんプロ推進協議会幹事長

治療・共存に効果的

がんの薬物療法は点検や内服薬などによって薬物を行き渡らせる全身療法で、薬剤の種類にかかわらず実施時期によって次の3つに分類できます。

① 外科手術前に薬物を投与して、手術による負担や切除範囲を小さくする術前化学療法。② 手術後、日に見えないがん細胞を駆逐して再発を予防する術後補助化学療法。③ 症状が再発や切除不能ながんの進行遅延、生活の質を向上させる進行・再発期の薬物療法です。

これらの薬物療法にはそれぞれ特徴があります。例えば、術前化学療法は患者さんのがんの進行を遅延させる効果があります。

がん細胞の盾を除く

免疫チェックポイント阻害薬は、がん細胞の免疫抑制を解除し、免疫細胞ががん細胞を攻撃できるようにします。

免疫チェックポイント阻害薬は、がん細胞の免疫抑制を解除し、免疫細胞ががん細胞を攻撃できるようにします。

早期発見が命を守る

がん検診は、がんを発見し、早期治療を受けることで、生存率を向上させることができます。

がん検診は、がんを発見し、早期治療を受けることで、生存率を向上させることができます。

「大切な人の「想い」とともに」～112日間のママ～ 「一人じゃない味方はいる」

清水 健氏
元プロ野球選手

妻・奈緒の闘病が分かったのは、昨年11月でした。それ以来、20日間の闘病生活が、私にとって、人生最大の試練となりました。

妻・奈緒の闘病が分かったのは、昨年11月でした。それ以来、20日間の闘病生活が、私にとって、人生最大の試練となりました。

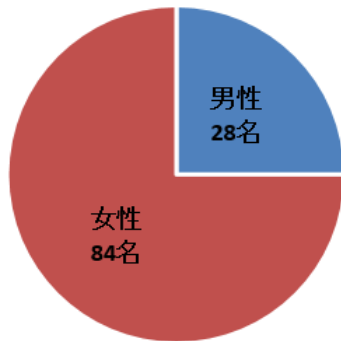


清水 健氏
元プロ野球選手

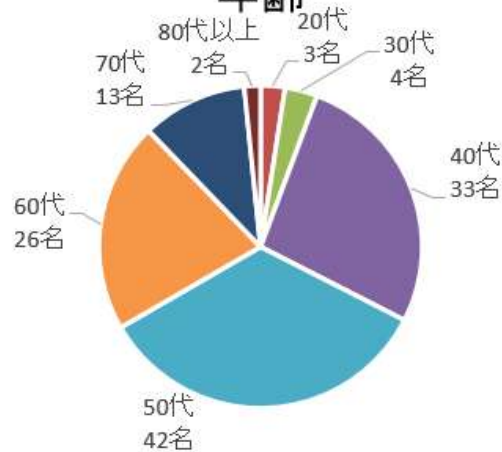
合同市民公開講座での参加者の声

アンケート結果

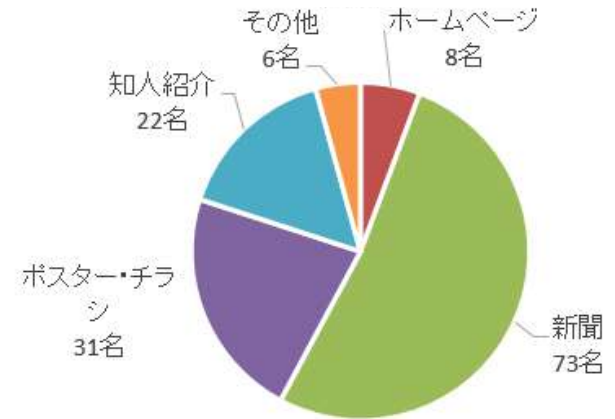
性別



年齢



開催を何で知ったか



参加者の意見

性別	年齢	居住地	聞きたいテーマ	フリーコメント
女性	40代	石川県	がんの予防	免疫チェックポイント阻害薬のお話は興味深い内容でした。清水さんの講演は感動でした。とても熱く語られて、心に響きました。
男性	60代	石川県	前立腺がん	田中君と加藤君の説明は分かりやすかったよ。これからも患者を助けるためガンバレ！清水さんの言葉、VTR涙が出ました。私たちは何も出来ませんが、心から応援します。今日の講演忘れません。皆に話します。頑張れ清水さん。

「がん化学療法（抗がん剤治療）における 腫瘍内科医の役割」

日時：2017年11月12日（日） 13時～15時（開場 12：30～）

会場：信州大学旭総合研究棟 9階 講義室 A B
（信州大学松本キャンパス）

参加無料
申込不要

総合司会：信州大学医学部 外科学第二
乳腺内分泌・呼吸器外科学部門 教授 伊藤 研一 先生

◇長野県における腫瘍内科医の現状と育成◇

信州大学医学部附属病院 信州がんセンター長 小泉 知展 先生

◇多職種で行うがん化学療法◇

相澤病院 がん集学治療センター化学療法科統括医長 中村 将人 先生

◇緩和ケアから始めるがん化学療法◇

伊那中央病院 腫瘍内科 部長 竹内 信道 先生

◇臓器横断的に行うがん化学療法◇

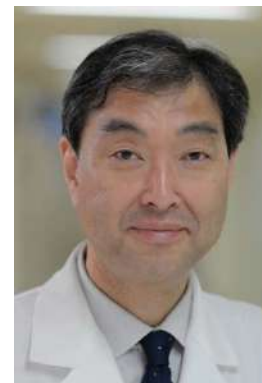
長野赤十字病院 腫瘍内科部 副部長 上野 真由美 先生



旭総合研究棟外観



信州大



小泉知展

がん化学療法における
腫瘍内科医の役割
（参加人数:70名）

◇後援◇
多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONAL）」
養成プラン（北信がんプロ）

◇問合せ先◇
長野県がん診療連携協議会事務局

TEL：0263-37-3391 FAX：0263-37-2854 E-mail：sca@shinshu-u.ac.jp



トップ

北信がんプロ紹介

患者様・一般の方へ

医療従事者の方へ

受講者向け情報

受講者募集

事業成果と評価

戦略的がん
医療人養成
システムの構築



受講者募集

北信がんプロ
市民公開講座

オンコロジー
セミナー

ライフステージ
事例検討会

お知らせ

プレス 告知

北信がんプロNEWS1月号を発行いたしました。【登録日：2018/02/22】

開催日：2018/03/26 イベント 告知

北信がんプロ第2回オンコロジーセミナー（富山大学）を開催いたします 【登録日：2017/12/26】

開催日：2018/02/24 イベント 告知

薬剤師の立場からゲノム医療や在宅治療を学ぶための講義と実習を富山大学で実施します 【登録日：2018/02/05】

開催日：2018/02/24 イベント 告知

北信がんプロホームページ (トップページ)



受講者募集 北信がんプロ 市民公開講座 オンコロジー セミナー ライフステージ 事例検討会

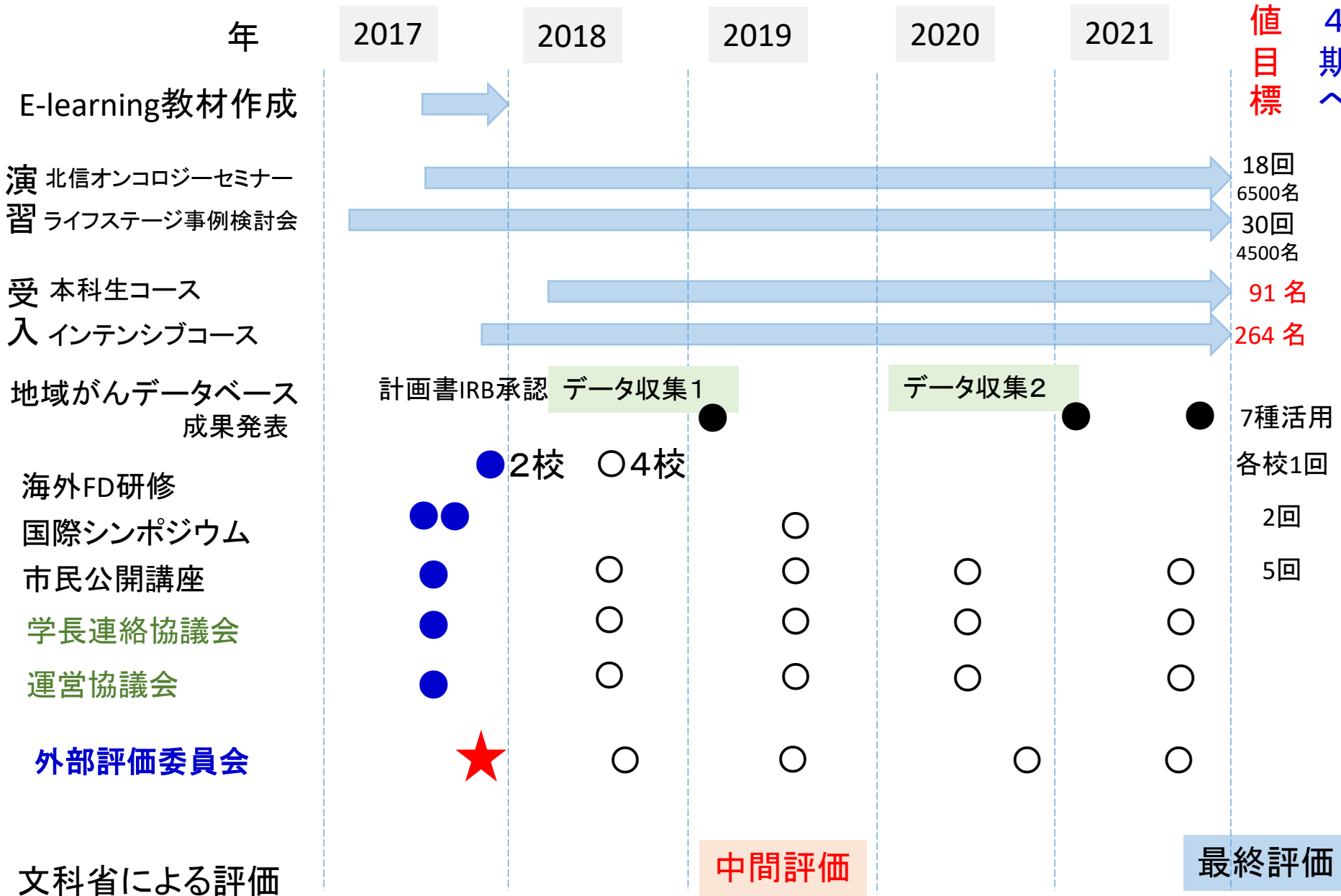


発表内容

- 1、北信がんプロの背景と概要
- 2、実施体制
- 3、教育コースと講義内容
- 4、地域がんデータベース
- 5、スタッフ研修
- 6、人材交流、合同シンポジウム
- 7、市民啓発
- 8、今後の予定

北信がんプロ全体の今後のスケジュール

数
値
目
標
第
4
期
へ



来年度の取組み

- ・本科生コースの開設 大学院生の受入れ
- ・インテンシブコースでの受講生の受入れ
- ・E-learning教材、多職種連携セミナーの充実化
北信オンコロジーセミナー(H30年度4回開催)
ライフステージ事例検討会(H30年度12回開催)
- ・地域がんデータベースの構築
院内がん登録データの活用
- ・スタッフ研修(海外FD研修)
H29年度海外FD研修の成果報告・H30年度海外FD研修実施
- ・他の人材養成プログラムとの共催イベント
国際シンポジウム・合同シンポジウム
- ・合同市民公開講座の実施
H30年度 福井県で開催

教育コースの
本格稼働！

今年度の活動を
さらに発展！



北信がんプロ

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

今後ともよろしく願いいたします

信州大学大学院医学系研究科における 第Ⅲ期がんプロ

活動報告

信州大学医学部がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
コーディネーター

小泉 知展
包括的がん治療学

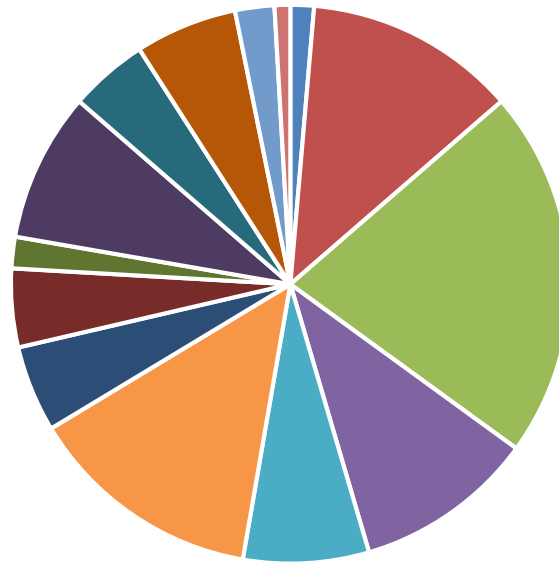


信州大学のこれまでの実績および第Ⅲ期がんプロへの準備体制

- 第Ⅱ期がんプロで新規講座を設立し、研究・診療ができる体制を整えた
希少がん(肉腫、AYA世代の希少がんの診療が可能)を扱う診療体制の構築済み
- 小児長期フォローアップ外来を平成26年から開始し、実績がある
小児科教室に、血液悪性腫瘍の専門家中沢教授が着任
- クリニカルシーケンスを開始した
ゲノム医療推進に向けて、若手医師への診療・研究ができる体制を構築
ゲノム医療に精通できる環境整備
- 遺伝子診療部(現;遺伝子医療研究センター)で、家族性腫瘍(特に多発内分泌腫瘍)
やHBOCでの診療・遺伝子検査およびカウンセリングの実績がある
- 10年以上の遺伝子カウンセリング育成コース(修士課程)の実績
- 「がんのゲノム医療・集学的治療推進事業」として、信大病院は
遺伝カウンセラー1名の増員を得た実績
- 「難病克服！次世代スーパードクターの育成プラン」に信大病院は採用されている

新規教室の診療部門に相当する信州がんセンターの病床稼働率

2015年信州がんセンター延べ入院患者の疾患別内訳



- 脳腫瘍
- 頭頸部
- 肺癌
- 縦隔・胸腺腫瘍
- 食道癌
- 胃癌
- 小腸大腸直腸
- 肝胆膵
- 腹膜癌・卵巣
- 原発不明
- 肉腫
- 悪性リンパ腫
- 骨髄腫
- その他

信州大学における教育コース

信州大学は以下の2コースを設定


(博士課程) がんゲノム医療に精通する医師養成コース
(募集人数：毎年2名)

遺伝性のがん、希少がんの診療経験とゲノム解析、それからクリニカルシーケンスの実施・解析ができ、小児から高齢者まで、幅広い年代の患者を診療できる医療人の育成を目指す

(修士課程) がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース
(募集人数：毎年1名)

講義と実習を通じて、がんゲノム医療領域に特化した認定遺伝子カウンセラーの受験資格取得を目指す

E-learning教材の作成状況（信州大学）

がんゲノム医療の実際:3 家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん) 担当:古庄先生・小島さん	・遺伝性腫瘍総論		PPT完成 著作権チェック済み
	・遺伝性腫瘍各論		現在、順次撮影中 3月中にサイトにアップ予定
	・遺伝カウンセリング		
	・ゲノム医療における先制医療		
晩期合併症と長期フォローアップの問題点(1) 担当:盛田先生・小岩井先生	・小児がんサバイバーの晩期有害事象(総論)		PPT完成 著作権チェック済み
	・晩期有害事象のフォローアップとその問題		現在、順次撮影中 3月中にサイトにアップ予定
	・二次がん		
	・放射線治療と晩期合併症		
晩期合併症と長期フォローアップの問題点(2) 担当:宮本先生・岡先生・小岩井先生・盛田先生	・小児がんサバイバーの社会的問題		
	・小児がん治療における性腺機能障害		PPT完成 著作権チェック済み
	・婦人科がん治療における性腺および妊孕能への影響		現在、順次撮影中 3月中にサイトにアップ予定
	・放射線治療における性腺機能障害		
	・女性がん患者の妊孕性温存方法と不妊治療		
小児・AYA世代腫瘍各論2(この時期に起きる成人腫瘍) 担当:小泉先生	・男性がん患者の妊孕性温存方法と不妊治療		
	・4月以降サイトにアップ予定		

北信がんプロ第一回オンコロジーセミナー

北信がんプロ 第1回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、
薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時	会場
2017年12月8日（金） 18：00～20：00	医学部 基礎棟5階 第2会議室

プログラム

症例検討1（担当：金沢大学がんセンター）

オシメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示した
T790M陽性EGFR変異肺がんの2症例

症例検討2（担当：信州大学信州がんセンター）

子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえた
ALK肺がんの一例

特別講演 演題「がん研究が導くゲノム医療」

東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野教授
国立がん研究センター 理事・研究所長

問野 博行 先生

問い合わせ先

・ご不明な点は所属大学の学務担当
係または北信がんプロ事務局にお問
い合わせください。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ事務局

[金沢大学大学院医薬保健学総合研究科内]

〒920-8640 金沢市宝町13-1

TEL 076(234)4205/(265)2854 FAX 076(265)2855



E-mail gpro@med.kanazawa-u.ac.jp <http://www.gan-pro.net/>

信州大学から症例提示

参加人数 7名

オンコロジーセミナー
ご参加の皆さまへ
の
ち
の
お
り
ま
す
！

他大学の企画への参加状況（信州大学）

➤ ライフステージ事例検討会

参加回数：3回（2/20現時点）

参加人数：32名

30年度も全8回の参加を予定しています

➤ FD研修・講演会

参加回数：4回

参加人数：20名（全4回）

➤ 海外FD研修会

平成29年度 ワシントンDC（金沢大学） 1名

メルボルン（石川看護大学） 2名 参加

平成30年度 富山大学と金沢医科大学が計画している研修に
各1名参加予定

信州大学は平成31年度実施予定

地域がんデータベース研究(信州大学)

- 現在北信地域の院内がん登録状況の情報を収集に協力し、金沢大学の倫理委員会に申請中
- 長野県における院内および全国がん登録から見たがん情報の解析結果を学会で報告

小泉知展他 院内がん登録からみた長野県の肺癌の特徴
第68回長野県医学会 2017年7月23日

齋藤知子他 がん診療連携病院における院内がん登録からみた長野県の肺癌
第26回 日本がん登録協議会学術集会 2017年6月8-10日

田仲百合子他 がん登録からみた長野県の前立腺がん
第26回 日本がん登録協議会学術集会 2017年6月8-10日

市民公開講座（信州大学附属病院との共同開催）



- ◆ 乳がん - 早く見つけて治しましょう - 開催日：6月1日 参加人数 62人
- ◆ がんと生きる～暮らしとの両立のために～ 開催日：8月31日参加人数 85人
- ◆ がん化学療法（抗がん剤）における腫瘍内科医の役割
開催日：11月12日参加人数 70人
- ◆ 肺がん内科治療～個別化治療のために～ 開催日：2月15日参加人数 71名

附属病院（信州がんセンター）としての企画

地域医療者へのがんに関する情報発信・啓発運動

都道府県がん診療連携拠点病院 医療者研修会

信大病院における がんゲノム医療推進の試み

日時 平成30年3月4日（日）
14：00～16：00（開場13：30）

場所 信州大学医学部附属病院
外来棟4階 大会議室

対象 医療従事者の方

参加無料 **申込不要**


プログラム

- 1、信大病院におけるクリニカルシーケンスの導入
古庄 知己 先生 信州大学医学部附属病院 遺伝子医療研究センター
- 2、LC-SCRUM Japanについて
小泉 知展 先生 信州大学医学部附属病院 信州がんセンター
- 3、遺伝性乳がん卵巣がん症候群
伊藤 研一 先生 信州大学医学部附属病院 乳腺・内分泌外科
- 4、がん遺伝カウンセリングの役割と育成
小島 朋美 先生 信州大学医学部 遺伝子医学・予防医学教室

◆第3期がん対策推進基本計画では、ゲノム医療の推進が挙げられています。
◆信州大学医学部附属病院におけるゲノム医療推進への試みと体制づくりを紹介し、国内のがんゲノム医療推進の動向も紹介します。

主催：信州大学医学部附属病院 信州がんセンター
共催：多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（北信がんプロ）

問合せ先：信州大学医学部附属病院 医療支援課医療連携係
〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL：0263-37-3391 FAX：0263-37-2854
E-mail：sca@shinshu-u.ac.jp



医療者のための緩和ケア講演会

答えのないときどうするか？ 終末期の鎮静を中心に

講師：余宮 きのみ 先生
埼玉県立がんセンター 緩和ケア科 科長

日時：平成30年3月20日（火）
18：30～20：00

場所：信州大学医学部附属病院 外来棟 4階 大会議室

対象：医療関係者
*車でお越しの際は病院駐車場をご利用ください。
駐車場利用料200円をご負担いただきます。

参加無料 **申込不要**



講師紹介

- ◆専門分野
緩和ケア・がん諸症状の緩和、がん終末期のリハビリテーション
- ◆資格
日本緩和医療学会 専門医
日本緩和医療学会 がん疼痛薬物療法ガイドライン作成委員会副委員長
日本緩和医療学会 評議員・ガイドライン作成委員会副委員長
日本臨牀学会 腫瘍診療ガイドライン改訂委員会委員
日本癌治療学会 診療ガイドライン委員会 協力委員
厚生労働省 医療用医薬品適正使用ガイダンス作成委員
星薬科大学非常勤講師
- ◆著書紹介
「ここが知りたかった緩和ケア」（南江堂）
「がん疼痛緩和の薬が分かる本」（医学書院）
「よい質問から広がる緩和ケア」（南江堂）



主催：信州大学医学部附属病院 緩和ケアセンター
問い合わせ先：信州大学医学部附属病院 医療支援課 医療連携係
〒390-8621 松本市旭3-1-1
Tel：0263-37-3391（直通） E-mail：sca@shinshu-u.ac.jp



がんプロ所属院生の参加を要請

附属病院内で行われるカンサーボード開催(平成30年度分)

開催日	名称	参加数	演者等
平成29年4月24日	①縦隔原発のGrowing Teratomaの1例 ②貧血・黒色便で発症した十二指腸癌の1例	35	①信州がんセンター ②消化器内科
平成29年5月22日	①脳転移を来したALK遺伝子転座陽性非小細胞肺癌の治療例 ②エピルピシンの血管外漏出に対して、デクスラゾキサンを使用した1例	29	①呼吸器・感染症・アレルギー内科 ②乳腺・内分泌外科
平成29年6月26日	①放射線照射直後に再燃した微小な骨髄浸潤を伴う孤立性形質細胞腫の1例 ②低侵龍脊椎固定術後PSの改善が認められた化学療法を継続しえた乳癌の1例	35	①血液内科 ②整形外科
平成29年7月24日	①相澤病院と連携し陽子線治療を施行した小児悪性腫瘍の3例 ②脳室内に発生したhemangiopericytomaの1症例	29	①小児科 ②脳神経外科
平成29年8月28日	①術前化学療法が奏功し、完全切除し得た胸腺癌の1例 ②分子標的薬治療後に頭蓋底穿孔を来した腎癌頭蓋底転移の1例	26	①呼吸器外科 ②泌尿器科
平成29年9月25日	①随伴性膵炎により脾動脈瘤破裂をきたし、治療に難渋した非切除膵頭部癌の1例 ②術前化学療法により妊娠期間を延長し、生児を得た子宮頸部腺扁平上皮癌の1例	31	①消化器外科 ②産科婦人科
平成29年10月23日	①ベキサロテン(タルグレチン®)を投与した菌状息肉症の1例 ②心疾患既往のある下咽頭癌症例の治療方針について	26	①皮膚科 ②頭頸部がん領域(耳鼻咽喉科)
平成29年10月30日	17歳の横紋筋肉腫症例の治療について	24	整形外科(臨時)
平成29年11月27日	①Pegfilgrastim投与後に高熱、CRP上昇と動脈炎所見を認めた1例 ②Hyperleukocytosisを呈した小児血液腫瘍の6例	32	①乳腺・内分泌外科 ②小児科
平成29年12月25日	①Malignant Fungating Woundを伴う巨大殿部悪性軟部腫瘍の1例 ②胸腺腫関連GVHD様皮疹を発症し、在宅医療連携を行っている一例	38	①整形外科 ②信州がんセンター

がんプロ所属修士・大学院生の修学の一環として参加
担当診療科の場合にはプレゼンターとして参加

がんプロ所属大学院生の渉外活動

- 毎年開催されるリレーフォーライフ(がん患者支援企画)に 大学院生に企画・運用から参加・関与させ、他大学院生も当日参加を要請



リレーフォーライフ 松本

その他渉外活動

信州大学がん哲学外来 in 軽井沢

開催日：9月9日 参加人数 14人

9月3日 子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う in 長野」

開催日：参加人数 2000人

日本臨床腫瘍学会 第8回北信越地区セミナー

開催日：12月2日 参加人数 20人

信州大学におけるがんプロの 目標および指導体制

- 長野県立こども病院との連携を含めて、がんプロ院生には小児から成人までの多がん種の臨床研修
- ゲノム医療への経験と習得
- 他職種を含めたチーム医療の重要性を習得
- 研究探究心をもった診療姿勢および研究テーマの発掘
- 患者支援事業への参加・積極的関与

北信がんプロ外部評価委員会資料

富山大学

附属病院臨床腫瘍部

林 龍二

(平成30年2月20日現在)

1. 教育コースの内容・受け入れ状況(今後の予定)

【インテンシブコース】												
教育コース	概要	H29年度 受入人数	対象	受入開始	H29受入予 定者数	H30受入予定 者数	H31受入予 定者数	H32受入予定 者数	H33受入予 定者数	合計		
高齢がん患者対策 専門コース	<p>超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成に基づき、がんのチーム医療進展に寄与するための人材養成を目的としています。</p> <p>北信4県(富山県、石川県、福井県、長野県)で導入されているテレビ会議システムを利用し、そこでの議論を通して、より良いチーム医療の「あり方」を学ぶ内容により成り立っています。北信がんプロオンコロジーセミナー、e-learning教材によって学び、地域がん医療の多職種ネットワークの連携・充実の具体的事例とその必要性について学んでいきます。</p> <p>本コースでは、高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療の実現や、本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医やスピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にもむきあえる医師を養成します。</p>	2	医師	平成29年10月～	2	2	2	2	2	10		
個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	<p>本コースは、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成プランに基づき、がんのチーム医療の進展に寄与するための人材養成を目的としておりe-ラーニングとテレビ会議による講義とスクーリングによる実習、演習から成り立っています。</p> <p>大学院で実施する講義および実習、演習は、がん専門薬剤師に関わる職能を修得しようとする人たちのために開講されるものです。そのコースを広く一般の薬剤師を対象に開放し、受講生のがん薬物療法に関する専門性を高める事をめざすものです。</p>	1	薬剤師	平成29年10月～	1	2	2	2	2	9		
在宅がん緩和リハビリテーションコース	<p>本コースは、超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成プランに基づき、がんのチーム医療の進展に寄与するための人材養成を目的としています。</p> <p>本コースは、北信4県で導入されているテレビ会議システムを利用し、大学・病院を結んで、そこでの議論を通して、よりよいチーム医療の「在り方」を学ぶ内容により成り立っています。北信がんプロオンコロジーセミナー、がんライフステージ事例検討会、e-learning教材によって学び、地域がん医療の多職種ネットワークの連携・充実の具体的事例とその必要性について学んでいきます。</p>	0	看護師	平成30年4月～	0	1	2	2	2	7		

インテンシブコースの受け入れは初年度医師コース2名、薬剤師コース1名の受け入れを完了した。次年度以降も積極的にコースの周知を学内外に諮り、受講者増加に努める。

【本科コースコース】

教育コース	概要	H29年度受入人数	対象	受入開始	H29受入予定者数	H30受入予定者数	H31受入予定者数	H32受入予定者数	H33受入予定者数	合計
高齢がん患者対策専門コース	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあつた診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。	-----	医師	平成30年4月～	0	4	4	4	4	16
個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。	-----	薬剤師	平成30年4月～	0	1	1	1	1	4

本科コースは今年度は準備期間とし、来年度より受け入れを開始する。大学院募集要項はすでに新たなものを作成済みで新年度からの受講生応募に備えている。

2. e-learning教材の作成状況

ほとんどの講師は講義スライドの作成を終えている。

	所属・診療科	講師氏名	チャプター名	概要	科目	収録
1	臨床腫瘍部	林 龍二	高齢者の臓器機能	高齢者における臓器機能低下と薬物療法の関係を理解し、臨床的応用について述べる事ができる。	ライフステージ	済
2	腎泌尿器科学	北村 寛	腎機能低下時の薬物療法	腎機能低下時に用量調節が必要な薬剤を知っており、実際に使用あるいは使用支援することができる。	ライフステージ	済
3	臨床腫瘍部	梶浦 新也	高齢者における緩和ケア	高齢者における緩和医療の特徴と問題点、その解決策を理解し、実践できる。	ライフステージ	
4	臨床腫瘍部	梶浦 新也	CGAに応じた治療法選択	CGAの測定結果に応じた治療方針決定の実例を学び、その意義と課題を理解する。	ライフステージ	
5	薬剤部(附属病院>薬剤部)	高橋 則正	高齢者に対する薬物療法における注意点	がん薬物療法を実施中の高齢患者の有害事象アセスメントについて学ぶ。	ライフステージ	
6	外科2 集中治療部	吉岡 伊作	フレイルにおける外科治療	高齢者を含めたフレイルティを有する患者の術前評価、手術適応、周術期管理を理解し、実際に手術あるいはその支援を実践できる。	ライフステージ	
7	第三内科	安藤 孝将	高齢者の機能評価 (Comprehensive geriatric assessment)	CGAの概念と意義を理解し、臨床応用について説明することができる。	ライフステージ	
8	第三内科	安藤 孝将	機能評価の実際とエビデンス	CGAについてのエビデンスと限界について理解し、CGAを実際に測定、解釈することができる。	ライフステージ	
9	第二外科	橋本 伊佐也	高齢者患者に多い合併症	高齢者患者手術の適応、術式、術後管理の違いを成人と比較しながら学び、社会生活の継続を可能にする治療について述べる事ができる。	ライフステージ	
10	神経精神医学	古市 厚志	高齢者と認知機能	認知機能を有する患者への対応と治療選択における問題点を理解し、その解決方法を考察し、説明することができる。	ライフステージ	
11	小児科	野村 恵子	白血病	小児・AYA世代に多い造血器腫瘍の種類、診断と治療、特に治療プロトコールの特徴と骨髄移植の適応、長期的な問題点について学ぶ	小児・AYA世代・希少がん	
12	小児科	西田 直徳	小児・AYA世代がん患者の家族ケア	家族が代理意思決定する際の支援、意思決定支援、親子関係・同胞との関係性	小児・AYA世代・希少がん	
13	薬学	田口 雅登	小児領域における薬物動態	小児がん患者に薬物投与をする際、成人との違い、注意点を学ぶ(薬学的な視点から)	小児・AYA世代・希少がん	
14	第二外科・小児外科	廣川 慎一郎	小児・AYA世代腫瘍各論 I 小児固形腫瘍(神経芽腫・腎芽腫・胚芽腫)	小児・AYA世代における小児固形腫瘍(神経芽腫、肝芽腫・腎芽腫など)の診断と治療について学ぶ	小児・AYA世代・希少がん	済
15	第二外科・小児外科	廣川 慎一郎	小児・AYA世代腫瘍各論 I 胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍(小児・AYA世代)	胚細胞性腫瘍・奇形腫群腫瘍の一般的な特徴、診断、治療と、年齢に応じた腫瘍の特徴と差異について学ぶ	小児・AYA世代・希少がん	

3. オンコロジーセミナー開催状況

平成29年度 北信がんプロオンコロジーセミナー出席人数表(富山大学)												単位:人	
回数 開催日時	担当	参加大学・病院名	大学院生	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	診療放射線技師	管理栄養士	臨床検査技師	その他	計	事務関係者
第1回		附属病院第2外科		3								3	2
29.12.8(金)		附属病院臨床腫瘍部		1								1	
18:00-20:00		附属病院薬剤部		1								1	
		計										5	2
第2回	○ 富山大学												
30.3.26(火)													
18:00-20:00													

第2回オンコロジーセミナーは当院担当であり、より多くの参加者が望まれる。

4. ライフステージ事例検討会開催状況

	回数 開催日時	発表	参加大学・病院名	大学院生	看護師	教員	その他	計	事務 関係者
1	平成29年 6月6日(火) 17:45-19:15	○	富山大学		8	2		10	1
2	平成29年 7月4日(火) 17:45-19:15		富山大学	4		3		7	1
3	平成29年10月3日(火) 17:45-19:15		富山大学	3		3		6	1
4	平成29年11月7日(火) 17:45-19:15		富山大学	2	1	1		4	1
5	平成30年 2月6日(火) 17:45-19:15		中止						
6	平成30年 3月6日(火) 17:45-19:15		富山大学						

看護師・大学院生が積極的に参加している。

5. FD研修会・講演会 開催状況

開催日時	行事名	項目	職種別	参加者数	備考
平成29年9月18日	北信がんプロキックオフミーティング 学長連絡協議会・運営協議会 特別講演	協議会・講演会	学長, 医師, 運営協議会関係者	4	
平成29年9月30日～10月1日	がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会	教育セミナー	医師	4	
平成29年10月11日	北信がんプロFD(金沢医科大学)	FD	医師, 教員, 学生	13	
平成29年10月28日	平成29年度北信がんプロ人材育成セミナー	教育セミナー	看護職・保健福祉介護関係者	80	
平成29年11月21日	北信がんプロFD(金沢医科大学)	FD	医師, 教員	2	
平成29年12月13日	北信がんプロFD(金沢医科大学)	FD	医師, 薬剤師	4	
平成29年12月16日～17日	エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座in富山	教育セミナー	医療・介護・福祉従事者	100	
平成30年1月26日	北信がんプロFD(金沢医科大学)	FD	医師	2	

本学で多くの教育セミナーを開催している。

6. 海外FD研修 参加・開催状況

開催期間	参加大学・病院名	大学院生	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	診療放射線技師	管理栄養士	臨床検査技師	その他	計
金沢大学主催 北信がんプロ アメリカ研修 2018年 2.12-2/18	附属病院第2外科		1								1
石川県立大学 北信がんプロ オーストラリア研修 2018年3/24-3/30	附属病院臨床腫瘍部		1								1
	附属病院看護部					1					1

がんプロ事業ならではの企画で参加者から好評を得ている。ぜひ来年度以降も継続を望む。

7. 地域がんデータベース進行状況

- 病院内での協力体制は構築済み。研究計画を作成中。

8. 市民公開講座の開催状況

開催日時	行事名	職種別	参加者数	備考
平成29年10月29日	第1回北信がんプロ市民公開講座「がんになって、がんになる前に考える？」	医師	1	演者:林 龍二「免疫チェックポイント阻害薬ってどんな薬？」
平成29年12月16日	富山大学附属病院市民公開講座「大きく変わった消化器がん治療と予防」	一般市民	317	
平成30年2月18日	富山大学附属病院市民公開講座「緩和ケア市民公開講座 私が、がんになるなんて」	市民・医療関係	300	
平成30年3月3日 (予定)	富山大学附属病院市民公開講座「がん患者と家族のための講演会 学ぼう新しいがんの知識 ダヴィンチで新時代の手術へ」	市民・医療関係		

大変多くの市民に参加していただき、がん診療の啓発に役立っている。

9. 合同シンポジウムの開催状況

回数 開催日時	参加大学・ 病院名	参加者氏名	所属	職名等	事務 関係者
平成29年度全国がんプロ 合同フォーラム 平成30年1月29日	富山大学	林 龍二	附属病院臨 床腫瘍部	教授	

全国各拠点における取組を知ることができた。

10. その他

高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース(インテンシブ)演習

富山大学薬学系では、北信4県の薬剤師を対象に演習を実施します。
『ゲノム医療・・・がん患者の遺伝子に基づく薬物療法』『在宅医療でのがん治療』および『遺伝子変異検出』について、それぞれを専門とする薬学部教員による講義・実習をします。奮ってのご参加をお願いします。

日時 平成30年2月24日(土)13:00~17:00 (予定)
場所 富山大学杉谷キャンパス・薬学研究棟II
3階 TDM実験室、5階 薬物治療学研究室等

講義・実習担当
櫻井宏明(がん細胞生物学研究室)
藤 秀人(医療薬学・保険薬局学研究室)
松本裕樹(高屋敷はなのき薬局)
宇野恭介(薬物治療学)

薬剤師コースでは演習として、学部スタッフ、学外薬剤師の協力を得て講義・実習を行う予定。



平成29年度のまとめ

1. 予定通りの受講生応募があった。
2. 新規教材(e-learning)作成は今年度の計画をクリアする見込みである。
3. ライフステージ事例検討会参加者は多数の反面、セミナー、FD参加者が少数にとどまった。
4. 学外者を対象とする研修会、市民を対象とする公開講座には非常に多くの受講者、聴衆が集まった。
5. 海外FD参加希望者は予想以上に多く好評であった。
6. データベース構築の進捗がやや遅れた。

初年度の実績として、満足のいくものとなった。

来年度の課題

1. 本科コースの受講生募集が本格的に開始される。計画通りに受講生が集まるように周知、応募を徹底する。
2. 学内者向け(特に医師)のFD等への参加人数が少ない。院内周知を徹底して、がん診療教育の拡大に努める。本科生の受講により人数増加が期待される。
3. 上記FDの計画として、がんゲノム医療をメインテーマにおいたFDないし研修会を複数回開き、新たな医療への教育充実を図る。
4. データベース構築を主幹大学と共同して進める。
5. 予算的懸念があるが、海外FDを引き続き充実させる。

来年度はいよいよ本科生受講が開始するため、ますますの事業充実を図る必要がある。

北信がんプロ 外部評価委員会
2018年3月16日

北信がんプロ 福井大学



福井大学 コーディネーター

福井大学医学部附属病院がん診療推進センター 片山寛次



E-Learning 分担

ライフステージに応じたがん治療		
2. ライフステージにおける壮年期がん医療		
2: 女性壮年期がんの医学的問題		婦人科 黒川先生
3: 入院期間を最短化する外科治療と就労支援		第一外科 廣野先生
4: 外来放射線治療と就労支援		未定
5: 外来化学療法と就労支援		がんセ 片山
6: がん治療と支持療法		がんセ 片山
4. ライフステージにおける高齢者がん医療—治療の特徴		
1: フレイルにおける外科治療		がんセ 片山
3: 高齢者における緩和ケア		腫瘍病態 谷川
5: 高齢者が利用可能な社会的支援		MSW 三嶋
6: 高齢者婦人科がん-治療の特徴		婦人科 吉田教授
5. ライフステージに応じた包括的支援		
1: 健康関連QOLと臨床応用		看護科 上野先生
2-1: 放射線治療の晩期合併症		看護科 磯見先生
2-2: 化学療法の晩期合併症		看護部 久保
4: がん患者家族への支援		看護科 上野先生
6: ライフステージに応じたがん治療と栄養管理		がんセ 片山

6. ライフステージにおける終末期のがん医療		
2: End of life care 1		PCT 高野
3: End of life care 2		PCT 高野
4: グリーフケア		看護科 繁田先生
5: 終末期の消化器症状緩和		がんセ 片山
6: 終末期の輸液栄養		がんセ 片山
7. 社会とがん医療		
1: がん患者が地域で暮らすための支援		がんセ 児玉先生
2: がん医療と医療経済学総論		MSW 武田
3: 高齢者を取り巻く医療環境が抱える課題		MSW 三嶋
4: がん患者会の運営支援		看護科 繁田先生
5: がん教育		がんセ 児玉先生
8. ライフステージに応じたがん医療の臨床試験		
以下は臨床研究センター渡辺君と金沢医科大学川崎教授で分担		
1: 高齢者臨床試験は何を目指すか?		
2: 医学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実例		
3: 薬学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実例		
4: 看護学的観点からの高齢者臨床試験のエンドポイントと実例		
5: 多職種共同臨床試験の展望-統計学的考察		

E-Learning 分担

分担：小児、AYA世代、希少がん					
1. 小児・AYA世代の特徴					
1：小児、AYA世代の身体的特徴			小児科	鈴木先生、谷澤先生	
2：小児、AYA世代の精神心理,社会的特徴			こどものこころ発達研究C	小坂教授	
3：小児がん、AYA世代のがん overview			第一内科	山内教授・根来先生	
2. 小児・AYA世代腫瘍各論1					
6：骨肉腫			整形外科	松峯先生	
5. 希少がん (小児・AYA世代以外)					
2：希少がん各論1 子宮肉腫			婦人科	吉田教授	
5：希少がん各論4 腹膜偽粘液腫			がんセンター	片山	
7. 晩期合併症と長期フォローアップの問題点 (2)					
7：その他小児・AYA世代がん患者の性腺機能と妊孕性温存			婦人科	黒田先生	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻大学院学生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成、本学の特色を活かした緩和ケアや在宅医療も精通する。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設おける、NST専門療法師資格取得のための20時間以上の研修は、NST専門療法師資格取得にも繋がる。

【受け入れ予定】

地域がん専門医養成コース（本科コース）						
対象者	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	計 / 人
大学院生		2	2	2	2	8
在宅緩和医療コース（インテンシブコース）						
対象者	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	計
医師		4	4	4	4	16
医師以外のスタッフ		20	20	20	20	80
在宅栄養管理コース（インテンシブコース）						
対象者	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	計 / 人
医師		2	2	2	2	8
医師以外のスタッフ		10	20	20	20	70

地域がん診療連携拠点病院の指定要件（ H26年度改訂）

⑥ 病病連携・病診連携の協力体制

ア 地域の医療機関から紹介されたがん患者の受入れを行うこと。また、がん患者の状態に応じ、地域の医療機関へがん患者の紹介を行うこと。その際、緩和ケアの提供に関しては、2次医療圏内の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアが提供できる診療所等のマップやリストを作成する等、患者やその家族に対し常に地域の緩和ケア提供体制について情報提供できる体制を整備すること。

イ 病理診断又は画像診断に関する依頼、手術、放射線治療、化学療法又は緩和ケアの提供に関する相談など、地域の医療機関の医師と相互に診断及び治療に関する連携協力体制を整備すること。

ウ 我が国に多いがんその他必要ながんについて、地域連携クリティカルパス（がん診療連携拠点病院等と地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表及び患者用診療計画表から構成されるがん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。）を整備すること。

エ 2次医療圏内のがん診療に関する情報を集約し、当該圏域内の医療機関やがん患者等に対し、情報提供を行うこと。

オ 必要に応じて院内又は地域の歯科医師と連携し、がん患者に対して口腔ケアを実施すること。

カ 地域連携時には、がん疼痛等の症状が十分に緩和された状態での退院を努め、症状緩和に係る院内クリティカルパスに準じた地域連携クリティカルパスやマニュアルを整備するなど院内での緩和ケアに関する治療が在宅診療でも継続して実施できる体制を整備すること。

キ ウ及びカに規定する地域連携クリティカルパス等を活用するなど、地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行うこと。

ク 退院支援に当たっては、主治医、緩和ケアチーム等の連携により療養場所等に関する意志決定支援を行うとともに、必要に応じて地域の在宅診療に携わる医師や訪問看護師等と退院前カンファレンスを実施すること。

在宅緩和ケア地域連携パス
の整備が算定要件に
入っている

厚生労働省；「がん診療連携拠点病院等の整備について」
（厚生労働省健康局長通知）
（平成26年1月10日）

やわらぎ日記



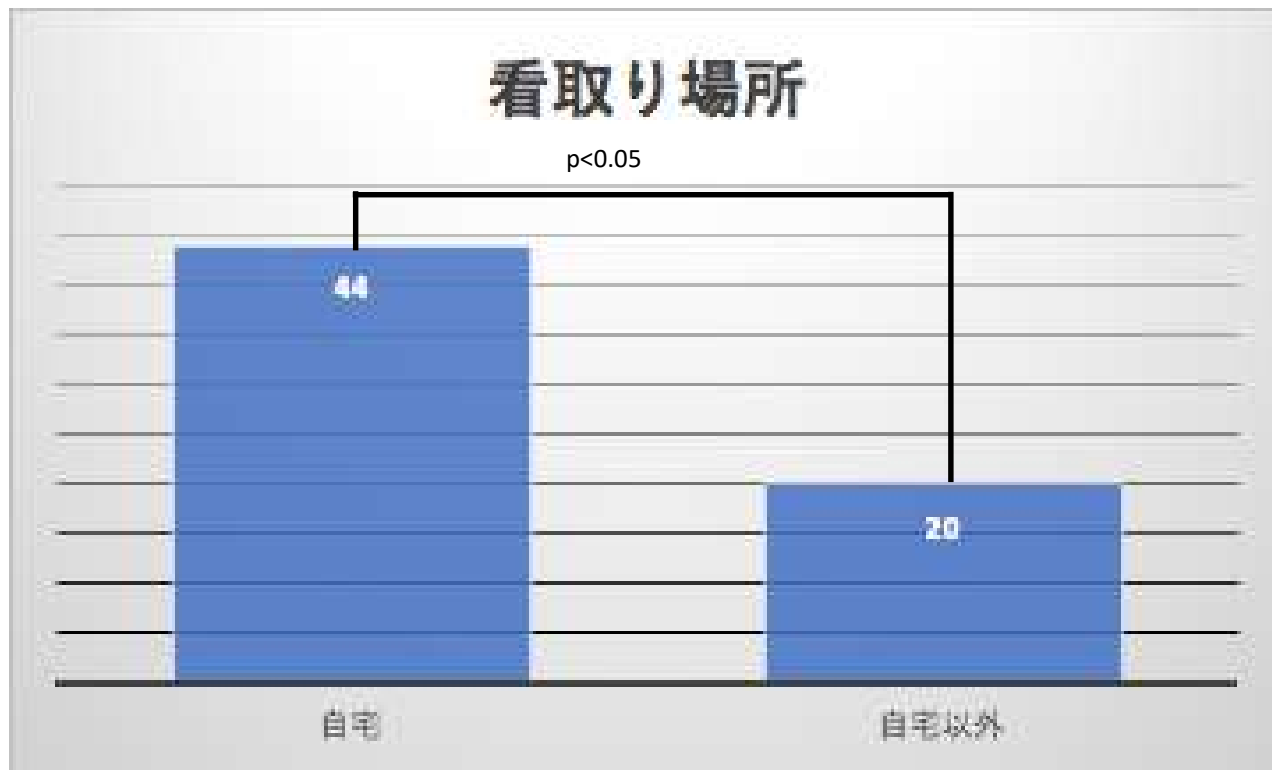
この日記は、あなた自身のことを書くものです。あなたの日々
の症状だけでなく、希望や目標、大切に
したいことなども自由に書きましょう。

これを見ることであなたのその時の状態
や飲み薬の効果などが一目でわかるよう
に作られています。

難しいところは医師や看護師、薬剤師さんなどに記入してもらいましょう。

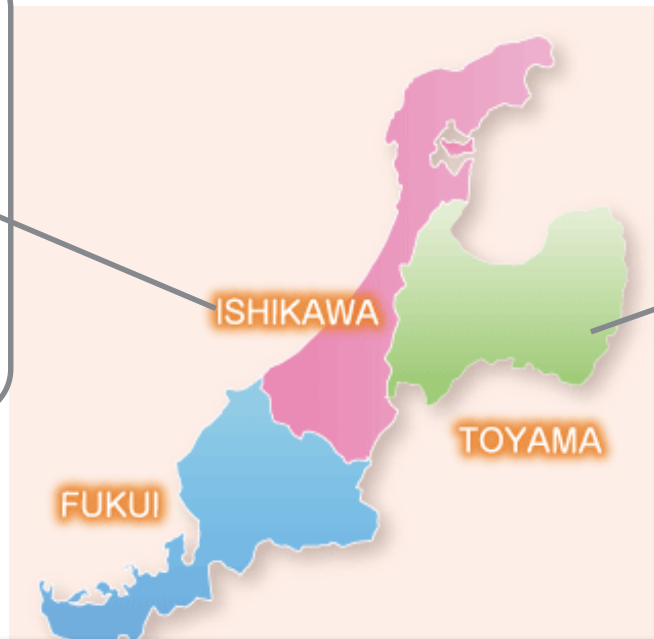
ご家族と話し合われたことなど、気がついた時に書き留めておくのにも利用してください。

看取り場所



北陸三県合同在宅緩和ケアパス 運用に向けて

人口117万人
高齢化率23.7%
在宅療養支援診療所：165件
がん診療連携拠点病院：5ヶ所
在宅死亡率：6.2%



人口109万人
高齢化率26.2%
在宅療養支援診療所：60件
がん診療連携拠点病院：7ヶ所
在宅死亡率：6.4%

在宅緩和ケア地域連携パスの三県合同利用・臨床研究が進行中

たてやま 日記



たてやま日記

この日記は、あなた自身のことを書くものです。あなたの日々の症状だけでなく希望や目標、大切にしたいことなども自由に書きましょう。

これを見ることであなたのその時の状態や飲み薬の効果などが一目でわかるように作られています。

難しいところは医師や看護師、薬剤師さんなどに記入してもらいましょう。

ご家族と話し合われたことなど、気がついた時に書き留めておくのにも利用してください。

在宅緩和ケア地域連携パス

富山県がん診療連携協議会 富山県統一版

第1回 在宅緩和ケア推進会議

福井県下統一在宅緩和ケア地域連携バス「やわらぎ日記」
ワーキンググループ発足に向けて

日時：平成 29 年 3 月 10 日(金)
18:30 ~ 20:00 (開場 18:15)

場所：AOSSA 6階 研修室 607 号室
〒910-0858 福井市手寄1-4-1

参加費：無料

司会：福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長 片山 寛次 先生

18:30-18:35 開会のご挨拶

福井県済生会病院 集学的がん診療センター長 …………… 宗本 義則 先生

18:35-18:45

福井県在宅緩和ケアバス～バス立ち上げの経緯と当時の状況～

福井県済生会病院 緩和ケア科医長 …………… 加藤 泰史 先生

18:45-19:30

福井県下統一在宅緩和ケア地域連携バス「やわらぎ日記」普及促進
に関する取り組みと今後の運用

バスの運用の現状と今後の課題、バス普及のための臨床研究に関する討議、等

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター特命医師 …… 児玉 麻衣子 先生

19:30-20:00 特別講演

富山県高岡地域における富山県下統一在宅緩和ケア地域連携バス
「たてやま日記」の運用の実際

厚生連高岡病院 緩和ケアセンター長 …………… 村上 望 先生

厚生連高岡病院 消化器内科・緩和ケアチーム …………… 中嶋 和仙 先生



第2回 在宅緩和ケア推進会議

福井県下統一在宅緩和ケア地域連携バス「やわらぎ日記」ワーキング

日時：平成 29 年 9 月 22 日(金)

19:00 ~ 20:30 (開場 18:45)

場所：AOSSA 6階 研修室 607号室
〒910-0858 福井市手寄1-4-1

参加費：無料

司会：福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター長 片山 寛次 先生

19:00-19:05 開会のご挨拶

福井県がん診療連携協議会会長……………宗本 義則 先生

19:05-19:30

福井県下統一在宅緩和ケア地域連携バス「やわらぎ日記」普及状況

福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター特命医師 …… 児玉 麻衣子 先生

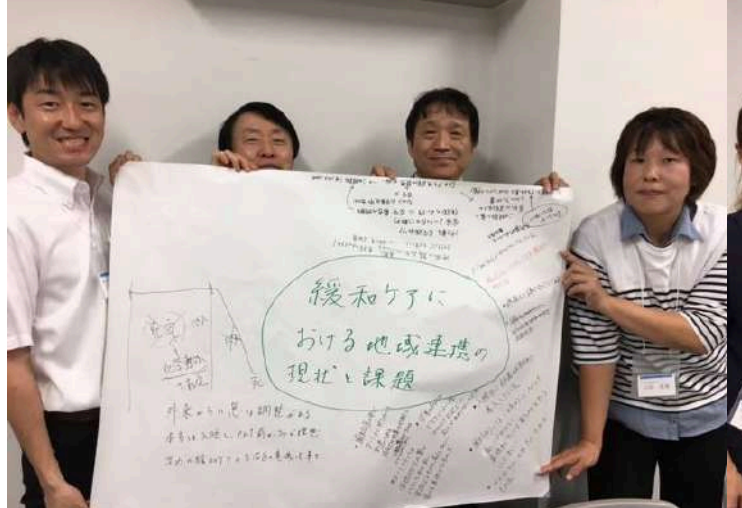
19:30-20:25

在宅緩和ケアに関する各施設の取り組み共有
～ワールドカフェ形式～

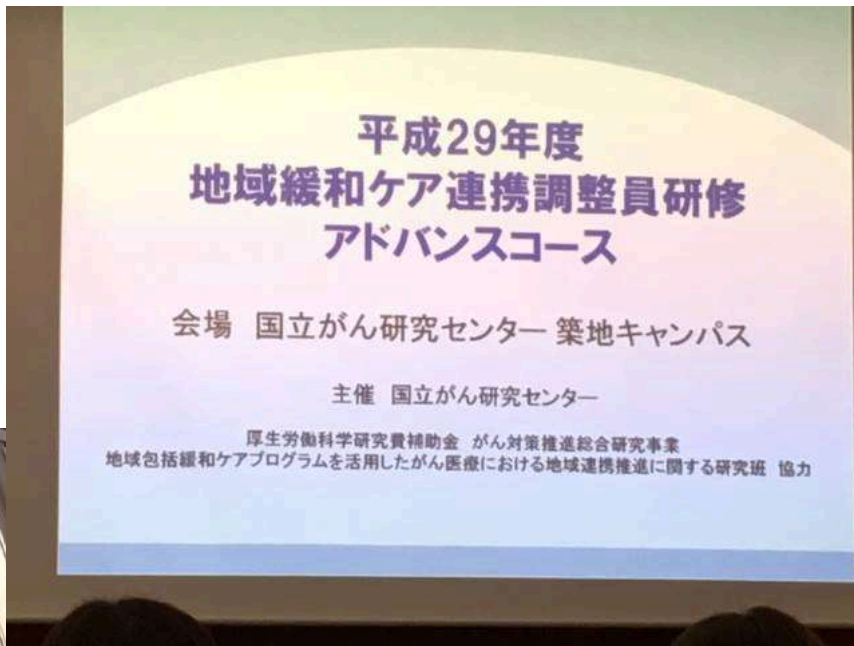
20:25-20:30 閉会のご挨拶

福井県医師会 理事……………伊部 晃裕 先生





地域緩和ケア連携調整員研修 在宅緩和ケアパスの普及活動そのものが、地域緩和ケア連携の調整そのものです。



平成28年度 厚生労働省委託費 地域緩和ケアネットワーク構築事業

地域緩和ケア連携調整員研修

日時 2日コース：2017年 1月 14日(土)・15日(日)
1日目 10:00～16:30/2日目 9:00～12:20

1日コース：2017年 2月 11日(土)
9:00～18:30
※2日コース、1日コースともにプログラム内容は同じになります

場所 国立がん研究センター 築地キャンパス内
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

目的

地域全体で緩和ケアを推進していくために、二次医療圏レベルでの顔の見える関係づくりを促し、連携における地域の課題が整理され、解決されるよう、地域の医療福祉従事者間のネットワークを築いていく人材を育成する

対象者

- ①がん診療連携拠点病院等で地域連携(後方連携)の業務に従事している者(看護師や医療ソーシャルワーカー等。複数可)
- ②がん診療連携拠点病院等で地域連携(後方連携)の業務を行う部門の責任者(副院長、センター長、部長、室長等)
- ③上記がん診療拠点病院等と連携を行っている地域の医療福祉従事者(病院、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等。複数可)

※参加者は、原則①と②を含む2名以上とします。また、可能な限りお誘いあわせの上、③の参加をお願いしています。参加人数の上限はありません。

プログラム(案)

- がん対策の動向/地域緩和ケア連携調整員の役割
- 在宅医療・介護連携事業の動向
- 病院に求められる地域連携の取り組み
- 事例紹介
- グループワーク

開催：国立がん研究センター がん対策情報センター



厚生労働省委託事業
人生の最終段階における医療体制整備事業

患者の意向を尊重した 意思決定のための 研修会

指導者 2017.7.22-23

E-FIELD

Education For Implementing End-of-Life Discussion



患者の意向を尊重した意思決定のための研修会・福井

スタッフ名簿

研修会責任者：木澤義之 神戸大学大学院医学研究科先端緩和医療学分野

研修会協力者：講師、ファシリテーター

木澤義之	神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科
岸野恵	神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科
西島薫	神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科
藤原由佳	神戸大学医学部附属病院 看護師
加納麻子	社会医療法人平和会吉田病院内科
坂本雅樹	名古屋徳洲会総合病院 外科・緩和ケア外科
下山理史	愛知県がんセンター中央病院 緩和ケアセンター緩和ケア部
向井未年子	愛知県がんセンター中央病院 緩和ケアセンター緩和ケア部
野崎善成	富山赤十字病院 外科
江戸稚香子	金沢医療センター 看護部 緩和ケアチーム
宮永太門	福井県立病院 外科 緩和ケアチーム
片山寛次	福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター
児玉麻衣子	オレンジホームケアクリニック 在宅診療部
谷川明希子	福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター
高野智早	福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター



第603回学内セミナー（大学院セミナー）

日時：平成29年 12月 8日（金）18:00～20:00

会場：医学部附属病院2階 キャンサーボード室

北信がんプロ 第1回オンコロジーセミナー

【プログラム】

症例検討1 担当：金沢大学がんセンター

オシメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示したT790M陽性EGFR変異肺がんの2症例

症例検討2 担当：信州大学信州がんセンター

子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえたALK肺がんの一例

特別講演

「がん研究が導くゲノム医療」

東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座

細胞情報学分野教授

国立がん研究センター 理事・研究所長

間野 博行 先生

福井大学は平成30年7月～9月
の間に開催 予定

本学内セミナーは大学院セミナーも兼ねていますので、大学院1・2年生は是非出席して下さい。
（必修科目「医科学基礎総論」「医科学特論」「先端応用医学概論」の出席回数にカウントされます）
また、学内の研究者間の交流をはかることも目的としていますので、多数の御来聴をお願いします。
大学院セミナーは、福和会・白鶴会・本学医学部各専任教授からのご援助を受けています。

ライフステージ事例検討会開催状況（主催：石川県立看護大学）

石川県立看護大学主催のライフステージ事例検討会への福井大学での参加者。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日時	6/6	7/4	8/1	10/3	11/7	12/5
福大 参加人数	8	1	17	13	5	3

FD研修、講演会

福井大学での参加者。

	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回	
日時	10/11	11/21	12/6	12/13	1/6	
福大 参加人数	9	0	1	1	2	

海外FD研修

平成29年度は、金沢大学主催のワシントンへの研修へ医師2名、石川県立看護大学主催のメルボルンへの研修へ看護師2名が参加予定です。

平成30年度は3名参加の予定で予算計画を提出しました。

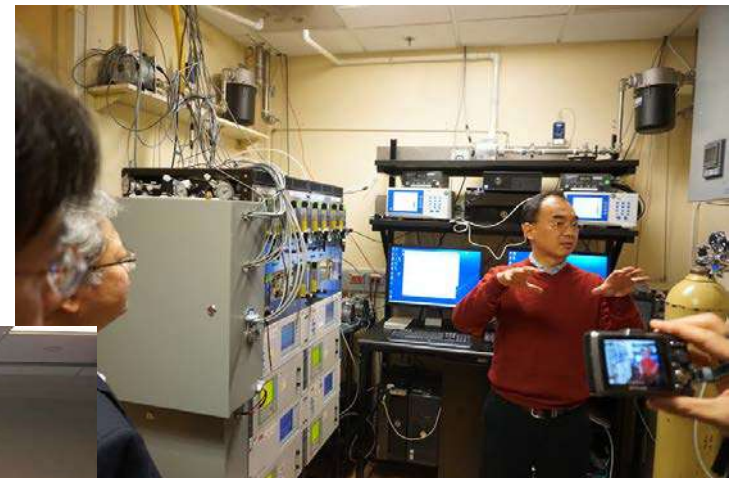
なお、福井大学が主催するのは平成31年度です。



NIH

乳腺外科科長
遺伝診療部門
前田浩幸

がん診療C
通院治療C
根来英樹



北信がんプロがん専門医療人材養成プラン

県民公開シンポジウム がん診療最前線

納得できる医療を求めて。



◎福井県県民ホール（アオッサ8階） 定員：300名
◎平成29年12月17日（日） 13:30～16:30（予定） 参加費無料
開場：13:00

司会進行・開会挨拶 福井大学医学部附属病院がん診療推進センター長 片山 寛次 「第3期がん対策基本計画と北信がんプロについて」

講演1. 「ゲノム医療：がん治療における
テーラーメイド治療とは」
福井大学医学部附属病院がん診療推進センター 助教 根来 英樹氏

講演3. 「小児・AYA世代のがんサバイバーに伝えたいこと」
京都府立医科大学 教授 上澤 俊子氏

講演2. 「遺伝するがんについて」
福井大学大学院研究医学系高度専門医臨床科(1) 教授 五井 孝憲氏

講演4. 「がんになって気づけたこと」
がん患者会「みゆ会」会員 中川 清和氏
質疑応答 がんに対するQ&A(事前募集)

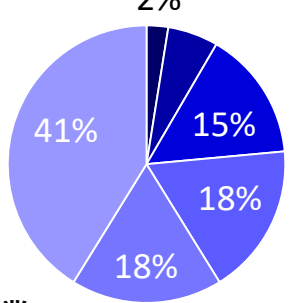
参加ご希望の方は、裏面のお申込方法をご覧ください。
お問い合わせ：
福井新聞社営業局「がん診療最前線」部
〒910-8552 福井市大和街2丁目401
Tel.0776-57-5152 Fax.0776-57-5166 E-mail.gpro@fukuihimbun.co.jp

県民の皆さまが対象です。
この県民公開シンポジウムは、がん
と向き合っている患者さんやご家族
の方はもちろん、一般の方にもご参
りいただけるシンポジウムです。

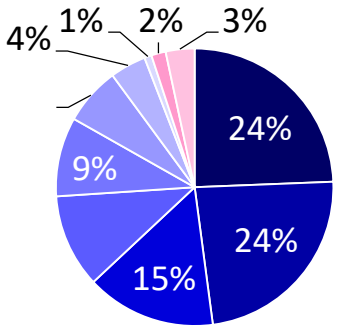
協賛
福井県がん
専門医療
人材養成プラン
福井大学
福井県がん
専門医療
人材養成プラン
福井大学

共催：福井新聞社、後援：福井県民団体会、福井県産業労働会、福井県看護協会、福井県医師会、福井県がん診療推進協議会

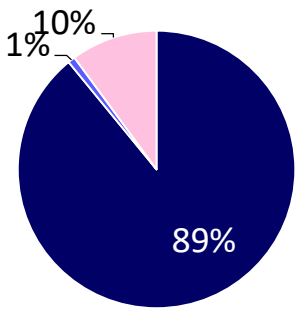
年齢



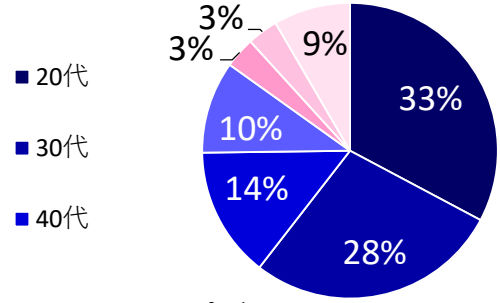
職業



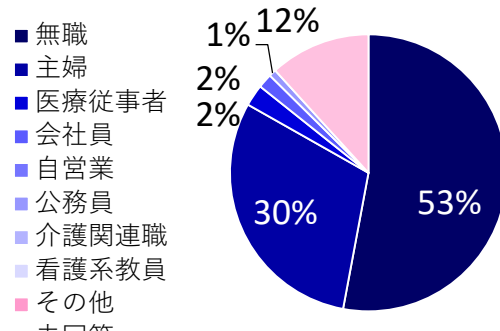
今後の開催について



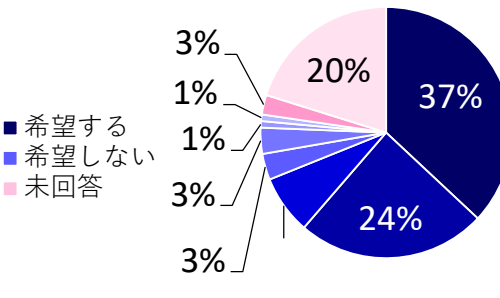
がんとの関わり



シンポジウムについて



シンポジウムをどのように知ったか



■ 患者さん本人
■ 知識向上のため
■ 患者さんの家族
■ 工作上
■ その他
■ 未回答
■ 複数回答

■ 大変良かった
■ まあまあよかった
■ どちらとも言えない
■ あまりよくなかった
■ 全然よくなかった
■ 未回答

■ 新聞
■ 大学からの案内
■ 家族、知人から
■ ポスター
■ チラシ
■ 大学HP
■ 教員からの案内
■ その他

北信がんプロ 超少子高齢化地域での先進的 がん医療人養成 看護セミナー

地域で暮らすがん患者への支援

日時:平成29年11月24日(金) 17:30~19:00 (17:00 開場) 参加費無料

場所:福井大学医学部 臨床大講義室

対象:看護職、医療・福祉関係者、一般市民

基調講演

「つながる・ささえる・つくりだす
在宅現場の地域包括ケア」

講師 株式会社ケアーズ代表取締役
白十字訪問看護ステーション統括所長
マギーズ東京 センター長

秋山 正子

座長 福井大学医学部看護学科
基礎看護学 教授

上野 栄一

(敬称略)

主催:北信がんプロ超少子高齢化地域での
先進的がん医療人養成
(金沢大学、聖光大学、福山大学、金沢医科大学、石川県立看護大学、
福井大学 共同主催事業)

共催:福井大学大学院医学系研究科
後援:福井県看護協会

お問い合わせ・お申し込み:
福井大学松岡キャンパス総務室 総務・企画課

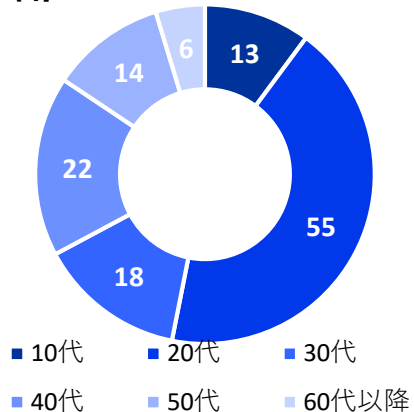
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下台月23-3

Tel 0776-61-8210

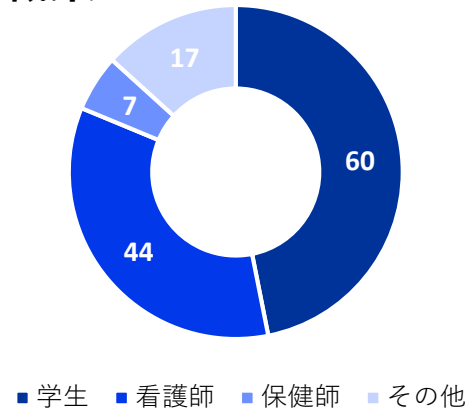
Fax 0776-61-8153

E-mail: smkikaku@ad.u-fukui.ac.jp

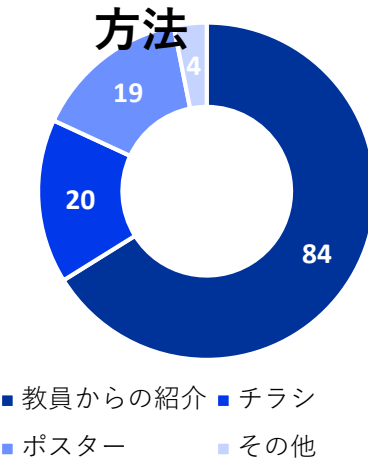
1.年齢



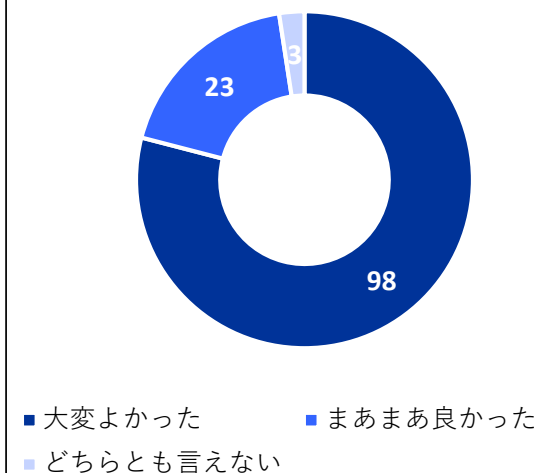
3.職業



4.セミナーの認知の 方法



5.感想





小児・AYA世代の特徴

精神心理・社会的特徴

福井大学子どものこころの発達研究センター

小坂 浩隆

小児・AYA世代のがん患者



- 日本における小児がん患者発症数：年間2,000～2,500人
- がん治療の進歩により小児がんの約70%が治癒する
- 20歳台成人の1,000人に1人ががんサバイバーとなる
- エリーチェ宣言（2006）
「小児がんのキュア（治癒）とケアの目標」
小児がん患者の長期目標は、その子どもが回復し、十分に機能を回復し、望ましい健康に関連したQOLとともに自律した成人としてその同じ世代の人々と同じレベルで社会的に受け入れられること
- サイコオンコロジー（Psycho-Oncology、精神腫瘍学）
がん患者と家族の心理・社会・行動的側面など幅広い領域での研究・臨床実践・教育を行う。
その中でも、「小児がんのサイコオンコロジー」では、
がんでだけでなく、親や同胞・医療者のこころの活動も対象になる

心理社会的発達モデル



両親の役割が曖昧になり、兄・姉、上級生、教師との関係が中心になる。
勤勉に技能をマスターしようとする。
 学業成績・表彰・ご褒美で、両親・教師・友達から報酬を受ける → **有能感、自信**
 それがないと、**劣等感**を發展させやすくなる。

4	児童期 (6歳～12歳)	勤勉性 対 劣等感	近隣・学校	潜伏期
5	青年期	同一性 対 同一性拡散	仲間集団と外集団/リーダーシップのモデル	思春期

同性、同年輩のギャングと言われる**集団の形成**がみられる。
 集団の中で経験される帰属感・結束力・遵奉性・権威に対する反抗・他集団への対抗性。
 友達から親友へ。同性との親密な関係の形成。
 自己も対象も理想化。青年期の自己愛・成人した後の自我理想の基盤になる。
 ↓
 異性愛的な対象関係が前面に、性的好奇心、相手の関心を惹こうとする欲求。
集団に帰属し、それと同一化することが重要 → それを欠くと孤独に。

異性との**1対1**の関係が發展。プラトニック・ラブ → 性的色合いの関係に發展。
 本当の対象を得るまでに**試行錯誤的に**自分の波長に合うかどうかを試しながら、
 対象を選択し直していく過程。→ この過程を踏まない**と人格形成に障害**を残す。
 社会が要請する職業的・政治的・宗教的な生活における自己のありようも試行錯誤。
 ↓
 対象と親密な関係。具体的な関係や提携を結ぶ。
 重大な犠牲や妥協を要求したとしても、それらの関係を守り続ける**道義的強さ**を發揮する。

まとめ



- 小児・AYA世代は、人格として未熟でありながら、あらゆる葛藤を経験する中で、心理社会的に成長していく
- 小児・AYA世代のこころは独特であり、大人とは優先順位の感覚が異なる
- 治療に向かうことによる経験喪失や不安は、治療後にも継続されることがある
- 患児の数だけ、患児の感覚・感性・希望がある
- 患児のがん治療だけでなく、患児のこころに寄り添う姿勢が必要である
- さらに、患児の親や同胞への精神的支援が必要であり、結果的に患児のこころの安定につながる
- 医療者のこころの活動が、患児のこころに反映され、患児の人格形成に重要な意味合いをなすことがある

がん教育「命の授業」於福井大学附属小中学校

命の授業 (参考資料参照)



平成26年度から福井大学教育学部附属
中学校で保健体育の時間に開催。
命の大切さに関してレクチャー、
個人ワークを交えた授業を行う。

男子

Category	Percentage
命の大切さ	45%
がんについて	35%
がん予防	15%
がん治療	5%

女子

Category	Percentage
命の大切さ	40%
がんについて	30%
がん予防	20%
がん治療	10%

男子

Category	Percentage
命の大切さ	40%
がんについて	30%
がん予防	20%
がん治療	10%

女子

Category	Percentage
命の大切さ	35%
がんについて	30%
がん予防	25%
がん治療	10%

男子

Category	Percentage
命の大切さ	35%
がんについて	30%
がん予防	25%
がん治療	10%

女子

Category	Percentage
命の大切さ	30%
がんについて	25%
がん予防	30%
がん治療	15%

男子

Category	Percentage
命の大切さ	30%
がんについて	25%
がん予防	30%
がん治療	15%

女子

Category	Percentage
命の大切さ	25%
がんについて	20%
がん予防	35%
がん治療	20%

※この授業
授業終了アンケートでは、特に詳しく命の大切さについて学んだという声が多く、がんについて、がん予防、がん治療についても学びました。



福井県の保健体育・養護教員に対する がん教育の講義



次年度からは教育学部でがん教育の講習は必修に



金沢医科大学の取り組み

Kanazawa Medical University

1. 各大学教育コースの内容・受入れ状況 (今後の予定)

- 平成29年度 インテンシブコース生
(平成29年10月募集開始⇒平成30年2月募集開始、
受入目標人数1名)
1名受け入れ(平成30年3月1日～)
- 平成30年度
本科生受け入れ開始
目標人数2名(以降毎年度)
インテンシブコース生受け入れ
目標人数2名(以降毎年度)

- 独自の募集案内・リーフレットを作成。

教授会でのアナウンス、4月以降は大学院入学生、関連病院に配布等PRを行う。

⇒ 目標人数達成を図り、履修生の 修了後のキャリアパス実現に向けて教育を行う。

キャリアパスの例：

【本科生】

がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献する

【インテンシブコース生】

多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する



2. e-learning教材の作成状況

- 各分担内容、スライド著作権確認、撮影を開始している。
3月までにはアップロードする。

【がんゲノム医療】

7チャプター作成(うち北信がんプロ教材1チャプター)

石垣・新井田・浦本・安本担当

【小児・AYA・希少がん】

10チャプター作成(うち北信がんプロ教材9チャプター)

犀川、河野、的場、山田、辻、福島、立花、岡田、道合、久村、
他、本学で経験が少ない内容に関しては、

富山大学、福井大学、長野県立こども病院の先生方へ作成を依頼

【ライフステージに応じたがん医療】

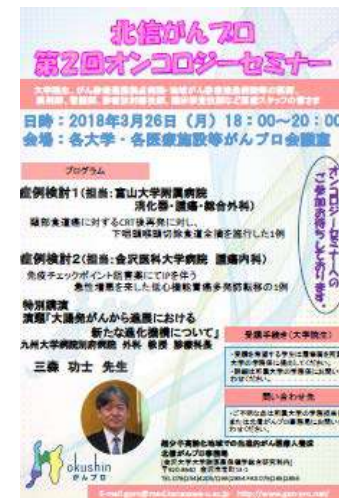
8チャプター作成(うち北信がんプロ教材8チャプター)

西野、川崎担当



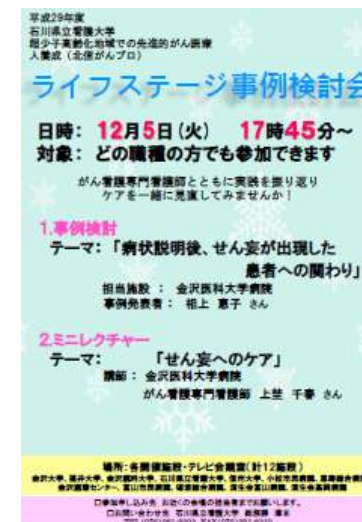
3. オンコロジーセミナー開催状況

- ・富山大学主催3月26日開催分に症例1例
免疫チェックポイント阻害薬にてIPを伴う急性増悪を来した低心機能胃癌多発肺転移の1例を腫瘍内科担当学にて提示
- ・本学主催平成30年4～7月(以降、毎年度1回担当)
安本・木南オンコロジーセミナー委員を中心として調整



4. ライフステージ事例検討会開催状況

- ・平成29年度 全8回のうち本学が参加した回数:3回
うち、2017.12.05(火)17:45～開催分は本学看護師が提示
事例提示:本院の相川恵子看護師
ミニレクチャー:本院の上埜千春がん看護専門看護師



5. FD研修会・講演会 開催状況(1)

- 2017.10.11(水) 18:00～19:00 参加者数:48名★

「ゲノムシーケンスによって発がん過程を解き明かす」

柴田龍弘先生 東京大学医科学研究所ゲノム医科学分野 教授

- 2017.11.21(火) 15:00～17:30 参加者数:29名★

「病理組織検体のオミックス解析に基づくがんの個別化医療開発とその実装」

金井弥栄先生 慶應義塾大学医学部病理学教室 教授

- 2017.11.30(木) 18:00～19:30 参加者数:26名(テレビ会議使用せず)

「『精密医療』のその先に:がん治新時代全人的と課題」

横内浩先生 北海道がんセンター呼吸器内科 医長



開催の1例

5. FD研修会・講演会 開催状況(2)

- 2017.12.6(水) 18:00～19:30 参加者数:14名★

「Pathology of Paget disease of bone and Paget sarcoma」

朴龍九先生 慶熙大学病理学 教授

- 2017.12.13(水) 18:00～19:30 参加者数:27名★

「小児脳腫瘍における分子メカニズム解析」

荒川芳輝先生 京都大学医学部附属病院脳神経外科 特定講師



開催の1例

- 2018.01.26(金) 18:00～19:30 参加者数:30名★

「がんを理解するためのゲノム科学と人工知能」

石川俊平先生 東京医科歯科大難治疾患研ゲノム病理学 教授

★印:テレビ会議システムを使用して開催

毎回、出席者へのアンケートを実施。事業報告は北信がんプロHPにも掲載。

結果を主催者(各大学コーディネーターへも)へフィードバック

6. 海外FD研修 参加・開催状況(1)

【平成29年度】参加人数:2名

・2018.02.12(月)～17(土)

米国ワシントンD.C.研修

(ゲノム医療関係施設:金沢大学主催)

総合医学研究所 石垣靖人教授 参加

・2018.03.24(土)～3月30日(金)

豪州メルボルン研修

(緩和ケア施設:石川県立看護大学主催)

看護学部 北村佳子講師 参加

6. 海外FD研修 参加・開催状況(2)

【平成30年度】

・2018年11月頃（本学からは10名の参加を予定）

台湾・高雄医学大学(小港醫院)(先進的がん医療施設:本学主催)を企画している。

準備として、小港醫院長をはじめとする訪問団を5月に受け入れる。

海外FD研修後には、医療交流・学术交流共同研究へとつなげることを想定。



高雄醫學大學

Kaohsiung Medical University



7. 地域がんデータベース進行状況

- 平成29年10月5日の第1回がんデータベース委員会開催後に、データベースプロジェクトへの協力の可能性を把握するためのアンケートを北信4県のがん診療連携拠点病院26施設に送付した。
- その結果、21施設から2010年から2015年まで診断された院内がん登録情報、および2016年と2017年診断の院内がん登録情報にDPC調査情報を付与したデータについて個人情報を除いた上で提供可能との回答を得た。
- この回答に基づき21施設を研究機関とするデータベース構築に関する倫理審査を平成30年3月に金沢大学医学倫理審査委員会に申請する準備を進めている。

8. 市民公開講座の開催状況

- 2017.10.09(月・祝) 腫瘍内科学主催

がんゲノム医療を知ろう：
最適の治療を受けるために

参加者数：68名

- 2017.12.16(土) 再生医療学主催

がん免疫療法を知ろう：
自分に最適な治療を求めて

参加者数：96名



各開催内容は本学学報、新聞記事にて公表している



9. 合同シンポジウムの開催状況

- 第2回総務・教務合同委員会で、開催順を決定。
本学は平成32年度担当。

10. その他

- 中部小児血液がんセミナー

名古屋大学医学部小児科等と連携し、テレビ会議システムを用いて開催。

症例提示「成熟奇形腫と胎児型横紋筋肉腫の二つの病理像を認めた後腹膜腫瘍の一例」を担当

10. その他(続き)

• ホームページ改訂

1・2期がんプロの内容を拡充し、第3期の内容をアップロード 学生募集、公開講座、FD講演会、オンコロジーセミナー等の開催案内、報告を掲載。

• 大学院学則、科目等履修生規程改正による受入環境の整備

3期がんプロ履修生受入のため規則を改正。

施行日は大学院学則(本科生受入):平成30年4月1日付、
科目等履修生規程(インテンブコース生受入):平成30年1月1日付



2017年度

北信がんプロ外部評価委員会

•••

2018年3月16日(金)

会場； 金沢大学医学類B棟1階応接室
報告者； 石川県立看護大学 教授
北信がんプロ コーディネーター
牧野智恵

1 教育コースの内容・受け入れ状況

1) がんライフステージコース（本科生）

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<p>がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。</p> <p>さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。</p>						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<p><必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目</p> <p><選択科目></p> <p>コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか6科目</p>						
教育内容の特色等 （新規性・独自性等）	<p>本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。</p> <p>従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リユーズ看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。</p>						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者の キャリアパス構想	本コース修了には北信がンプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がンプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
募集人数	2人（制限定員ではありません。）						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

2) がんライフケアコース（インテンシブ）

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA 世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	<修了要件>がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 <履修方法>TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	<必修科目>がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等 （新規性・独創性等）	北信4県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北信4県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老年看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA 世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者の キャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成30年1月						
募集人数	5人（制限定員ではありません。）						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の 多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

募集定員は3名で、
今期は3名が履修した。

2. e-learning 教材の作成状況 ＜ライフステージ＞

本学からは、5名の教員で 7チャプター 作成予定

講義項目名	チャプター名	概要	担当者
ライフステージに応じた包括的支援	サバイバーへの支援 ・がんサバイバーとは (20分) ・生きがいとその支援 (20分)	治療完了後、社会復帰や生活の質向上を目指した支援を含め、コントロール感や自己肯定感が向上するようながん患者・体験者のQOLを踏まえた患者支援を学ぶ	牧野智恵
	がん患者のレジリエンス (20分)	本学独自の内容とする	岩城直子
ライフステージにおける終末期のがん医療	Advanced Care Planning (20分)	外国から輸入されたACPの基本的な考え方と、日本の中でいかにACPを取り入れるかについて、最新の動向と具体的な方略を学ぶ	岩城直子
社会とがん医療	高齢者を取り巻く医療環境が抱える課題	独居老人、老老介護など高齢者を取り巻く社会情勢をふまえて医療が抱える課題・対策を知る	磯光江

小児・AYA担当 次年度7月中までに作成予定

講義項目名	チャプター名	概要	担当者
小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (1)	小児・AYA世代におけるがん看護(総論)	小児・AYA世代のがんに特有な看護の問題について総論的に学ぶ	金谷雅代
小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援 (2)	小児・AYA世代がんサバイバーの問題点(総論)	小児・AYA世代のがん経験者の就学、就職、就労、恋愛、結婚、出産など、高齢のがん患者とは異なる特有の問題を総論的に学ぶ	樋口麻衣子

4 ライフステージ事例検討会開催状況

平成29年度 石川県立看護大学
 若少子高齢化地域での先進的がん看護人養成（北信がんプロ）

テレビ会議システムを利用した 休職中の看護師
大歓迎！

がんライフステージ事例検討会

多職種とともに日頃のがん患者への関わりをふり返りましょう！
 北越3県のテレビ会議システムが設置されている施設を利用して行います！
 施設の垣根を越えて、日頃のがん患者様やご家族へのケアについて意見交換しましょう！

◆開催日程（8回予定）
 平成29年 6月6日(火)、7月4日(火)、8月1日(火)
 10月3日(火)、11月7日(火)、12月5日(火)
 平成30年 2月6日(火)、3月6日(火)

◆開催時間 17時45分～19時15分
 (事例検討：60分、ミニレクチャー：30分)

◆対象 看護師、医療従事者
 がん看護専門看護師申請予定者
 休職中の看護師で復帰を予定している方

◆会場 開催予定施設のテレビ会議システム設置室
 ※開催予定施設につきましては、要問合せ下さい。

◆参加費 無料

◆内容 1) 事例検討：外来化学療法、在宅の患者支援
 倫理調整、家族看護、緩和ケアなど
 2) ミニレクチャー：OCNSの他、医師や薬剤師がミニレクチャーを担当します

◆お近くの開催予定会場からの
 参加をお待ちしております！
 詳細はホームページをご覧ください。
 石川県立看護大学
<https://www.isn-nursing-u.ac.jp/>
 がんプロ.com
<http://www.gan-pro.com/>

◆アドバイザー◆
 ・牧野智恵：石川県立看護大学 成人看護学 教授（がん看護専攻）
 ・各施設のがん看護専門看護師（OCNS）

◆参加申込先 外部施設から参加される方は前日までに開催予定施設までご連絡下さい。
 ・開催予定施設、連絡先は要問合せ下さい。
 ◆お問い合わせ先 石川県立看護大学 がん推進課
 〒929-1210 石川県かほく市学園台1-1 TEL (076)281-8303 FAX (076)281-8309

回	月 日	テーマ	参加施設	参加人数
第1回	29.6.6(火)	認知機能が低下している患者の治療選択について考える	11 施設	65名
第2回	29.7.4(火)	在宅酸素療法を受け入れ困難であった症例との関わりを振り返る ～その人らしさを大切に～	11 施設	96名
第3回	29.8.1(火)	終末期がん患者の退院支援	11 施設	56名
第4回	29.10.3(火)	疼痛緩和困難な患者への対応 ～アセスメントとマネジメントの視点から～	11 施設	92名
第5回	29.11.7(火)	悪い知らせを伝えられないまま終末期を迎えた患者と家族への関わり	12 施設	66名
第6回	28.12.5(火)	病状説明後、せん妄が出現した患者への関わり	11 施設	64名

2月は大雪のため中止
 3月を残して、今年度は439名参加

企画・運営 石川県立看護大学

主催：若少子高齢化地域での先進的がん看護人養成（北信がんプロ）
 (石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・福井県看護協会)
 共催：石川県立看護大学地域連携ケアセンター

6. FD・SD研修会・講演会 開催状況

1) 「CNS関係者によるがん看護事例検討会」

目的：がん看護専門看護師の質の向上

対象：がん看護専門看護師（予定者を含む）

第1回 参加者は計18名

第2回 参加者は計18名であった。



石川県立看護大学
若狭・富山・北陸地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)

平成29年度 ライフステージ事例検討会

CNS関係者による がん看護事例検討会

CNS関係者を対象としたがん看護事例検討会を
スーパーバイザーをお招きし下記の日程で開催致します。

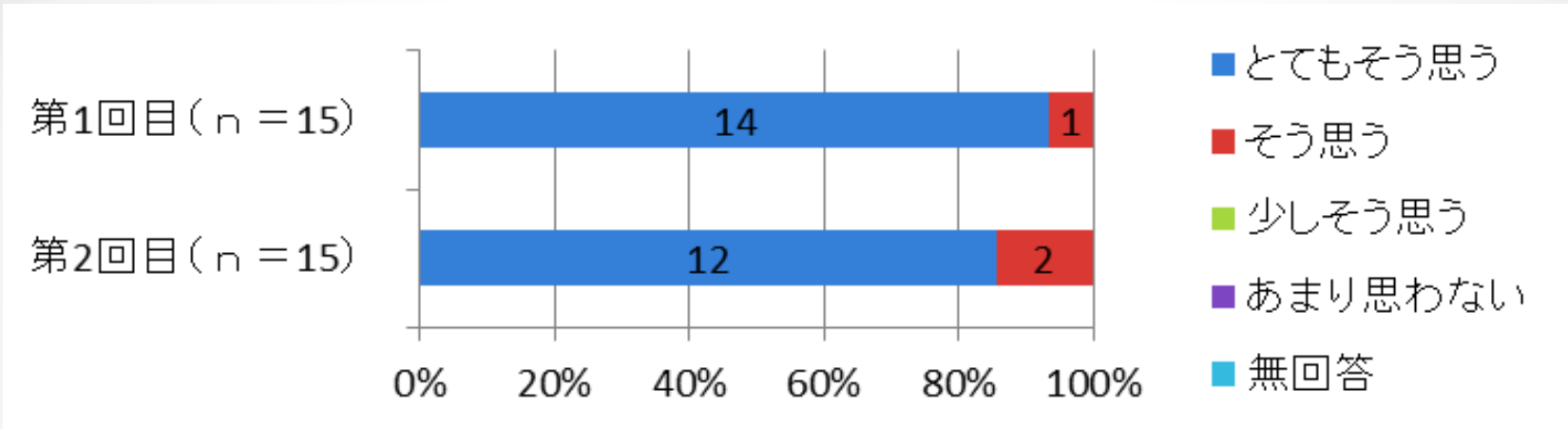
参加資格 CNSの方（どの領域の方でも）
インテンシブAコースもしくは地域がん看護師
養成コース1を受講している方

第1回 日時：8月12日（土）15：20～16：30
場所：石川県立看護大学 3階 会議室
スーパーバイザー：北里大学病院
がん看護専門看護師 坂下 智珠子 先生

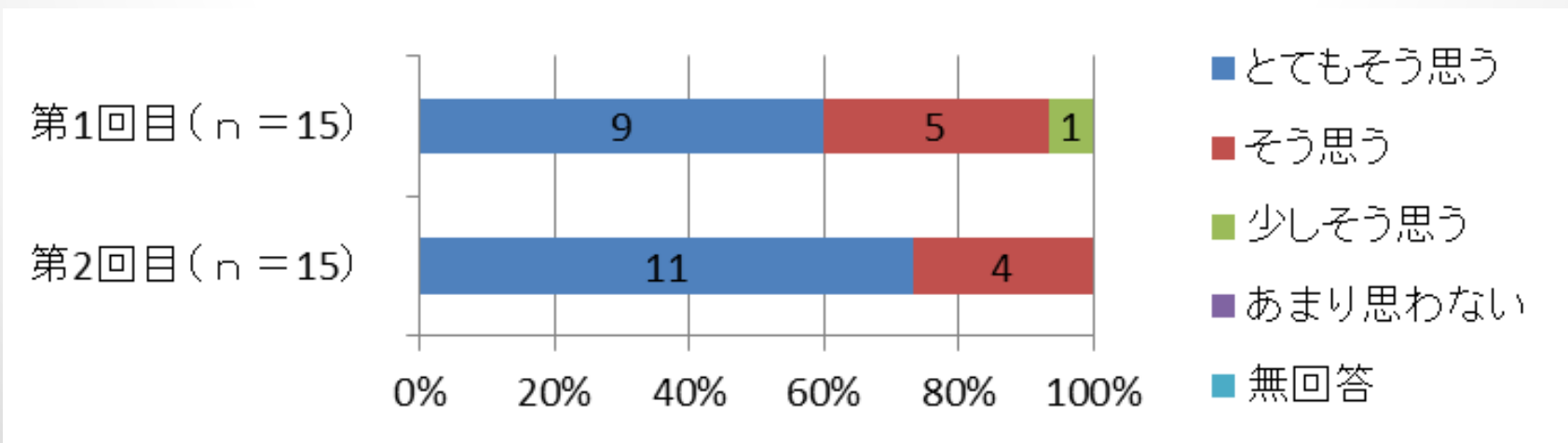
第2回 日時：10月22日（日）10：30～12：00
場所：石川県立看護大学 3階 会議室
スーパーバイザー：北海道医療大学
名誉教授 石垣 靖子 先生

石川県立看護大学 <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>
お問い合わせ：石川県立看護大学 がんプロ 特任助手(樋口)
TEL: 076-281-8403(代表) E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

① 事例の内容は今後のCNSとしての看護実践に活かされると思いますか



② 意見交換の内容は今後のCNSとしての看護実践に活かされると思いますか



2) 「グリーフの理解とナースに求められること」

平成29年7月2日（日）オーストラリアのモナシュ大学の下稲葉かおり先生をお迎えして、公開講座を開催した。

・北陸3県から89名が参加した。



平成29年度 石川県立看護大学 公開講座

グリーフの理解と ナースに求められること

参加費
無料

定員120名

大切な方を亡くされた
ご家族へのケアを
学んでみませんか？

講師
モナシュ大学
下稲葉 かおり氏



【下稲葉かおり先生 プロフィール】.....

看護師として外科病棟、ホスピス病棟勤務を経て、1997年よりオーストラリア在住。2001年にモナシュ大学にて修士号取得（緩和ケア専攻）、同年よりモナシュ大学に講師として勤務。また看護師免許を取得し、緩和ケア病棟勤務も経験する。2011年には、「緩和ケアに関わるナースの意識とサポート」をテーマにモナシュ大学にて博士号を取得。現在、モナシュ大学に日本人看護学生の短期研修を受け入れ、「緩和ケア」「国際看護」の教員に携わっている。2013年にはフリンダース大学にて「喪失・悲嘆・トラウマカウンセリング」学位取得。2015年には、モナシュ大学にてカウンセリング修士課程を修了し、グリーフカウンセラーとしても活動している。2013年より日本にて、医療者の死生観、グリーフ、サポートなどに焦点を当てた「医療者のための心のケアワークショップ」を開催している。

座長 牧野 智恵氏 (石川県立看護大学 教授)

対象：看護職の方、看護学生の方

【申込締切】平成29年
6月28日(水)

※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

平成29年 7月2日(日)

会場/石川県立看護大学 大講義室 時間/13:00~15:00 (受付12:30~)

アンケート；

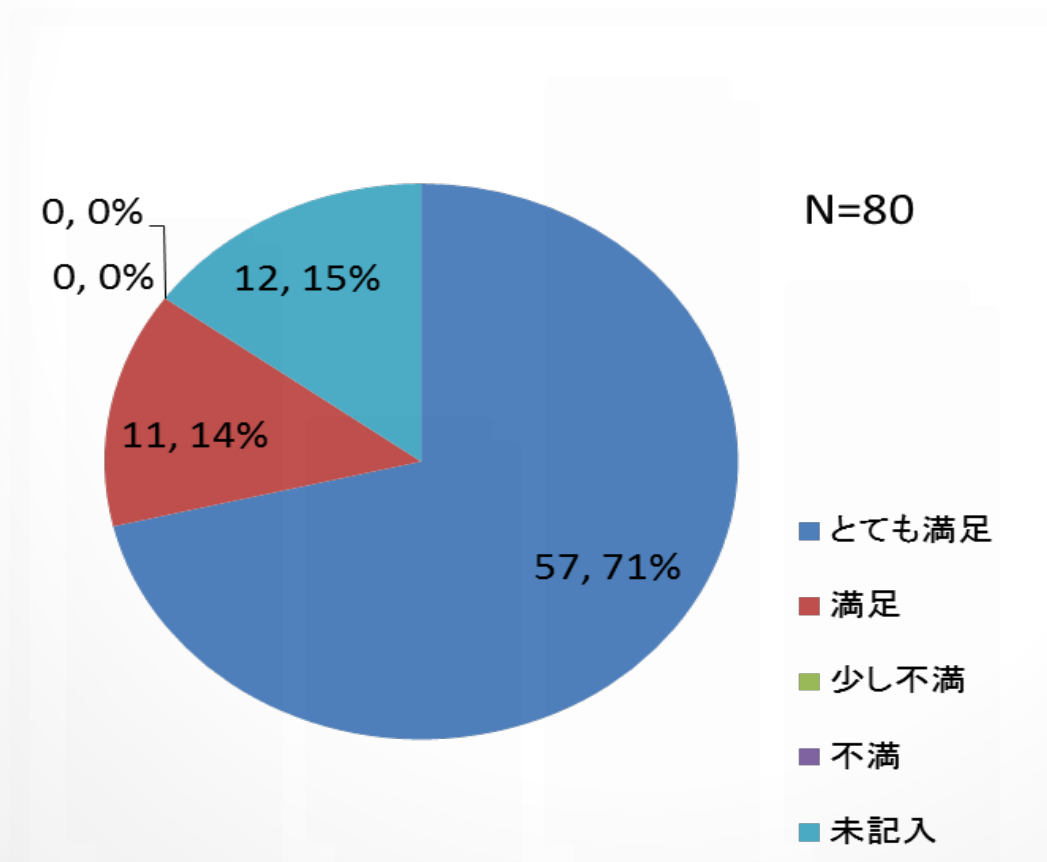
「自分にも今出来るケアがあることが分かり、気持ちが楽になった。」

「ケアを続けるために、自分たちもケアしケアされなければいけないと感じた。」

「この講演そのものが癒しになった。」

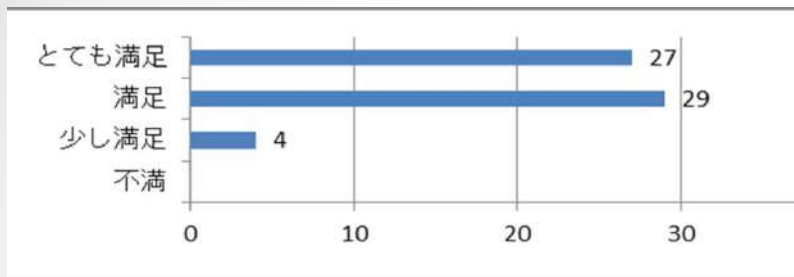
ほとんどの方がこの講演に満足したと回答した。

講演の満足度



3) ①「臨床で行うリンパ浮腫のケア」(基礎編)

64名参加



若少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
平成29年度 看護実践セミナー

本セミナーは
修了証を
発行します

臨床で行なう リンパ浮腫のケア

2017年9月9日(土) 9:30~16:00(受付9:00~)

内容 午前 リンパ浮腫の基礎知識(講義)
午後 リンパ浮腫ケアの実際
(演習、終末期患者へのケア)

講師 高地 弥里 先生
石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師

場所 石川県立看護大学
教育研究棟2階 中講義室4/成人・老年看護学実習室

対象 医療職者 70名(がん患者のリンパ浮腫ケアに携わる方)

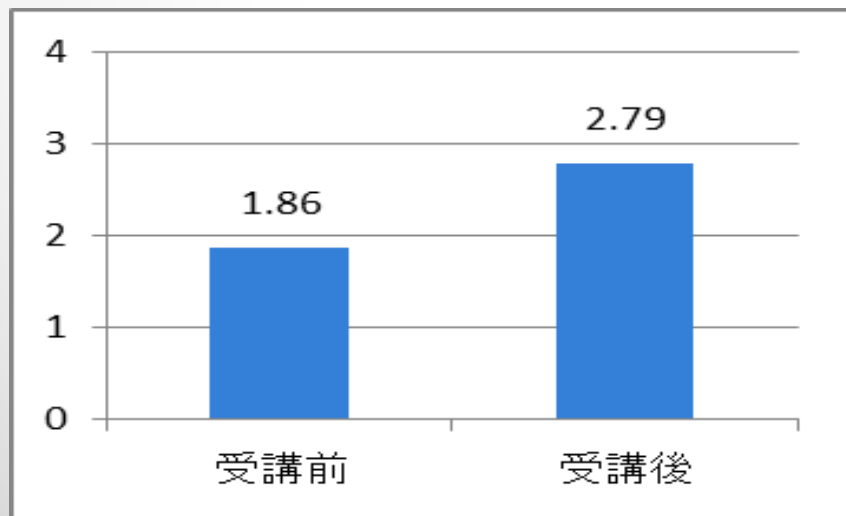
締切 8月31日(木) 参加無料

※託児(無料)希望の方は、8月24日(木)までにお申込下さい。
定員になり次第、申し込みを終了します。

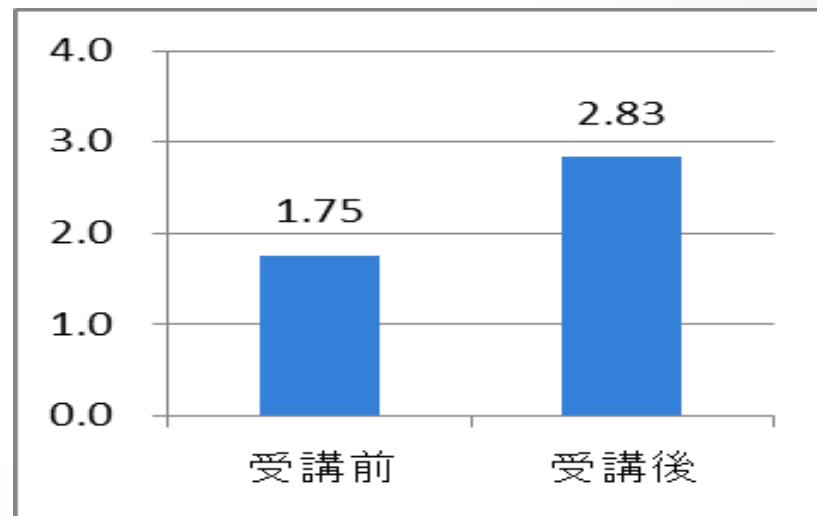
主催 若少子高齢化社会での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 北信各都府県)

QR
コード

受講前後での知識の変化 アセスメント方法



合併症と対処法



3) 「臨床で行うリンパ浮腫のケア」 (アドバンス編)

ロールプレイを中心にアドバンス編を初めて実施した。

13人が参加

「明日から本当に使える学びを得た」との感想があった。



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (J8信がんプロ)
平成29年度 看護実践セミナー

本セミナーは
修了証を
発行します

臨床で行なう リンパ浮腫のケア アドバンス編

2018年2月17日(土)9:30~15:30(受付9:15~)

講師 山岸 愛
石川県済生会金沢病院 リンパ浮腫療法士/日本医薬リンパドレナージ士/板セラピスト

高地 弥里
石川県済生会金沢病院 がん看護専門看護師/日本医薬リンパドレナージ中級セラピスト

時山 麻美
富山県立中央病院 がん看護専門看護師/日本医薬リンパドレナージ中級セラピスト

場所 石川県立看護大学
教育研究棟2階 成人・老年看護学実習室

対象 医療職者 18名 (2016または、2017年度開催の本学リンパ浮腫セミナーに参加された方)

締切 2月2日(金) 参加無料 ※内容・お申込みは裏面をご覧ください。

主催 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 (J8信がんプロ)

4) 「ケアの意味を見つめる事例研究」FD/SD研修

講師：

東京大学大学院医学系研究科
山本則子先生

(定員40名が参加)



超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ) 石川県立看護大学
平成29年度 FD・SD研修

ケアの意味を見つめる 事例研究

講師

山本 則子 先生

東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻
高齢者在宅長期ケア看護学/緩和ケア看護学分野
教授

日程

平成30年 1月 28日 (日)

時間

10時~16時 受付 9:30~

場所

石川県公立大学法人
石川県立看護大学 中講義室3

定員40名

参加費無料

対象

看護職の方(教員・院生を含む)



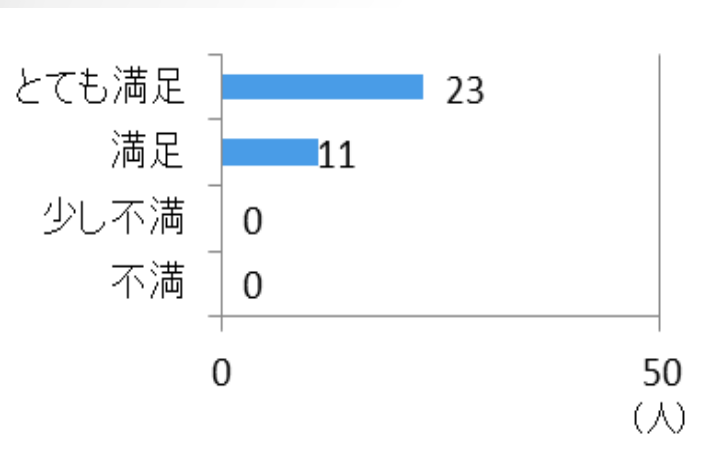
※定員になり次第、締め切らせていただきます

【申込締切】平成30年
1月24日(水)

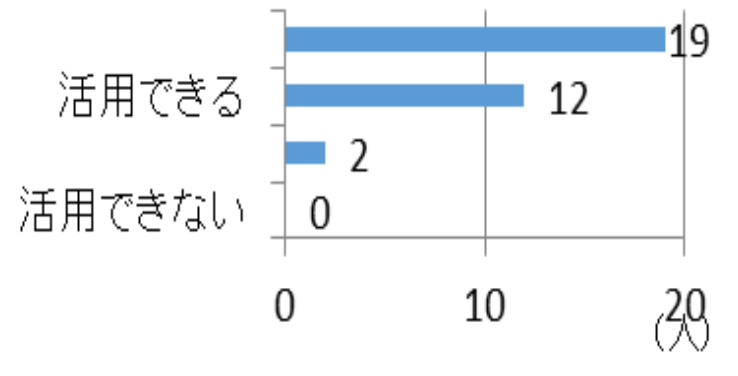
申し込みは左のQRコードを
読み取るか表面をご確認下さい

お問い合わせ先 石川県公立大学法人 石川県立看護大学 〒929-1210 石川県がほく市平園台1丁目1番地
TEL: 076-281-8300 FAX: 076-281-8354 E-mail: ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp (担当: 樋口)
主任: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同参加事業)

1) 講演の内容



2) 今後の看護実践に活かせると思いますか



自由記載

「事例検討を研究に仕立てていく所が分からなかったなので、分析の方法が分かった」
「とてもよかったので、この続きも受けてたい」
「普段ここまで深く考える機会がないため、よい経験となった」との声が聞かれた。

5) 「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」 FD/SD研修

平成29年度 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)SD講演会
石川県立看護大学/金沢大学医薬保健研究域薬学系

参加費 無料

医療者・患者への 抗がん剤曝露予防を 考えよう

定員120名

第I部 講演 13:00~13:30
座長/菅 幸生(金沢大学薬学系 准教授)

1. 抗がん剤による曝露状況の調査と薬剤師の職業性曝露を考える
講師 米澤 美和先生(石川県立中央病院 薬剤部)

第II部 特別講演 13:40~14:40
座長/牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)

1. 我が国の曝露対策の現状と課題
講師 青儀 健二郎先生(四国がんセンター 乳腺・内分泌外科 臨床研究推進部長)

2. 院内の曝露予防の取り組み
講師 岸田 恵先生(四国がんセンター がん化学療法認定看護師)

第III部 パネルディスカッション 14:40~15:00
座長/牧野 智恵(石川県立看護大学 教授)
菅 幸生(金沢大学薬学系 准教授)
北陸の曝露対策の実際と課題

平成30年
2/24
13:00~15:00
(受付12:15~)

会場/ホテル金沢(4階エメラルド)
金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111

締切:平成30年2月10日(土)
※定員に限り次第、締め切らせて頂きます。

【お申し込み・お問い合わせ】石川県公立大学法人 石川県立看護大学(担当:種山)
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL/FAX:076-281-8403 E-mail:ganpro-j@ishikawa-nu.ac.jp

【本研修会は、石川県病院薬剤師会生薬認定制度(1単位)、日病薬院薬学認定薬剤師制度(IV-1 1単位)に申請中】

主催:超少子高齢化地域での先進的医療人養成(北信がんプロ)
(石川県立看護大学・金沢大学・金沢医科大学・福井大学・富山大学・信州大学 共同企画事業)

共催:石川県病院薬剤師会

後援:北信新聞社

申し込みはQRコードまたは
裏面をご確認ください。



6. 海外FD研修

訪問予定先

- ・ Monash University (School of Nursing and Midwifery) Institute (州立モナッシュ大学)
 - ・ Epworth Healthcare
(様々なヘルスケアサービスを提供するビクトリア州最大の非営利グループ。)
 - ・ Banksia Palliative Care Service (コミュニティにおける緩和ケアを提供する組織)
 - ・ Chestnut Garden Nursing Home
(Monash Health)
(チェスナットガーデンズ高齢者ケアホーム)
- ほか
(オーストラリア /メルボルン)



※イメージ画像です。

北信がんプロ 海外FD研修参加者募集

研修期間 2018年3月24日(土)～3月30日(金)

北信がんプロでは、3期がんプロ事業のがん医療人育成の一つとして、教員を海外研究機関へ派遣し、後日TV会議システムを活用したFD講演会にて成果発表を行うことにより国際化と教育のキャリア形成を目指しております。

本年度は先日ご案内いたしました本学主催でのFD研修以外に石川県立看護大学様にて、企画されたFD研修を予定しております。ぜひご応募下さい。

《訪問先》

- ・ Monash University (School of Nursing and Midwifery) Institute (州立モナッシュ大学)
- ・ Chestnut Garden Nursing Home (Monash Health) (チェスナットガーデンズ高齢者ケアホーム) ほか (オーストラリア/メルボルン)

※ 詳細は裏面・別紙をご確認ください

参加費用: 無料(ただし現地での食事代金など、一部自己負担となります。)

募集人員: 5名程度(通称6大学全体) ※応募者多数の場合は選考となります。

申込締切: 12月8日(金) ※お名前・所属・役職・ご連絡先を記載の上、メールにてお申し込み下さい。

【参加申し込み・問い合わせ先】

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)事務局 (石塚・北井)

TEL 234-4205 / 265-2854 FAX 265-2855 e-mail: gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

参加予定者

大学/病院	所属	役職	氏名
1 石川県立看護大学	成人看護学	教授	牧野 智恵
2 石川県立看護大学	老年看護学	教授	川島 和代
3 石川県立看護大学	小児看護学	講師	金谷 雅代
4 石川県立看護大学	基礎看護学	講師	林 静子
5 石川県立看護大学	成人看護学	助教	松本 智里
6 石川県立看護大学	がんプロ	特任助手	樋口 麻衣子
7 金沢大学	看護部	緩和ケア認定看護師	出口 有紀子
8 信州大学	医学部附属病院信州がんセンター緩和ケア部門	教授	間宮 敬子
9 信州大学	医学部附属病院薬剤部	薬剤師	井出 貴之
10 富山大学	看護部	緩和ケア認定看護師	門田 彩花
11 富山大学	附属病院臨床腫瘍部	助教	梶浦 新也
12 福井大学	がん診療推進センター	緩和ケア認定看護師	小林 美貴
13 福井大学	がん診療推進センター	副看護師長	浦井 真友美
14 金沢医科大学	看護学部成人看護学	講師	北村 佳子

「北信がんプロ」外部評価委員会

平成30年3月16日(金)(金沢大学医学類B棟 応接室)



「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」

北信がんプロ

金沢大学の活動状況報告

矢野 聖二

金沢大学附属病院がんセンター
金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

学内組織

山崎学長

大竹理事

蒲田病院長

北信がんプロ

アドバイザー

金子

多久和

堀

外部評価

谷内江 竹村 土屋 金子 太田 中尾 藤原 村山 川尻 ほか

敬称略

(大学院生の履修依頼)

教授の下の実務者

指名済

(がんプロ修了者含む)

薬学

保健

病院

松下

稲垣

崔

小藤

板谷

(薬剤部)(看護部)(がん登録)

菅

武村

矢野

中田

(主)

(副)

谷本

特任助教

(がんセ) (H30年4月~)

(業務・実務を担当)

絹谷

山田

(第三の道) (認プロ)

(プロジェクト間連携)

溝上

大島

吉崎

(教務) (広報) (アイデア)

(委員会で業務・実務を依頼)

各種委員会 委員リスト

大学名	総務委員会	教務委員会	広報委員会	がんデータベース委員会	オンコロジーセミナー委員会	企画委員会	看護保健系会議
金沢大学	矢野 聖二	溝上 敦	大島 正伸	中田 光俊	矢野 聖二	絹谷 清剛	稲垣 美智子
	中田 光俊	鈴木 健之	吉崎 智一	土屋 弘行	中田 光俊	谷本 梓	塚崎 恵子
		田嶋 敦		谷本 梓			武村 哲浩
		松下 良					松下 良
	武村 哲浩						崔 吉道
信州大学	田中 榮司	田中 榮司	塩沢 丹里	小泉 知展	小泉 知展	伊藤 研一	内田 緑
	小泉 知展	中沢 洋三		野見山 哲生	中沢 洋三		
		小泉 知展		中沢 洋三	塩沢 丹里		
				塩沢 丹里	伊藤 研一		
			伊藤 研一				
富山大学	(主)林 龍二	(主)北村 寛	(主)新田 淳美	(主)林 龍二	(主)藤井 努	(主)北村 寛	(主)安田 智美
	(副)新田 淳美	(副)籾 秀人	(副)長田 拓哉	(副)関根 道和	(副)梶浦 新也	(副)櫻井 宏明	(副)八塚 美樹
福井大学	片山 寛次	小林 基弘	片山 寛次	吉田 好雄	片山 寛次	谷澤 昭彦	上野 栄一
	谷澤 昭彦	磯見 智恵	上野 栄一	黒川 哲司	谷澤 昭彦	山下 芳範	繁田 里美
	磯見 智恵	片山 寛次					
金沢医科大学	元雄 良治	下平 滋隆	犀川 太	西野 善一	安本 和生	山田 壮亮	
	下平 滋隆	川端 浩	新井田 要	浦本 秀隆	木南 伸一	川崎 康弘	
石川県立看護大学	石垣 和子	牧野 智恵	今井 美和		今井 美和	牧野 智恵	牧野 智恵
	牧野 智恵	岩城 直子	林 静子		磯 光江	山崎 智可	金谷 雅代

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容**
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

北信がんプロの教育コース

本科生コース（10）平成30年4月受入れ開始

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	先端的個別化医療コース	医師・歯科医師	0	5	5	5	5	20
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師	0	1	2	2	2	7
	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	医学物理士	0	2	2	2	2	8
信州大	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	医師	0	2	2	2	2	8
	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	多職種	0	1	1	1	1	4
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	0	4	4	4	4	16
	個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師	0	1	1	1	1	4
福井大	地域がん専門医養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
金沢医大	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	医師	0	2	2	2	2	8
石川看護大	がんライフステージコース	看護師	0	2	2	2	2	8
合計			0	22	23	23	23	91

インテンシブコース（9）平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）

	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム医療生涯教育コース	医師・歯科医師	2	6	6	6	6	26
	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	薬剤師	0	2	2	2	2	8
富山大	高齢がん患者対策専門コース	医師	2	2	2	2	2	10
	個別化医療で支える専門的薬剤師養成コース	薬剤師	1	2	2	2	2	9
	在宅がん緩和リハビリテーションコース	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大	在宅栄養管理コース	医師等	0	12	22	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大	がん集学的治療医養成コース	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケアコース	多職種	3	7	7	7	7	31
合計			8	55	67	67	67	264

金沢大学の医師・歯科医師コース

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース(本科・大学院生)
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生
修業年限(期間)	4年
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療(手術、放射線、薬物治療等)を実践できる医師及び歯科医師を養成する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>
履修科目等	<p><選択必修科目> 分子生物学入門(1単位)、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目> がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(1単位)、腫瘍薬物学特論(1単位)、臨床腫瘍学演習(1単位)ほか10科目</p> <p>全国規模のe-learning科目[がんゲノム科目(1単位)、小児・AYAがん科目(1単位)、希少がん科目(1単位)、ライフステージ科目(1単位)]</p>

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース(インテンシブ)
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師
修業年限(期間)	1年(延長可)
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びがんサージカルボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法> 全国規模のe-learning教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したがんサージカルボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>
履修科目等	<p><選択科目> がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、北信オンコロジーセミナー(1単位)、がんライフステージ演習(1単位)</p>

受入目標 20名(30年度～33年度各5名)

26名(29年度2名、30年度～33年度各6名)

29年度は準備期間

金沢大学の薬剤師コース

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース(本科・大学院生)
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生
修業年限(期間)	4年
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。
修了要件・履修方法	<修了要件> 北信がんプロフェッショナル授業科目6単位[必修科目2単位、選択必修科目(実習、演習)1単位を含む]を修得 すること。 <履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。
履修科目等	<必修科目> 分子腫瘍学特論、臨床統計学特論(各1単位) <選択必修科目> 先進的がん薬物療法個別化実習(0.5単位)、有害事象解析演習(0.5単位)、がんライフステージ演習(0.5単位) <選択科目> 腫瘍薬物学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)ほか3科目 全国規模のe-learning科目[がんゲノム科目(1単位)、小児・AYAがん科目(1単位)、希少がん科目(1単位)、ライフステージ科目(1単位)]

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース(インテンシブ)
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。
修業年限(期間)	3月から1年(延長可)
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上 の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナー(がんライフステージ事例検討会等)への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード、がんライフステージ事例検討会等の多職種連携セミナー等への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。
履修科目等	<選択科目> がんゲノム学特論(1単位) 、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、北信オンコロジーセミナー(1単位)、先進的がん薬物療法個別化実習(0.5単位)、有害事象解析演習(0.5単位)、がんライフステージ演習(0.5単位)等

受入目標

7名(30年度1名、31年度～33年度各2名)

29年度は準備期間

12名(30年度1名、31年度3名、32年度～4名)

29年度は準備期間

金沢大学の医学物理士コース

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース(本科・大学院生)
対象者	医薬保健総合研究科(博士後期課程)保健学専攻大学院学生
修業年限(期間)	3年
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を実践できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。
修了要件・履修方法	<修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目12単位以上を修得し、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。 <履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<選択必須科目>腫瘍薬物学特論(1単位)、腫瘍放射線医学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位)、コンサルテーション論(2単位)、分子生物学入門(1単位)、医療統計学特論(2単位)、放射線治療物理臨床技術学特講(2単位)、臨地専門マネージメント演習(2単位) <選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、北信オンコロジーセミナー(1単位)、がんライフステージ演習(1単位) 全国規模のe-learning科目[がんゲノム科目(1単位)、小児・AYAがん科目(1単位)、希少がん科目(1単位)、ライフステージ科目(1単位)]

受入目標 8名(30年度～33年度 各2名)

29年度は準備期間

金沢大学大学院がんプロ本科(大学院生:医師コース)の修了要件

基礎科目群から**4単位**+専門科目群から**6単位**
計**10単位**を**がんプロ科目**で**取得**することによりがんプロコース修了
(さらに論文審査に合格する必要があります)

①基礎科目群(4単位選択)

- ・研究者として自立するために(1単位)【必修】
- ・分子生物学入門(1単位)
- ・分子腫瘍学特論(1単位)
- ・臨床統計学特論(1単位)
- ・臨床栄養学特論(1単位)
- ・臨床統計学演習(1単位) など

がんプロ科目
(4単位)

$$4 + 4 + 22 = 30 \text{ 単位}$$

②領域融合科目群(4単位選択)

- ・基礎系領域融合セミナー(2単位)
- ・臨床系領域融合セミナー(2単位)
- ・メディカル・イノベーションセミナー(2単位)
- ・がん研セミナー(2単位)
- ・学際センターセミナー(2単位)
- ・プレゼンテーション方法論(2単位) など

③専門科目群(22単位選択)

- ・研究分野の特論 (12単位)【必須】
- ・先端医学セミナー (10単位)
- ・Up-to-dateセミナー (2単位)
- ・腫瘍薬物学特論 (1単位)
- ・腫瘍放射線医学特論 (1単位)
- ・がん緩和医療学特論 (1単位)
- ・腫瘍病理学特論 (1単位)
- ・臨床腫瘍学特論 (1単位)
- ・がん外科学特論 (1単位)
- ・がんゲノム特論 (1単位)*
- ・小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)*
- ・在宅緩和ケア特論 (1単位)*
- ・老年医療学特論 (1単位)*
- ・がんライフステージ演習(1単位)*など
- ・認知症基礎 (1単位)
- ・認知症症候学 (1単位)
- ・
- ・
- ・メディカルイノベーション演習(2単位)
- ・インターンシップ (2単位)
- ・

がんプロ科目
(6単位)

認プロ科目

第三の道科目

がんプロの特論はすべてe-learningです *新規に教材作成予定

北信がんプロ

第1回オンコロジーセミナー

大学院生、がん診療連携拠点病院・地域がん診療推進病院等の医師、薬剤師、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師など医療スタッフの皆さま

日時

2017年12月8日（金）
18：00～20：00

会場

金沢大学医学類教育棟
地下大多目的室

プログラム

症例検討1（担当：金沢大学がんセンター）

オシメルチニブ治療に対し対照的な臨床経過を示した
T790M陽性EGFR変異肺がんの2症例

症例検討2（担当：信州大学信州がんセンター）

子宮転移をきたし、耐性遺伝子を検索しえた
ALK肺がんの一例

特別講演 演題「がん研究が導くゲノム医療」

東京大学大学院医学系研究科生化学・分子生物学講座 細胞情報学分野教授
国立がん研究センター 理事・研究所長

間野 博行 先生

受講手続き（大学院生）

・受講を希望する学生は履修届を所属大学の学務係に提出してください。
・詳細は所属大学の学務係にお問い合わせください。

問い合わせ先

・ご不明な点は所属大学の学務担当係または北信がんプロ事務局にお問い合わせください。

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ事務局

[金沢大学大学院医薬保健学総合研究科内]

〒920-8640 金沢市宝町13-1

TEL 076(234)4205/(265)2854 FAX 076(265)2855

E-mail gpro@med.kanazawa-u.ac.jp <http://www.gan-pro.net/>

北信がんプロ第一回オンコロジーセミナーを、各大学・がん診療連携拠点病院間を結んだテレビ会議システムにより開催致しました。

（第1回オンコロジーセミナー 参加人数:90名）

第一回目となる今回は、金沢大学附属病院がんセンター・信州大学医学部附属病院がんセンターより2症例の発表と、国立がん研究センター理事・研究所長の間野博行先生に特別講演として「がん研究が導くゲノム医療」をご講演いただきました。



金沢大学では
ゲノム医療に関する内容を中心に企画を予定

2018年12月（済）

2019年1月～3月

2020年4月～6月

2021年7月～9月

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース**
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

第115回日本内科学会総会・講演会で発表予定(平成30年4月13日～15日:京都)

北信がんプロ・地域がんデータベースによるがん対策立案に向けた金沢大学附属病院での
基礎的検討

金沢大学附属病院がんセンター

谷本梓、西山明宏、足立雄太、竹内伸司、衣斐寛倫、大坪公士郎、矢野聖二

(非会員：学生、山下要、板谷勇輝)

がん対策推進基本計画には、がん登録データで得られた情報を利活用し、各地域の実情に応じた施策の実施が目標として定められている。今年度からスタートした北信がんプロ（金沢大、信州大、富山大、福井大、金沢医科大、石川県看護大）では、北信4県のがん拠点病院の協力を得て地域がんデータベースを構築し、北信地域のがん対策立案に活用することを目指している。今回基礎的検討として、金沢大学附属病院の2013年から2015年の院内がん登録データを分析した。6625例のうち、AYA世代がん（16歳～40歳）は511例（7.7%）で子宮頸がんが最多（138例、27%）であった。子宮頸がんは妊婦検診時に発見されていることが推測され、妊婦検診時の子宮がん検診の実施および精度管理が今後の検討課題に挙げられた。障がい者手帳を有しているがん患者は48例（0.7%）で、様々な臓器にがんが発生していた。うち41例（85%）に積極的ながん治療がなされていたことより、障がい者が十分ながん検診を受診できる体制作りが検討課題に挙げられた。今後、北信4県の協力が得られるがん拠点病院と連携し地域がんデータベース構築を進めていく予定である。

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究**
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

石川県がん診療連携拠点病院と連携したFD研修会

第37回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 平成29年6月29日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「大腸がん化学療法の現況と展望」
 九州大学大学院 連携病態修復内科学講座 教授 馬場 英司先生

座長: 井口 雅史先生 (金沢大学附属病院 乳腺科)
「乳がん治療の最前線」
 愛知県がんセンター中央病院 乳腺科部長 岩田 広治先生

共催: 金沢大学附属病院、株式会社ヤクルト本社、北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン
 後援: 石川県病院薬剤師会

問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

第38回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

(合同開催: 第20回クリニカルパス大会)

日時 平成29年11月9日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 伏田 幸夫先生 (金沢大学附属病院 腎臓外科)
「医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用」
 千葉大学医学部附属病院 医療の質向上本部 地域医療連携部特命医官 教授 小林 美亜先生

座長: 井口 雅史先生 (金沢大学附属病院 乳腺科)
「乳がん治療としての乳房再建～広がる選択肢～」
 聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科 教授 津川 浩一郎先生

共催: 金沢大学附属病院、アストラゼネカ株式会社、北信がんプロ
 後援: 石川県病院薬剤師会 (石川県病院薬剤師会認定シール1単位申請中)

問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

第39回 石川県がん診療連携拠点病院研修会

日時 平成30年3月1日(木)18時～20時

場所 金沢大学附属病院 宝ホール (外来診療棟4階)

対象者 がん診療に携わる医療従事者

演題・演者

座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「がん患者の就労について」
 石川県労働労働基準部 健康安全課 課長 藤井 健人先生

座長: 熊野 智康先生 (金沢大学附属病院 放射線治療科)
「小線源治療」
 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 放射線科 医長 萬 篤憲先生

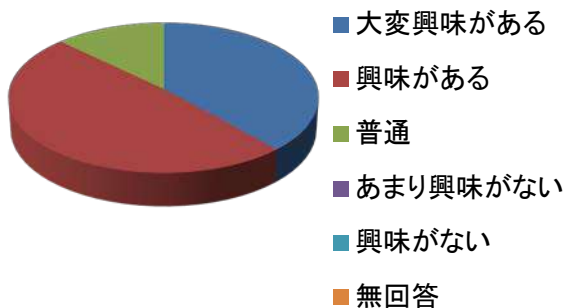
座長: 矢野 聖二先生 (金沢大学附属病院 がんセンター)
「長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による肺癌治療」
 北里大学 呼吸器内科 教授 猪木 克彦先生

共催: 金沢大学附属病院、小野薬品工業株、後援: 石川県病院薬剤師会
 ブリストルマイヤーズスクイブ株、北信がんプロ

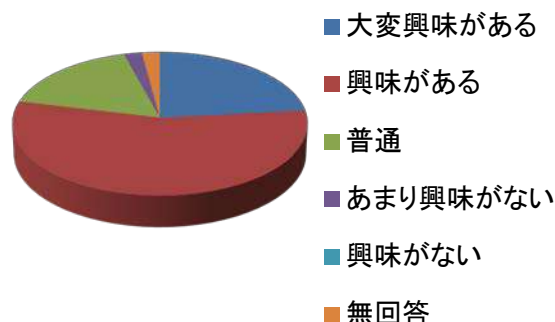
問合せ先 金沢大学附属病院 がんセンター事務(医事課)
 TEL:076-265-2935 FAX:076-234-4303
(平日9:30～15:00)

参加者へのアンケートの結果 (3月1日開催分)

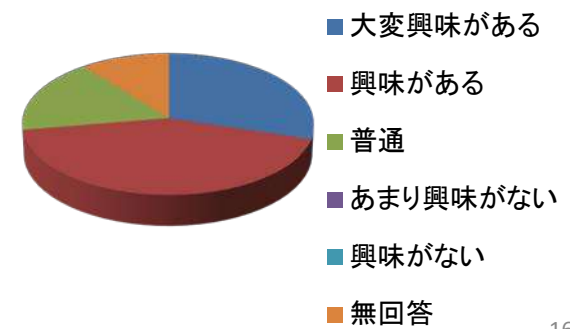
就労支援の講義



小線源治療の講義



肺がん治療の講義



石川県のがん拠点病院と連携した研修会

H19年から39回開催: 2409名以上が参加

平成19年度

研修会名	日時	内容	参加者
第1回	平成19年6月17日(日) 13:00~15:00	分子標的薬剤による治療 Tumor Dormancy Therapy	不明
第2回	平成19年7月21日(日) 14:00~16:00	肺がんの外科的治療と化学療法 がんの発生、転移に関する病理学	不明
第3回	平成19年10月27日(土) 14:00~16:00	化学療法の基本 化学療法の臨床試験、抗癌剤の臨床薬理、抗腫瘍効果判定など 放射線治療 放射線の基本、最新の治療法、ノバルス、リニアックなど	38名
第4回	平成19年11月24日(土) 14:00~16:00	がん性疼痛治療 強オピオイドによる疼痛治療 大腸がん 疫学、病態、病期毎の治療法選択、標準療法	52名
第5回	平成20年1月19日(土) 14:00~16:00	肺がん 分子標的治療の基礎と臨床 乳癌 診断から治療まで	64名

平成20年度

研修会名	日時	内容	参加者
第6回	平成20年5月17日(土) 15:00~17:30	脳腫瘍「最近の脳腫瘍治療指針」 泌尿器「泌尿器科の領域の悪性腫瘍」	64名
第7回	平成20年7月5日(土) 14:30~17:00	血液「造血器腫瘍の治療」 病理「がんの病理診断」	53名
特別講演会	平成20年7月30日(水) 18:00~19:30	命の終焉を愛するー在宅ホスピスにおける心のケア	88名
第8回	平成20年9月20日(土) 14:30~17:00	肝癌「診療ガイドラインから最新情報」 肺癌「肺癌の診断と内科的治療」	57名
第9回	平成20年11月16日(日) 13:00~15:30	婦人科「婦人科癌治療のup to date」 核医学「がん医療におけるアイソトープ診療のポテンシャル」	30名
第10回	平成21年1月25日(日) 13:00~15:30	胃「胃がんの up to date -病態から治療まで-」 栄養「消化器癌化学療法の前線」	42名
第11回	平成21年3月14日(土) 14:30~17:00	骨軟部「骨軟部腫瘍の診断と治療」 頭頸部「1時間でわかる頭頸部がん」	42名

平成21年度

研修会名	日時	内容	参加者
第12回	平成21年7月1日(水) 17:30~18:20	患者及びメディアからがん拠点病院とがんプロに期待するもの	74名
第13回	平成21年9月27日(日) 13:00~15:30	治療と並行する早期からの緩和ケア～チーム医療における看護師の役割～ 粒子線治療:兵庫の経験	15名
第14回	平成22年1月29日(金) 18:00~20:00	大阪府のがん診療連携拠点病院による統一型地域連携バス 腎癌の分子標的治療について	89名
第15回	平成22年2月27日(土) 14:30~17:00	国立がんセンターにおける通院治療センターの現状 精神腫瘍に関する緩和ケア	24名

平成22年度

研修会名	日時	内容	参加者
第16回	平成22年7月31日(土) 13:00~15:30	血液「多発性骨髄腫の診断と治療の進歩」 肺癌「肺癌の診断と内科的治療の現状」	33名
第17回	平成22年9月24日(金) 18:00~20:00	胃がん「胃癌の化学療法と副作用対策ー最近の臨床試験と制吐剤を中心にー」 緩和ケア「がん性疼痛に対する最新のペインコントロールーその有用性と注意点ー」	43名
特別講演会	平成22年10月8日(金) 17:30~19:30	緩和医療の課題と展望	83名
第18回	平成23年1月21日(金) 18:00~20:00	放射線治療 禁煙支援	91名

平成23年度

研修会名	日時	内容	参加者
第19回	平成23年7月14日(木) 18:00~20:00	陽子線治療 外来化学療法室	92名
第20回	平成23年9月30日(金) 18:00~20:00	クリニカルパス 栄養	56名
第21回	平成24年1月27日(金) 18:00~20:00	小児がん オンコロジーエマージェンシー	55名

平成24年度

研修会名	日時	内容	参加者
第22回	平成24年9月6日(木) 18:00~20:00	化学療法 ロボット手術	75名
第23回	平成24年11月2日(金) 18:00~20:00	がん検診 地域連携バス	65名
第24回	平成25年3月7日(木) 18:00~20:00	放射線治療 支持療法	82名

平成25年度

研修会名	日時	内容	参加者
第25回	平成25年7月25日(木) 18:00~20:00	がん研有明病院における腹腔鏡下胃切除の教育 外来化学療法のマネジメント	85名
第26回	平成25年11月8日(金) 18:00~20:00	「つどい場はなうめ」におけるがん患者さんの声 当院におけるクリニカルパスの現状ーDPCデータに基づくパス改訂と地域連携ー	36名
第27回	平成26年2月20日(木) 18:00~20:00	積極的がん治療期における緩和ケア・支持療法 ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)が拓く、がん放射線治療の未来	63名

平成26年度

研修会名	日時	内容	参加者
第28回	平成26年7月24日(木) 18:00~20:00	切除不能肺癌、最強の化学療法 ビデオで見る胃癌手術とコメディカルによるそれぞれの癌治療アプローチ	102名
第29回	平成26年10月23日(木) 18:00~20:00	肺癌の新たな治療法について-2014アップデート- 電子カルテにおけるクリニカルパスの運用	66名
第30回	平成27年2月26日(木) 18:00~20:00	がん患者をとりまく就労の課題とその支援 ここまで進んだ免疫療法 肺がん診療における放射線治療へお役立ちのあれこれ	100名

平成27年度

研修会名	日時	内容	参加者
第31回	平成27年6月18日(木) 18:00~20:00	がん個別化治療を推進する病理・遺伝子診断の現状と課題 胃癌治療、私たちの取り組み	89名
第32回	平成27年10月22日(木) 18:00~20:00	遺伝子異常を有する希少肺癌に対する個別化治療の確立への挑戦 パスを通して実現するチーム医療	71名
第33回	平成28年3月10日(木) 18:00~20:00	がん患者の就労について 前立腺癌の放射線治療 治療の実態と晩期障害 肺癌薬物療法 updateーがん免疫療法の位置づけー	58名

平成28年度

研修会名	日時	内容	参加者
第34回	平成28年6月23日(木) 18:00~20:00	肺がん診療の真実:最新の診断と手術 胃癌化学療法の新展開	65名
第35回	平成28年11月17日(木) 18:00~20:00	NSCLCに対する治療戦略~新しい時代の幕開け~ クリニカルパスによる医療の標準化	71名
第36回	平成29年3月日(木) 18:00~20:00	働く世代のがん患者の支援:就労問題を中心に がん放射線治療の基礎になる放射線生物学の進展 ここまでわかってきたNivolumabの臨床とそのメカニズム	81名

平成29年度

研修会名	日時	内容	参加者
第37回	平成29年6月29日(木) 18:00~20:00	大腸がん化学療法の現況と展望 乳がん治療の最新線	66名
第38回	平成29年11月9日(木) 18:00~20:00	医療の質保証に向けた効率的・効果的なパスの運用 乳がん治療としての乳房再建~広がる選択肢~	97名
第39回	平成30年3月1日(木) 18:00~20:00	がん患者の就労について 小線源治療 長期生存が可能になった免疫チェックポイント阻害薬による肺癌治療	名

海外FD研修会(ワシントンDC)

メインテーマ

がんゲノム医療

日程

H30年2月12日～17日

訪問先

国立ヒトゲノム研究所
(National Human Genome Research
Institute (NHGRI))

国立がん研究所
(National Cancer Institute)



金沢大学からの
参加者

	大学名	所属	役職	氏名
1	金沢大学	脳神経外科	特任助教	田中 慎吾
2	金沢大学	薬剤部	主任	中出 順也
3	金沢大学	薬剤部	薬剤師	板井 進悟
4	金沢大学	がんセンター	助教	谷本 梓
5	金沢大学	革新ゲノム情報分野	准教授	細道 一善
6	金沢大学	分子細胞病理学	助教	尾山 武
7	金沢大学	臨床薬物情報学	准教授	菅 幸生
8	金沢大学	小児科		藤木 俊寛

印象に残った点

- ゲノム研究の実施と並行して、得られたゲノム研究の成果を迅速に社会や医療へ還元することも組織（NIH）の任務となっていること
- 同じ組織に属している研究者が一つの建物に固まらず、組織横断的に配置され、専門が違う研究者間の交流が盛んであること

研修に行って良かった点

- NIHで最先端のゲノム研究に取り組んでいる研究者の熱意を肌で感じることができ、研究に対するモチベーションが高まった
- 海外（特に、米国）の研究者との共同研究は、NIHからのファンドを得られる機会となることを知ることができた

改善すべき点

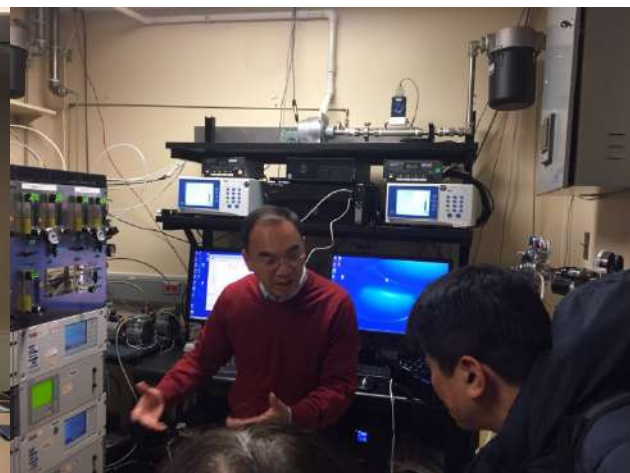
- 具体例を含めた最新の研究成果に触れる機会の多いプログラムとすること
- ゲノム医療に関する臨床研究の現場（病院）の見学があると良い



NIH第1ビルディング



集合写真@NIAID



Discussion@NIDDK

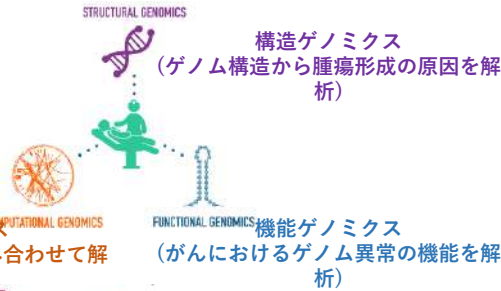
がんプロ海外FD研修に参加して がん進展制御研究所 助教 谷本 梓

CCG : Center for Cancer Genomics

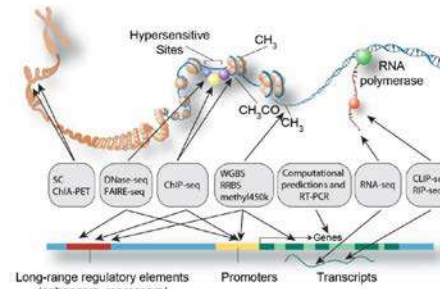
部門横断的に研究協力

NHGRI : National Human Genome Research Institute (国立ヒトゲノム研究所)

米国立癌研究所 (NCI) の組織の1つとして、以下の手法を用いてがん患者に対する診断、治療、予防を進展させることを目的とする。

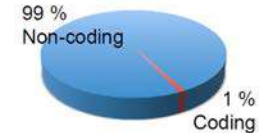


1990年、ヒトゲノムに含まれる30億個の塩基対全てを解読するヒトゲノムプロジェクトの立ち上げと共に設立された。

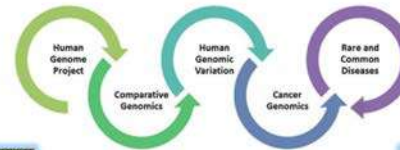


2003年に解読を終了したが、99%がノンコーディング領域であることが判明し、転写領域、転写因子結合部位、クロマチン構造、ヒストン修飾といった要素を複合的に解析している。

[ENCODE project]



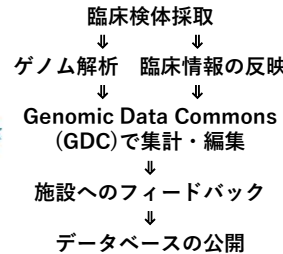
さらに、ゲノムシーケンスの臨床的な実用性、患者やその家族または検査実施施設への影響、そして最終的な臨床意思決定に及ぼす可能性を明らかにしなければならない。



がん、心疾患、糖尿病、脳卒中、自閉症、希少疾患と多岐にわたりプロジェクトが進行している。



一方で、臨床現場へ赴いて患者の心理的な分析を行ったり、議会に対しゲノム医療の政策への反映を働きかけたりなど社会的な活動も担っている。



Mark O. Hatfield Clinical Research Center (NIH内にある臨床試験/治験専門病院)

印象に残った点：NIHにおいて、プロジェクトが立ち上がり次第、必要な部門が組織、投資されて目的を達成していくスピードを感じた。

研修に行ってよかった点：ゲノム医療の課題を知ることができたことで今後わが国でも予想される問題に対峙していくための知識を得ることができた。

改善すべき点：NHGRIの具体的な社会的な活動を視察したかった。

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

合同シンポジウム/国際シンポジウム

- ・目的: 大学院生、スタッフの情報交換・人材交流・国際化
- ・対象: 大学院生、教育・指導スタッフ
- ・方法: 他の教育プログラムとの合同開催

未来医療研究人材拠点形成事業「第三の道」

認知症プロフェッショナル(認プロ)

スーパードクター(信州大)

他のがんプロ拠点

金沢大学がん進展制御研究所

WPI 金沢大学ナノ生命科学研究所(NanoLSI)

国際セミナー
**「Beyond Targeting Oncogenes:
 Emerging Anti-Cancer Strategies」**
9月26日開催 参加人数:87名

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
国際セミナー

**Beyond Targeting Oncogenes:
 Emerging Anti-Cancer Strategies**

Tak W. Mak, Ph.D.

Director, The Campbell Family Institute for Breast
 Cancer Research, Princess Margaret Cancer Centre,
 University Health Network, CANADA

【日時】平成29年9月26日(火) 18:00~19:30
 【場所】金沢大学医学部記念館
 (2階プレゼンテーションルーム)

Tak Mak博士は、免疫学、細胞生物学、がん生物学領域で、数多くの卓越した業績を挙げられ、現在も最先端の研究を精力的に推進している世界的に著名な研究者です。また、最近、免疫や代謝などに関する基礎研究を進展させ、新たながん治療法の開発、創薬研究にも力を入れておられます。この度、日本癌学会より、名誉会員の称号が授与されることとなり、来日を機に、本学で講演いただけることとなりました。奮ってご参加ください。

金沢大学がん進展制御研究所
 所長 平尾 敏
 (連絡先: 渡辺子 染色体研究分野 内線6755)

主催: 超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成(北信がんプロ)
 金沢大学がん進展制御研究所(がん研セミナー)



特別講義
「臨床研究事案から学ぶCOI管理」
10月26日開催 参加人数:107名

未来医療事業と共催

超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
 北信がんプロ

「臨床研究事案から学ぶCOI管理」

特別講義

このことについて、下記の通り開催いたします。

聴講される教職員、学類生、大学院生は、直接会場までお越しください。

記

日 時 : 平成29年10月26日(木) 17:00~18:30
 場 所 : 外来診療棟4階 金大病院CPDセンター
 講 師 : 徳島大学名誉教授 / 徳島市病院局・病院事業管理者
曾根 三郎 先生

CONFLICT OF INTEREST

CONFLICT OF INTEREST

< 共催 >
 金沢大学附属病院先端医療開発センター

※ 本講義は金沢大学附属病院先端医療開発センターが認定する平成29年度
 第5回「人を対象とする医学系研究実施のための講習会」として実施されます。

未来医療研究人材養成拠点形成事業

※ メディカル・イノベーションコースでは、毎週木曜日17:00より講義を行っています。
 興味のある方、スキルアップをお考えの方などご自由に聴講下さいませ。

医療保健系事務部内
 ☎ 076-265-2869

がん進展制御研究所 50周年記念国際シンポジウム 10月25日開催 参加人数:221名

金沢大学がん進展制御研究所
**50周年記念
国際シンポジウム**
Cancer Research Institute,
Kanazawa University
The 50th Anniversary International Symposium

Venue
Kanazawa Tokyu Hotel
Date
25 October 2017

13:00-15:50 International Symposium

Nick Barker
AT STAR Institute of Medical Biology, Singapore
Cancer Research Institute, Kanazawa University, Japan
Lgr5+ stem cells in epithelial homeostasis, regeneration and cancer

David Virshup
Program in Cancer & Stem Cell Biology, Duke-NUS Medical School, Singapore
Exploiting Wnt secretion pathways for therapeutic benefit

Seong-Jin Kim
Precision Medicine Research Center, Advanced Institute of Convergence Science Technology, Seoul National University, Korea
Lessons learned in translating preclinical studies in TGF- β kinase inhibitor drug development. Rationale for combinatorial therapy regimens

Da-Qiang Li
Shanghai Cancer Center & Institutes of Biomedical Sciences, Shanghai Medical College, Fudan University, China
Epigenetic silencing of RNF144A promotes breast cancer progression by enhancing the stability of HSPA2 protein

Seiji Yano
Cancer Research Institute, Kanazawa University, Japan
Mechanism and circumvention of targeted drug resistance in central nervous system metastasis

10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会

10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会
10月25日 金沢大学がん進展制御研究所50周年記念式典・祝賀会

国際シンポジウム 「Joint international symposium 2017」 11月8日開催 参加人数:100名

Joint international symposium 2017
free entrance

DATE
November 8 wed 15:00~

PLACE
Kanazawa University School of Medicine Memorial Hall 2F

[15:00] Opening remarks (Host: Yu Yamazaki, President of Kanazawa University)
[15:05] Genma University remarks
[16:10] Project introduction (Chairperson: Seigo Hiruma, Professor and Project leader, Department of Nuclear Medicine)
Our performance over 5 years and our hope for the future

Special lecture 1
[15:30] Takahiro Uchida, MD, President & CEO, Japanese Organization for Medical Device Development, Inc.
Title: "More Japanese medical devices to the world"
(Chairperson: Tokuhiko Yonezaki, Professor, Institute of Liberal Arts and Science)

Special lecture 2
[16:10] Professor Claude Sardet, PhD, Director Montpellier Cancer Research Institute, University of Montpellier, France
Title: "Coordinated Controls of checkpoints and metabolism by E4F1: Toward novel synthetic lethal approaches to cancer vulnerabilities?"
[16:30] Professor Jacques Collinge, PhD, Professor Montpellier Cancer Research Institute, University of Montpellier, France
Title: "Bionformatics to uncover gene essentially and synthetic lethality in large data sets"
[16:50] Dr. Peter Paul Yu, MD, FACP, FASCO, Physician-in-Chief Hartford HealthCare Cancer Institute, Hartford, Connecticut, USA
Title: "Accelerating Knowledge Generation in Cancer Genomics"
(Chairperson: Akimori Hara, Associate Professor, Department of Environmental and Preventive Medicine)

[17:10] Guidance session descriptions
[17:15] Break (Venue layout change)
[17:25] Guidance session (career advice for our students)
[18:25] Student comments
Guest comments
Project leader comments
[18:50] Closing remarks
(Shigeki Ohtake, Trustee, Liberal Arts and Science and Hospital)

●Main Sponsors:
Kanazawa University, Kanazawa University
●Co-Sponsors:
Innovative Clinical Research Center, Kanazawa University (ICRC)
Fukuroi Cancer Museum, Kanazawa University Hospital
Institute of Liberal Arts and Science
Cancer Drug Laboratory for Gender Equity, Kanazawa University
University of Frontier Science and Innovation
Frontier Science Initiative
University Project
Health Training (HST) Program
Health Professionals for Changing Needs of Cancer (HealthPro Gai-pro)



群馬大と共催

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発**
- 7、今後の予定

市民公開講座

平成29年10月29日（日）第1回北信がんプロ合同市民公開講座

金沢大学宝町キャンパス・十全講堂（医学展との合同開催）
医学部生も運営に参加！

平成30年3月21日（祝・水）石川県がん診療連携協議会県民公開講座

加賀市医療センター （KMCホール）



国が指定するがん拠点病院 石川県合計 5

- 都道府県拠点病院（全国51）
金沢大学附属病院
- 地域拠点病院（全国337）
石川県立中央病院：全県担当
金沢医科大学病院：能登地区担当
金沢医療センター：石川中央地区担当
小松市民病院：南加賀地区担当

県が指定する病院 石川県合計 9

- 協力病院（2） 公立能登総合病院, 恵寿総合病院
- 推進病院（7） **芳珠記念病院** 金沢赤十字病院, 金沢市立病院
金沢社会保険病院, 浅ノ川総合病院,
石川県済生会金沢病院, 公立松任石川中央病院

第20回 石川県がん診療連携協議会 県民公開講座

最新のがんの診断法や治療法を学ぼう

第1部	
(司会)	村上 圓也先生 小松市立病院 病院長
	小橋 一功先生 加賀市医療センター 病院長
1	乳がん
	佐藤 礼子先生 小松市立病院 外科
2	大腸がん
	石田 哲也先生 加賀市医療センター 副院長
第2部	
(司会)	佐久間 貴先生 石川県立中央病院 病院長
	大坪 公士郎先生 金沢大学附属病院 がんセンター副センター長
3	肺がん
	西 耕一先生 石川県立中央病院 呼吸器内科長
4	膵がん
	渡辺 美智夫先生 加賀記念病院 副院長

日時 平成30年3月21日(水・祝)
午後1時～3時

場所 加賀市医療センター KMCホール
〒920-8662 加賀市野々町1336番地

主催 石川県がん診療連携協議会
後援 石川県・石川県医師会・北國新聞社

連絡先 金沢大学附属病院 医事課 がんセンター事務
〒920-8641 金沢市宝町1-3番1号
TEL.076-265-2935(0:00~1:00)
FAX.076-234-4303
email:cancer-center@umin.ac.jp

入場無料

※前日の講座申込みにご協力ください。
(電話・FAX・メールにて受け付けています。)

発表内容

- 1、学内実施体制
- 2、教育コースと講義内容
- 3、地域がんデータベース
- 4、スタッフ研究
- 5、人材交流、合同シンポジウム
- 6、市民啓発
- 7、今後の予定

来年度の取組み

- ・本科生コースの開設 大学院生の受入れ
(3コースに8名)
- ・インテンシブコースでの受講生の受入れ
(3コースに8名)
- ・E-learning教材完成、多職種連携セミナーの充実化
北信オンコロジーセミナー(H31年1~3月に開催)

教育コースの
本格稼働！

- ・地域がんデータベースの構築
研究計画の倫理審査 (H30年4月日本内科学会で発表)
データ収集の開始
- ・スタッフ研修(海外FD研修)
(H29年度海外FD研修の成果報告・H30年度海外FD研修実施)
- ・他の人材養成プログラムとの共催イベント
国際シンポジウム・合同シンポジウム
(がん進展制御研究所 国際シンポジウムと合同開催)
- ・市民公開講座の実施
(H30年10月 日本医学会と合同開催、
12月日本癌治療学会と合同開催)

今年度の活動を
さらに発展！

北信がんプロ実績（平成29年度）金沢大学

主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
A	29	4	19	がんサロンハーモニー「金大がんセンターの最新治療」	患者	医師・患者	49		
A	29	5	17	がんサロンハーモニー「在宅医療～家で明らかに過ごすために～」	患者	医師・患者	55		
A	29	6	21	がんサロンハーモニー「がんの脊椎転移～ドクターXにも出た金沢発の最先端手術はこれだ！～」	患者	医師・患者	48		
	29	6	20	3期北信がんプロ採択についての記者発表					
A	29	6	21	新聞掲載「北信がんプロ採択」（北國新聞）				▲	
G	29	6	27	北信がんプロコーディネーター会議			10		
A	29	7	19	がんサロンハーモニー「『元ちゃんハウス』ってどんなところ？」	患者	医師・患者	39		
	29	7	20	全国がんプロ協議会総会			78		
	29	7	20	第1回 がんプロ全国E-learningクラウド拠点会議					
G	29	8	3	学内組織委員会			31		
G	29	8	9	北信がんプロコーディネーター会議			7		
	29	8	14	全国がんプロ協議会ゲノム医療ワーキング					
A	29	8	22	第1回 運営会議			9		
G	29	9	4	第1回 総務委員会	連携大学		24		参加者 全体
	29	9	8	北信がんプロパンフレット作成					
G	29	9	18	北信がんプロキックオフミーティング			46		参加者 全体
A	29	9	20	がんサロンハーモニー「がんとヨーガ療法」	患者	医師・患者	36		
G	29	9	22	第2回 がんプロ全国E-learningクラウド拠点会議			4		参加者 全体
G	29	9	25	第1回 教務委員会	連携大学		23		参加者 全体
A	29	9	26	金沢大学がん進展制御研究所共催 国際セミナー 「Beyond Targeting Oncogenes:Emerging Anti-Cancer Strategies」			87	○	
N	29	9	28	新聞掲載「障害者にもがん検診を（データベース構築について）」 （北國新聞）				▲	
N	29	9	29	新聞掲載「10/29開催市民公開講座開催案内」（北國新聞）				▲	
G	29	10	5	第1回 がんデータベース委員会	連携大学		20		参加者 全体
A	29	10	18	がんサロンハーモニー「笑顔になるメイク～体験して伝えたいこと～」	患者	医師・患者	19		
	29	10	19	新聞掲載「北信がんプロキックオフミーティング」（北國新聞）				▲	
A	29	10	25	がん進展制御研究所 50周年記念国際シンポジウム			221		
A	29	10	26	特別講義「臨床研究事案から学ぶCOI管理」			107		
A	29	10	29	北信がんプロ合同市民公開講座 「がんになって考える？がんになる前に考える？」	市民公開		157	◎	
	29	10	30	新聞掲載「10/29開催市民公開講座報告」（北國新聞）				▲	
A	29	11	8	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成 共催 「Joint international symposium 2017」	共催		100		
A	29	11	15	がんサロンハーモニー「緩和ケアセンターについて～がん哲学外来を含めて～」	患者	医師・患者	40		
G	29	11	27	第2回 運営会議			10		
G	29	11	30	がんプロ全国e-learningクラウド boost会議					
	29	11	30	新聞掲載「10/29開催市民公開講座報告」（北國新聞）				▲	
G	29	12	5	平成29年度 北信がんプロ第2回総務委員会・教務委員会（合同開催）	連携大学		32		参加者 全体
A	29	12	8	第1回北信がんプロオンコロジーセミナー	オンコロジー	入子院主、医師 中	58	●	金沢大学分
A	29	12	20	がんサロンハーモニー「検査データの見方」	患者	医師・患者	31		
	29	12	7-3/31	金沢ケーブルテレビネットにて「がんプロアワー」放送開始					
N	29	12	13	新聞掲載「がんプロ「地域に還元」矢野教授インタビュー」（北國新聞）				▲	
A	29	1	17	がんサロンハーモニー「あなたの気持ち、ちゃんと伝えてますか？～がんと向き合うためのアドバンス・ケア・プランニング～」	患者	医師・患者			
G	29	1	18	総務委員会	連携大学				
G	29	1	29	全国がんプロフォーラム					
A	29	2	13-16	海外FD研修 ワシントンDC視察 （国立ヒトゲノム研究所・国立がん研究所）	FD	医師		○	
A	29	2	21	がんサロンハーモニー「自分らしい生活を続けよう～がん治療中の食事・趣味・ペットとの付き合い方～」	患者	医師・患者			
S	29	2	27	東海北陸小児血液がんセミナー					

G	29		16	外部評価委員会	連携大学				
A	29		20	がんサロンハーモニー「つらい時の心の置き方」		医師・患者			
A	29	3	21	県民公開講座（加賀医療センター共催）		医師・患者			
C	29		26	第1回北信がんプロオンコロジーセミナー	オンコロジー	大学・院生・医師 他		●	

- A 金沢大学主催行事
- B 信州大学主催行事
- C 富山大学主催行事
- D 福井大学主催行事
- E 金沢医科大学主催行事
- F 石川県立看護大学主催行事
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

- F D等
- C B
- ◎ 市民公開
- ▲ 新聞掲載
- その他

主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
B	29	4	24	・第1回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	35	●	
B	29	5	22	・第2回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	29	●	
B	29	6	1	・市民公開講座：乳がん・早く見つけて治しましょう・	市民公開	市民	62	◎	
B	29	6	26	・第3回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	35	●	
B	29	7	24	・第4回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	29	●	
B	29	8	28	・第5回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	26	●	
B	29	8	31	・市民公開講座：がんと生きる～暮らしとの両立のために～（信州大学）	共催	市民	85	◎	
S	29	9	3	・子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う in 長野」	後援	市民	2,000	◎	長野県細胞検査士会
B	29	9	6	・第1回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	22	●	
B	29	9	9	・市民公開講座：信州大学がん哲学外来in軽井沢	共催	患者	14	◎	
B	29	9	25	・第6回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	31	●	
B	29	10	4	・第2回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	18	●	
B	29	10	23	・第7回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	26	●	
B	29	10	30	・臨時開催がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	24	●	
B	29	11	1	・第3回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	19	●	
B	29	11	12	・市民公開講座：がん化学療法（抗がん剤）における腫瘍内科医の役割	市民公開	市民	70	◎	
B	29	11	27	・第8回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	32	●	
S	29	12	2	・日本臨床腫瘍学会 第8回北信越地区セミナー	共催	医師、医療スタッフ	20	□	日本臨床腫瘍学会
B	29	12	6	・第4回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	18	●	
B	29	12	25	・第9回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	38	●	
B	29	1	11	・第5回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	16	●	
B	29	1	22	・第10回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	32	●	
B	29	2	7	・第6回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ	19	●	
B	29	2	15	・市民公開講座：肺がん内科治療～個別化治療のために～	市民公開	市民	71	◎	
B	29	2	26	・第11回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ	35	●	
B	29	3	7	・第7回がんクリニカルシークエンス外来定期検討会	CB	医師、医療スタッフ		●	
B	29	3	26	・第12回がんセンターボード症例検討会（信州大学）	CB	医師、医療スタッフ		●	

- A 金沢大学主催行事
- B 信州大学主催行事**
- C 富山大学主催行事
- D 福井大学主催行事
- E 金沢医科大学主催行事
- F 石川県立看護大学主催行事
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

- F D等
- C B
- ◎ 市民公開
- ▲ 新聞掲載
- その他

北信がんプロ実績（平成29年度）富山大学									
主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
	29	4							
	29	5							
	29	6							
	29	7							
	29	8							
C	29	9	30・10/1	教育セミナー「がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会」（富山大学附属病院）	教育セミナー	医師	4	○	
C	29	10	28	・平成29年度北信がんプロ人材育成セミナー(富山大学)	教育セミナー	看護職 保健福祉介護関係者他	80	○	
C	29	12	16・17	教育セミナー「エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座in富山」（富山大学附属病院）	教育セミナー	医療・介護・福祉従事者	100	○	
S	29	12	16	富山大学附属病院市民公開講座 －「大きく変わった消化器がん治療と予防」－	市民公開講座	一般市民	317	◎	
C	29	2	18	市民公開講座「緩和ケア市民公開講座 私が、がんになるなんて」（富山大学附属病院）	市民公開	市民・医療関係	約250	◎	
C	29	3	3	市民公開講座「がん患者と家族のための講演会 学ぼう新しいがんの知識 ダヴィンチで新時代の手術へ」（富山大学附属病院）	市民公開	市民・医療関係	800見込	◎	
C	29	3	26	・平成29年度第2回北信がんプロオンコロジーセミナー(富山大学)	教育セミナー	医師・医療スタッフ 他		○	

- A 金沢大学主催行事
- B 信州大学主催行事
- C 富山大学主催行事**
- D 福井大学主催行事
- E 金沢医科大学主催行事
- F 石川県立看護大学主催行事
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

- F D等
- C B
- ◎ 市民公開
- ▲ 新聞掲載
- その他

北信がんプロ実績（平成29年度） 福井大学

主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
D	29		3	他科合同悪性腫瘍症例検討会（カンサーボード）	CB		19		
D	29		5	緩和ケアチームカンファレンス	CB		21		
D	29		5	がん診療推進センター講習会 「胃癌周術期化学療法」	FD		16		
D	29		7	他科合同悪性腫瘍症例検討会（カンサーボード）	CB		11		
D	29		12	緩和ケアチームカンファレンス	CB		12		
D	29		13	がん診療推進センター講習会 「大腸がん後方ライン治療」	FD		27		
D	29		18	がん診療推進センター講習会 「免疫チェックポイント阻害薬」 「チームでのirAEマネジメント」	FD		8		
D	29	4	19	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14		
D	29		21	がん診療推進センター講習会 「がん医療におけるコミュニケーション」	FD		13		
D	29		24	がん診療推進センター講習会 「市中病院における肺癌診療の現状」 「局所進行肺癌における術前治療としてのG n P療法」	FD		10		
D	29		26	緩和ケアチームカンファレンス	CB		18		
D	29		26	がん診療推進センター講習会 「進行再発大腸癌に対する2次治療」	FD		14		
D	29		27	がん診療推進センター講習会 「OIC治療の重要性～スニンプロイク錠経口末梢性オピオイド受容体拮抗薬～」	FD		17		
	29								
D	29	5	10	緩和ケアチームカンファレンス	CB		13		
D	29		17	緩和ケアチームカンファレンス	CB		13		
D	29		24	緩和ケアチームカンファレンス	CB		10		
D	29		24	がん診療推進センター講習会 「アブストラル舌下錠を安全に運用するための取り組み」	FD		21		
D	29		31	緩和ケアチームカンファレンス	CB		13		
	29								
D	29	6	7	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14		
D	29		8	がん診療推進センター講習会 「米国臨床腫瘍学会2017の最新情報共有」 「クリニカルクエスチョン」	FD		16		
D	29		14	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15		
D	29		14	がん診療推進センター講習会 「大腸癌ガイドライン上の位置づけ」 「Late Lineの切り替えのタイミング」 「抗腫瘍効果の判断で重要な点」 「他剤との使い分け」	FD		6		
D	29		21	緩和ケアチームカンファレンス	CB		12		
D	29		21	がん診療推進センター講習会 「肺がん診療ガイドラインとFNマネジメント」 「外来化学療法における薬剤師の役割」	FD		9		
D	29		28	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14		
	29								
D	29		3	がん診療推進センター講習会 「メサペイン錠とWHO方式3段階除痛ラダー」 「大腸がん治療における抗EGFR抗体薬の役割と適切な投与」 「抗EGFR抗体薬の皮膚障害」	FD		17		
D	29	7	5	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14		
D	29		7	他科合同悪性腫瘍症例検討会（カンサーボード）	CB		8		
D	29		12	緩和ケアチームカンファレンス	CB		16		
D	29		19	緩和ケアチームカンファレンス	CB		10		
D	29		26	緩和ケアチームカンファレンス	CB		13		
D	29		28	がん診療推進センター講習会 「大腸癌治療における抗EGFR抗体薬の治療選択」	FD		18		
	29								
D	29		2	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15		
D	29		9	緩和ケアチームカンファレンス	CB		16		

D	29	8	16	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
D	29		23	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15			
D	29		30	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
	29									
D	29	9	4	がん診療推進センター講習会 「ガイドラインに基づいた進行・再発乳がんにおける支持療法の役割」	FD		6			
D	29		6	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15			
D	29		13	緩和ケアチームカンファレンス	CB		16			
D	29		20	緩和ケアチームカンファレンス	CB		13			
D	29		26	他科合同悪性腫瘍症例検討会（カンサーボード）	CB		13			
D	29		27	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
D	29		29	がん診療推進センター講習会 「切除不能・進行再発大腸癌後方ライン治療の新たな治療戦略」	FD		10			
	29									
D	29	10	4	がん診療推進センター講習会 「大腸癌における個別化治療」	FD		14			
D	29		4	緩和ケアチームカンファレンス	CB		19			
D	29		5	がん診療推進センター講習会 「悪性軟部腫瘍に対する化学療法」	FD		8			
D	29		11	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15			
D	29		18	緩和ケアチームカンファレンス	CB		12			
D	29		25	緩和ケアチームカンファレンス	CB		19			
	29									
D	29	11	1	緩和ケアチームカンファレンス	CB		16			
D	29		8	緩和ケアチームカンファレンス	CB		11			
D	29		14	がん診療推進センター講習会 「悪性軟部腫瘍に対するトラベクテジンの可能性」	FD		3			
D	29		15	緩和ケアチームカンファレンス	CB		16			
D	29		20	がん診療推進センター講習会 「進行再発胃癌二次治療の新たな治療戦略」						
D	29		22	緩和ケアチームカンファレンス	CB		18			
D	24		24	看護セミナー「地域で暮らすがん患者への支援」（福井大学）	FD	看護師、医療スタッフ	145	○		
D	29		29	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
D	29	12	30	がん診療推進センター講習会 「がんと血栓症～腫瘍循環器科におけるVTE治療戦略～」	FD		44			
	29									
D	29		6	緩和ケアチームカンファレンス	CB		12			
D	29		12	がん診療推進センター講習会 「医師に求められるEvidenceとNarrative ～婦人科がん治療現場での実践に学ぶ～」	FD		4			
D	29		13	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
D	29		17	県民公開シンポジウム「がん診療最前線」（福井大学）	市民公開	市民	170	◎		
D	29		20	緩和ケアチームカンファレンス	CB		11			
D	29	27	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14				
	29									
D	29	1	10	緩和ケアチームカンファレンス	CB		17			
D	29		10	他科合同悪性腫瘍症例検討会（カンサーボード）	CB		12			
D	29		17	緩和ケアチームカンファレンス	CB		14			
D	29		22	がん診療推進センター講習会 「膵消化管NETに対するユニットの役割と集学的治療」	FD		23			
D	29		24	緩和ケアチームカンファレンス	CB		15			
D	29		28	12/17開催県民公開シンポジウム「がん診療最前線」新聞掲載（福井新聞）	市民公開			▲		
D	29		29	がん診療推進センター講習会 「Liquid Biopsyによるがん診療のパラダイムシフト」	FD		5			
	29									
	29	2								
	29	3								

A 金沢大学主催行事
B 信州大学主催行事
C 富山大学主催行事
D 福井大学主催行事
E 金沢医科大学主催行事

○ F D等
● C B
◎ 市民公開
▲ 新聞掲載

- F 石川県立看護大学主催行事
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

その他

北信がんプロ実績（平成29年度）金沢医科大学

主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
G	29	6	27	北信がんプロコーディネーター会議			1		
E	29								
E	29		14	平成29年度 北信がんプロ金沢医科大学企画募集 (金沢医科大学)					
			18	「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」共同事業協定書締結 (11/22から遡り)					
E	29								
G	29	8	14	全国がんプロ協議会ゲノム医療ワーキング			1		
E	29								
G	29		4	第1回 総務委員会			2		
G	29		18	北信がんプロキックオフシンポジウム			4	▲	
G	29	9	22	第2回 がんプロ全国E-learningクラウド拠点会議			1		
G	29		25	第1回 教務委員会			1		
E	29		26	メディアサイトレコーダー ミニ 受け入れ					
N	29		26	新聞掲載「10/9開催市民公開講座開催案内」(北國新聞)				▲	
G	29		3	第1回 がんプロ担当者打ち合わせ会議 (金沢医科大学)		本学担当者	13		
G	29		5	第1回 がんデータベース委員会			2		
E	29		9	北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座 「がんゲノム医療を知らう：最適の治療を受けるために」 (金沢医科大学)	市民公開	市民	68	◎	石川県医師会 石川県がん診療連携協議会等
N	29		11	新聞掲載「10/9開催の市民公開講座報告」(北國新聞)				▲	
E	29	10	11	第26回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「ゲノムシークエンスによって発がん課程を解き明かす」 (金沢医科大学)	FD	医師、医療従事者	48	◎	
			24	全国がんプロe-learningクラウド参画に関する承認書提出 (金沢医科大学)					
A	29		29	北信がんプロ第1回6大学合同シンポジウム (金沢大学)	市民公開	市民			石川県医師会 石川県がん診療連携協議会等
E	29								
E	29		9	第2回 がんプロ担当者打ち合わせ会議 (金沢医科大学)			9		
E	29	11	21	第27回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「炎症依存的な胃発がんモデルマウスを用いた研究」 「子宮で発症する癌と Pten の関係 - マウスモデルを用いた解析 -」 「病理組織検体のオミックス解析に基づくがんの個別化医療開発とその実装」	FD	医師、医療従事者	29	◎	金沢大学がん進展 制御研究所、 HWRN (Hokuriku Women Researcher's
E	29		21	平成30年度 北信がんプロ金沢医科大学企画募集 (金沢医科大学)					
E	29		30	第2回先進呼吸器外科学セミナー・北信がんプロFD講演会 「「精密医療」のその先に：がん治療新時代の全人的医療とその課題」 (金沢医科大学)	FD	医師、医療従事者	26	◎	
G	29		30	がんプロ全国e-learningクラウド boost会議			3		
G	29		5	平成29年度 北信がんプロ第2回総務委員会・教務委員会(合同開催)			2		
E	29		6	第28回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「Pathology of Paget disease of bone and Paget sarcoma」	FD	医師、医療従事者	14	◎	
E	29		13	第29回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「小児脳腫瘍における分子メカニズム解析」	FD	医師、医療従事者	27	◎	
E	29	12	16	北信がんプロ金沢医科大学市民公開講座 「がんゲノム免疫療法を知らう：自分に最適な治療を求めて」 (金沢医科大学)	市民公開	市民	96	◎	石川県医師会 私立大学ブライディング事業金沢医科大学細胞治療プロジェクト等
N	29		17	新聞掲載「12/16開催の市民公開講座報告」(北國新聞)				▲	
E	29		27	第3回 がんプロ担当者打ち合わせ会議 (金沢医科大学)					
E	29	1	26	第30回腫瘍病理セミナー・北信がんプロFD講演会 「がんを理解するためのゲノム科学と人工知能」 (金沢医科大学)	FD	医師、医療従事者	30	◎	
E	29								
S	29	2	21	中部小児血液がんセミナー プレ症例検討会	セミナー	医師、医療従事者			小児血液がん学会
S	29		27	中部小児血液がんセミナー	セミナー	医師、医療従事者			
E	29								
E	29	3	10-11	・FD研修会「がん診療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会」(金沢医科大学)	FD	医師・SP	10	○	

- A 金沢大学主催行事
- B 信州大学主催行事
- C 富山大学主催行事
- D 福井大学主催行事

- FD等
- CB
- ◎ 市民公開

- E 金沢医科大学主催行事
- F 石川県立看護大学主催行事
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

- ▲ 新聞掲載
- その他

北信がんプロ実績（平成29年度）石川県立看護大学

主催	年度	月	日	行 事	項目	職種別	参加人数	ポスター等	連携団体等
	29	4							
	29	5							
F	29	6	6	・第1回がん看護事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	65	●	
	29	6							
F	29	7	2	・公開講座「グリーフの理解とナースに求められること」（石川県立看護大学）	市民公開	市民	89	◎	
F	29	7	4	・第2回がん看護事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	96	●	
	29	7							
F	29	8	1	・第3回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	56	●	
F	29	8	12	・CNS関係者によるがん看護事例検討会（石川県立看護大学）	看護C B	看護師	18	●	
	29	8							
F	29	9	9	・看護実践セミナー「臨床で行なうリンパ浮腫のケア」（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	64	●	
	29	9							
F	29	10	3	・第4回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	92	●	
F	29	10	22	・CNS関係者によるがん看護事例検討会（石川県立看護大学）	看護C B	看護師	18	●	
	29	10							
F	29	11	7	・第5回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	66	●	
	29	11							
F	29	12	5	・第6回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	58	●	
	29	12							
F	29	1	28	・FD・SD研修「ケアの意味を見つめる事例研究」（石川県立看護大学）	看護C B	看護職	40	○	
	29	1							
F	29	2	6	・第7回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）-悪天候のため中止	C B	看護師・医療スタッフ		●	
F	29	2	17	・看護実践セミナー「臨床で行なうリンパ浮腫のケア アドバンス編」（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ	14	●	
F	29	2	24	・SD講演会「医療者・患者への抗がん剤曝露予防を考えよう」（石川県立看護大学）	FD	看護師・医療スタッフ（薬剤師）	66	○	金沢大学医薬保健研究域薬学系
	29	2							
F	29	3	6	・第8回ライフステージ事例検討会（石川県立看護大学）	C B	看護師・医療スタッフ		●	
F	29	3	24	・海外FD研修（メルボルン/オーストラリア、24日～30日）（石川県立看護大学）	FD	看護師・医療スタッフ（薬剤師）	14	○	
	29	3							

- A 金沢大学主催行事
- B 信州大学主催行事
- C 富山大学主催行事
- D 福井大学主催行事
- E 金沢医科大学主催行事
- F 石川県立看護大学主催行事**
- G ガンプロ関係会議
- S その他（共催等含む）
- N 新聞掲載（広告案内、開催記事等）

- F D等
- C B
- ◎ 市民公開
- ▲ 新聞掲載
- その他

申請担当大学名	金沢大学
選定プログラム名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事務担当者所属・役職	金沢大学医薬保健系事務部学生課・課長
氏名	中平 泰
電話番号	076-234-2126
E-mail	iyakuhogengaku-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

問1. 選定されたプログラムのホームページへの公開状況（平成30年3月31日現在）をそれぞれ○×で回答してください。

<input type="radio"/>	本事業に係る問合せ先、事業責任者、担当教員名等を掲載しているか。
<input type="radio"/>	事業概要（事業の責任・運営体制も含む。）が明示されているか。
<input type="radio"/>	教育プログラム・コース内容の詳細が明示されているか。（シラバスのように講義・実習等の詳細な内容、教員名等の掲載）
<input checked="" type="radio"/>	教育プログラム・コースの受入目標数及び履修者数が掲載されているか。
<input checked="" type="radio"/>	学生向けのPRのためのページがあるか。（履修者の意見、キャリアパスにつながる支援等）
<input type="radio"/>	最新のトピックス（新着情報、活動報告等）などの情報を随時更新しているか。
<input checked="" type="radio"/>	他大学の参考となるような（普及促進に向けた）情報（特色ある取組、導入経緯やノウハウ、留意点等）を掲載しているか。

●ホームページのURLを記載してください（行が足りない場合は追加してください）

大学名	URL
金沢大学	http://www.gan-pro.net/
信州大学	http://www.shinshu-u.ac.jp/good_practice/cancer_gp/
金沢医科大学	http://www.kanazawa-med.ac.jp/graduate/ganpro/ganpro.html
石川県立看護大学	http://www.ishikawa-nu.ac.jp/hokushin/

●ホームページ等の更新回数を回答してください。（事業全体のページについては、大学名欄に事業全体と記入してください）

※枠が足りない場合は行を追加してください。

大学名	金沢大学	事業全体	信州大学	金沢医科大学	看護大学	
HP更新回数	10回	35回	2回	14回	2回	

●SNS(Twitter, facebook 等の更新回数を回答してください。（事業全体のページについては、大学名欄に事業全体と記入してください）

大学名	金沢大学	事業全体	金沢医科大学			
SNS等更新回数	30回	30回	9回			

問2. 外部評価の取組状況（平成29年度）について、下記いずれか1つに○を付してください。

※本調査における外部評価とは、評価委員に第三者が含まれる評価とします。

<input type="radio"/>	1.平成29年度取組について、平成29年度中に外部評価を実施した。
	2.平成29年度取組については、今後外部評価を実施予定である。
	3.平成29年度取組について、外部評価の実施予定はない。

●上記選択肢で1,2を選択した場合は、実施（予定）時期を記入願います。（月まで記入：複数回開催している場合は全て記載してください。）

平成30年3月16日（金）13時～

多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェSSIONAL）」養成プラン 取組状況調査（平成29年度実績調査）②

問3. 本事業において平成29年度に開催したセミナー・シンポジウム等の実績を記載してください。

※連携大学の参加者数は、「学内参加者数」に含めて回答してください。

※達成目標調査時に予定していなかったセミナー・シンポジウムを新たに開催した場合は、最後に行を追加した上で、赤字で記載してください（その際、目標欄は空欄で構いません）

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	
1	合同市民公開講座	持ち回り	1	350	0	1	16	141	6	6
2	国際シンポジウム	金沢大学	1	250	0	1				
3	市民公開講座	連携各大学	7	850	0	11	47	1508	6	1
4	北信オンコロジーセミナー	連携各大学	2	700	0	1	89	6	5	5
5	ライフステージ事例検討会	石川看護大	8	300	0		27			
6	合同FD講習会	連携各大学	1	100	0	2	115	56	3	1
7	FD講演会	連携各大学	5	250	0	6	193	38	6	4
8	看護セミナー	福井大学	1	100	0	1	115	28	1	1
9	国際セミナー	金沢大学				1	87	0	1	1
10	がんサージボード症例検討会	信州大学				14	362			
11	がんクリニカルシーケンス外来定期検討会	信州大学				7	112			
12	日本臨床腫瘍学会 第9回北信越地区セミナー 【がんプロ共催】	信州大学				1		20		
13	子宮頸がん予防啓発プロジェクト「愛は子宮を救う in 長野」【がんプロ後援】	信州大学				1		2000		
14	教育セミナー	富山大学				2		180		
15	公開講座(グリーフの理解とナースに求められること)	石川看護大				1	25	85		
16	OCNS対象がん看護事例検討会	石川看護大				2	10	26	1	
17	看護実践セミナー(臨床で行なうリンパ浮腫のケア 基礎編/アドバンス編)	石川看護大				2	4	77	1	
18										

※目標欄の「参加者数」には連携大学の参加者数も含んだ数字を記載。（目標欄の「参加大学数」は連携大学を含んでいません）

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」 取組状況調査③

大学等名: 金沢大学

連携大学等名: 信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学

※達成目標調査時に回答いただいたコースの詳細を記載しておりますので、空欄の箇所以外は修正しないでください。

※ただし、受入実績は各コースごとに、職種別で記載してください(達成目標調査時に受入目標人数を「その他(複数職種)」として回答した場合でも、行を追加した上で職種別に受入実績を記載してください)

No	コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	職種	入学開始時期	①受入実績						②在学者数(H30.2.1現在)								③修了者数									
							受入目標人数						計		合計		1年次		2年次		3年次		4年次		合計		H29			
							計	H29	H30	H31	H32	H33	計	H29	計	うち旧が んプロ 移行者 数	在学 者数	計	うち旧が んプロ 移行者 数	在学 者数	計	うち旧が んプロ 移行者 数	在学 者数	計	うち旧が んプロ 移行者 数	計	うち旧が んプロ 移行者 数	修了 者数	うち旧が んプロ 移行者 数	
計							91	0	22	23	23	23	0	0	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
1	金沢大学	先端的個別化医療コース	4年	ゲノム	医師	平成30年4月	20	0	5	5	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2	金沢大学	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	4年	その他	薬剤師	平成30年4月	7	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	金沢大学	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース	3年	その他	医学物理士	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	信州大学	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	4年	ゲノム	医師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	信州大学	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	2年	その他	遺伝カウンセラー	平成30年4月	4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	富山大学	高齢がん患者対策専門コース	4年	ライフステージ	医師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			2年		医師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8	富山大学	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	4年	ライフステージ	薬剤師	平成30年4月	4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9	福井大学	地域がん専門医養成コース	4年	その他	医師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10	金沢医科大学	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	4年	希少がん・小児がん	医師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11	石川県立看護大学	がんライフステージコース	2年	ライフステージ	看護師	平成30年4月	8	0	2	2	2	2	0	0	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1		

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」 取組状況調査④【インテンシブコース】

大学等名: 金沢大学

連携大学等名: 信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学

※達成目標調査時に回答いただいたコースの詳細を記載しておりますので、空欄の箇所以外は修正しないでください。

※ただし、受入実績は各コースごとに、職種別で記載してください(達成目標調査時に受入目標人数を「その他(複数職種)」として回答した場合でも、行を追加した上で職種別に受入実績を記載してください)

No	コースを開設している大学名	コース名	養成分野	職種	履修期間(時間数等)	実施形態(下記※より選択)	実施時期(実施年月日)	受入開始時期	受入目標人数						①入学人数(受入実績)				②修了者数				備考
									計	H29	H30	H31	H32	H33	合計		H29		合計		H29		
															計	うち旧が んプロ 移行 者数	入 学 者 数	うち旧 が んプロ 移行 者数	計	うち旧 が んプロ 移行 者数	修 了 者 数	うち旧 が んプロ 移行 者数	
計									269	6	56	69	69	69	10	1	10	1	3	0	3	0	
1	金沢大学	がんゲノム医療生涯教育コース	ゲノム	医師	1年	1	平成30年1月	平成29年10月	26	2	6	6	6	6	1	0	1	0	0	0	0	0	
2	金沢大学	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース	その他	薬剤師	1年	1	平成30年4月	平成30年4月	12	0	1	3	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
3	富山大学	高齢がん患者対策専門コース	ライフステージ	医師	1年	2	平成30年1月	平成29年6月	10	0	3	3	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	
4	富山大学	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	ライフステージ	薬剤師	1年	2	平成30年1月	平成29年10月	9	1	2	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	0	
5	富山大学	在宅がん緩和リハビリテーションコース	その他	看護師	1年	2	平成30年4月	平成30年4月	7	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
6	福井大学	在宅栄養管理コース	その他	医師	1年	2	通年	平成29年10月	8	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
				その他(複数職種)					70	0	10	20	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	福井大学	在宅緩和医療コース	その他	医師	1年	2	通年	平成29年10月	16	0	4	4	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
				その他(複数職種)					80	0	20	20	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	金沢医科大学	がん集学的治療医養成コース	希少がん・小児がん	医師	1年	1	平成30年3月	平成29年10月	9	1	2	2	2	2	2	1	2	1	0	0	0	0	教材作成の遅延により、受け入れ開始時期を変更した(左記の他大学院生1名がインテンシブコース履修生として受
9	石川県立看護大学	がんライフステージコース	ライフステージ	看護師	1年	2		平成29年10月	13	1	3	3	3	3	3	0	3	0	3	0	3	0	がんライフケアコースではないでしょうか?
				薬剤師					4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
				医師					5	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 実施形態については、下記番号いずれかを選択

- 1.科目等履修生等の制度利用によるもの。(大学院等で開設している科目を履修することを要件とするを含むコース)
- 2.公開講座、研修等の制度利用をしているもの。(科目等履修生等の学則上の制度利用をしていないもの)
- 3.その他(備考欄に実施形態を記載:基本的には1.2いずれかに分類すること)

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)」養成プランにおける実績 [平成29年度:事業1年目]

申請担当大学名	金沢大学
連携大学名	信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学
事業名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

① 本事業終了後の達成目標

本事業終了後の達成目標	
達成目標	本事業は、①県の枠を超えた北信地域6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)を設置、継続する。②2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。③さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルの確立を目標とする。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		平成29年度 [工程表作成時]	平成29年度実績	自己評価
インプット・プロセス (投入、入力、活動、行動)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 運営組織設置(学長連絡協議会、内部評価委員会、総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、広報委員会、企画委員会) 教務委員会開催(1-2回) がんデータベース委員会開催(1回) 北信がんプロ運営協議会開催(1回) 広報及び企画委員会開催(1回) FD研修の実施(2大学) 内部評価委員会開催(1回) 第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考(インテンシブ一部受入れ開始) (【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士2名(計22名)) インテンシブコース(受入れ)/医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名)) 	<ul style="list-style-type: none"> 運営組織設置(学長連絡協議会(9月)、外部評価委員会(3月)、総務委員会(3回開催)、教務委員会(3回開催)、がんデータベース委員会(1回開催)、広報委員会(1回開催)、企画委員会(PM運営会議)(2回開催)) 教務委員会開催(3回、9月、12月、2月) がんデータベース委員会開催(1回、10月) 北信がんプロ運営協議会開催(1回、9月) 広報委員会開催(1回、2月) 企画委員会(運営会議)(2回、8月、11月) 外部評価委員会開催(3月) 第一期大学院生専攻・社会人コース受講者選考(インテンシブ一部受入れ開始) (【定員】本科コース/医師15名、遺伝カウンセラー1名、看護師2名、薬剤師2名、医学物理士2名(計22名))※選考中 インテンシブコース(受入れ)/医師7名、看護師3名、薬剤師2名(計12名)※受入れ継続中 海外FD研修の実施(金沢大主催、ワシントンDC) がんゲノム医療の研修として、12名が参加 海外FD研修の実施(石川県立看護大主催、メルボルン) 先進的緩和ケアの研修として、14名が参加 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画、アクションプラン協議 特任教員の採用 金沢大学及び各連携大学にがんプロ事務局を設置 信州大学にテレビ会議システム導入、連携ネットワーク環境の整備 30年度教育コースの学生募集 	<ul style="list-style-type: none"> 学長連絡協議会、北信がんプロ運営協議会を開催し、事業計画、アクションプランを協議、各委員会にて計画検討実施 特任教員の選考、採用決定(連携各大学にて順次採用) 金沢大学及び連携各大学にがんプロ事務局を設置、担当事務員を順次採用 信州大学にテレビ会議システム導入、大学及び病院間のネットワーク環境を整備(クラウド型CMS) 30年度全教育コースの学生募集のポスター(80部)、チラシ(2600部)を作成し、連携大学、がん拠点病院に配布 インテンシブコースパンフレットを薬剤師会などに周知、配布 個別化医療分野での薬剤選択へのゲノム解析実習を実施 高齢化社会での在宅でのがん治療に向けての演習を実施 がん治療についての薬剤師としての専門知識を得るための講義を開講 緩和ケア連携調整員研修へ参加 	A

アウトプット (結果、出力)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座(1回) ・合同シンポジウム(1回) ・国際シンポジウム(1回) ・合同FD講習会の開催(1回) ・オンコロジーセミナー(2回) ・ライフステージ事例検討会(8回) ・第1期インテンシブコース修了者(修了者見込み、医師6名、看護師1名、薬剤師1名(計8名)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同市民公開講座開催(1回、10月、延べ157名参加)※連携各大学学長、コーディネーター、事務局員が出席 ・国際シンポジウム開催(1回、10月、221名参加) ・合同FD講習会の開催(1回、10月、171名参加) ・オンコロジーセミナー開催(2回、12月及び3月、95名参加) ・ライフステージ事例検討会開催(7回、延べ95名参加。6月、7月、8月、10月、11月、12月、3月)※2月荒天のため中止 ・がんサロンハーモニー(金沢大学)(10回、延べ344名参加、4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月) ・国際セミナー(金沢大学)(1回、9月、計87名参加) ・第1期インテンシブコース修了者 医師0名(受講中)、看護師3名、薬剤師0名(受講中) 現在、3名修了。 ・がんセンターの開催(4月～3月各大学) ・連携各大学における市民公開講座の開催(計12回、延べ1,665名参加) ・看護職者及び介護・福祉関係者向けのセミナーを開催(2回、180名参加) ・看護セミナーを開催(1回、143名参加) ・小児血液がんセミナーin中部を開催(2月、北信がんプロ・小児血液がん学会共催、85名参加 ※TV会議方式) ・連携各大学におけるFD講習会開催(1回、66名参加) ・連携各大学におけるFD講演会開催(1回、40名参加) ・OCNS(がん看護専門看護師)対象がん看護事例検討会を実施(1回、36名参加) ・看護実践セミナー開催(2回、延べ81名参加) 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの公開 ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・e-learning講義内容の決定、作成 ・各教育コース関連規定等整備 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携、情報ネットワーク整備 ・内部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・北信がんプロの新ホームページ公開(9月) 受講者向け、医療従事者向け、患者・一般向けコンテンツなどを作成 ・第一期志願者書類審査及び面接試験の実施(3月) ・e-learning講義内容の決定、平成30年3月末までに約7割程度のe-learning講義を収録予定 ・各教育コース関連規定を改正し、受入れ体制を整備した ・北信がんプロ全教育コースを網羅した募集要項を作成し、連携大学に配布 ・インテンシブコース募集要項(115部)作成し、連携大学、がん拠点病院に配布 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携、新TV会議システムを導入し、3月末までに6拠点に新たに設置 ・外部評価委員による評価(3月) ・北信がんプロのニュースレターを発行し、公民館や病院に配布(1月、3月) ・各地方新聞などでの北信がんプロに関する記事掲載(計6回、6月、9月、10月、11月、12月、1月) ・金沢ケーブルTVによるがんプロアワー放送(毎週日曜日)※NPOがんプロ認定機構との合同企画 ・地域包括医療への貢献を連携各病院にて実施。学部学生等が実習に参加した ・保健体育、養護教員などに対してがん教育の講義を実施 ・在宅緩和ケア推進会議を開催(2回) ・患者の意向を尊重した意思決定のための研修会を実施 ・在宅緩和ケア地域医療連携バスの普及活動を実施 	A
アウトカム (成果、効果)	定量的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知 ・北信データベース情報収集 ・地域医療で活躍する薬剤師の輩出(1名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学部学生、研修医をはじめとする大学院入学対象者への北信がんプロの告知(ポスター掲示、パンフレット、チラシ等配布) ・北陸、長野のがん診療拠点病院にアンケート調査を実施、情報収集への協力依頼(20拠点参加予定) ・在宅医療で活躍する薬剤師のスキルアップ及び薬業連携を行い、地域医療で活躍する薬剤師を輩出(2名) ・各大学にて北信がんプロ事業に関する告知、広報活動を行うとともに、教育コースの受講者を募集 	A
	定性的なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・教育コースの構築 ・連携大学及び関連地域医療機関等の連携強化 ・本プランの周知 ・内部評価を基にした検討、改善 ・北信がんデータベース情報内容の精査および方向性の決定 ・情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有する ・北信地域における在宅医療、在宅緩和医療への理解度が高くなる。両立支援、意志決定支援が充足する 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学内規則や科目等履修生規則を見直し、教育コースの構築し、教育指導体制を確立した ・運営協議会や各種セミナーを通して、連携大学及び関連地域医療機関等との連携強化を行った ・外部評価を基にした検討、改善を行った ・北信がんデータベース情報内容の方向性の決定 ・情報発信として学会発表や論文発表を行い、得られた成果を共有した ・市民公開講座や新聞報道を通じ、北信地域における在宅医療、在宅緩和医療への理解度向上、及び両立支援、意思決定につながる 活動を行った ・TV会議システムの基盤整備により、多様なセミナーが受講可能となり、学部及び病院内での学習、研修機会が増加 ・教育学部でのがん教育講習を必修化(平成30年度より、福井大学) 	A
特記事項	<p>全国がんプロ協議会、全国がんプロe-learningクラウド会議等に、積極的に参加し、他拠点の大学間との情報交換・情報共有に努めるほか、連携大学間では各種委員会や担当教員によるミーティング等を随時行い、連携大学間及び学内での情報共有を行った。また、重要事項については、北信がんプロ学長連絡協議会、運営協議会のほか、運営会議(プログラムマネージメント会議)、テレビ会議による総務委員会などで審議し、加えて外部評価委員会にて当初の事業計画との進捗管理を行った。また、新たに整備したテレビ会議システムを用い、オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会、FD講演会を開催するなどし、連携大学、連携病院等に最新の知見を紹介するなど、がんゲノム医療、小児・AYA・希少がん、ライフステージの新3科目の関する、情報発信・情報共有を行った。</p>			

**平成29年度大学教育再生戦略推進費
「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材
(がんプロフェッショナル)」養成プラン」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学) 計6大学
事業名 (全角20字以内)	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

事業責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授・矢野 聖二
	TEL	076-265-2780
	FAX	076-234-4524
事務担当者 連絡先	E-mail	syano@staff.kanazawa-u.ac.jp
	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部学生課長・中平 泰
	TEL	076-265-2126
	FAX	076-234-4208
	E-mail	iyakuhogakusei-kacho@adm.kanazawa-u.ac.jp

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉2期の北陸がんプロ(金沢大、富山大、福井大、金沢医大、石川看護大)では、1)本科生充足率138%の達成、2)チーム医療の柱となる延べ139名の認定資格取得者輩出、3)TV会議システムを活用したがんプロキャンサーボード(109回、194症例、6,337名参加)による多施設・多職種連携の基盤構築、4)小・中学校教諭向けがんe-learning教材の作成・無料配布等、特色ある活動によって北陸地域のがん医療・がん教育向上に貢献し、地域でのがん医療人材育成システム構築の基盤が形成された。

本事業では、先駆的ゲノム医療を実施し、平成7年に全国初の遺伝子診療部を設立した信州大を加えた国公私立の6大学(北信がんプロ)で、北信地域でのがん医療人材育成に取り組む。北信地域には金沢大がん進展制御研究所の高い基礎研究力、附属病院の高い臨床研究力(医師主導治験4件立上げ/3年間)や国内・国際連携力(国立がん研究センターや復旦大等と連携協定締結)、信州大の遺伝カウンセラー養成等先進的特徴がある。また、北信地域は全国と比較し、15年以上進んだ超少子高齢化状態にあり、将来の日本を反映したモデル地域である。北信地域でも全国と同様最先端のゲノム医療による高度医療実現、小児・AYA世代・希少がん治療、ライフステージごとの対応が必要だが、進行した超少子高齢化により、社会を支える小児・AYA世代・働き盛り世代がんの最適な診療・治療・就労支援、増加した高齢者がんの最適な治療・在宅緩和ケアが喫緊のニーズである。これまでは金沢大の先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大の小児・AYA世代がん診療、金沢医大の希少がん病理診断や集学的治療、富山大の高齢者がん対策、福井大の先進的在宅緩和ケア、石川看護大の全人的ケアと認定看護師養成等、各大学が特徴ある診療やがん医療人育成を行ってきた。しかし北信地域では医療スタッフが少ない、小児・AYA世代・希少がん症例数が少ない、地域として医療実態の把握がなされていない等、がん医療人育成における地域的医療課題がある。北信地域に適合するがん医療人材育成のためには、6大学の強みを生かした相互補完的教育の実施、症例数が少ないがんでも効率よく経験できる遠隔教育・研修システムの確立、北信地域全体の症例・がん医療のデータベース化による医療実態の把握等に取り組み、**県の枠を超えた戦略的がん医療人育成システム構築が必要**である。現状の北信地域で多様なニーズに対応した患者中心のチーム医療を行う先進的がん医療人材育成モデルを構築できれば、将来の日本の超少子高齢化社会で活躍するがん医療人材を育成できると考えられる。

〈事業の概要〉

本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人材育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース（本科10、インテンシブ9）を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデル確立を目指す本事業は、「高度職業人養成に資する学習事業や、付加価値が高い学習事業を開発・実施する」とする金沢大の行動計画（YAMAZAKIプラン2016:VISION VIII）と完全に合致する。また、本事業における連携校のそれぞれの強みを生かした相互補完的教育プログラム、多施設・多職種連携の演習による医療人材教育システム構築は、「大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する」とする金沢大第3期中期目標を実践するプロジェクトである。

③新規性・独創性

本事業（北信がんプロ）においては、北信6大学の強み（金沢大：先進的な集学的個別化ゲノム医療、信州大：がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成、小児・AYA世代がん診療、金沢医大：希少がん病理診断や集学的治療・就労支援、富山大：高齢者がん対策、福井大：先進的在宅緩和ケア、石川看護大：患者のライフステージに合わせた全人的ケア・認定看護師養成）を生かした相互補完的教育プログラムを19コース新設（本科10コース、インテンシブ9コース）し、大学の枠を超えて履修できる共通選択科目や単位互換の導入によって、北信地域における多様な新ニーズに対応できる知識を相互補完的に習得できる特色がある。

また、2期がんプロでの北陸5大学と共通のTV会議システムを信州大にも導入し、TV会議システムを活用した従来の北陸がんプロキャンサーボードをさらに充実・発展させた、北信地域での遠隔教育システムの構築・活用に取組む。遠隔教育システムにより6大学やがん診療連携拠点病院の専攻生や教員、医療スタッフ等の多職種が一堂に会する北信オンコロジーセミナー（病態や治療中心）やライフステージ事例検討会（患者ケア・支援中心）を定期開催する。これにより北信地域全体の多職種が、最先端のゲノム医療、小児・AYA世代・高齢者がんや希少がん症例の研究、診断、治療、緩和ケア、就労支援等を効率的に学習することができる。地域医療機関との人材交流、金沢大がん進展制御研究所や国立がん研究センター、シンガポール国立大、復旦大等との連携を利用した国際シンポジウムも実施する。さらに、各大学教員を海外連携機関へFD研修に派遣（平成33年度末までに各大学1回）し、スタッフの活性化とレベルアップを図る。海外FD研修の参加者は、上記TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表（成果共有・還元）すると共に、多職種のスキルアップ指導を行う。これらの取組みによって、多施設・多職種連携を一層推進するチーム医療教育を行うところに本事業の独創性がある。

北信地域のがん症例・がん医療（先進的医療を含む）の実態を把握するため、北信地域のがん診療連携拠点病院（28施設）の院内がん登録データを活用するとともに、金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネージメント部門）が作成する電子入力システム（Ptoshを応用）を用い、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬使用症例、在宅緩和ケア実施症例、障がい者がん症例、妊孕性保存症例など特色ある症例を対象とした独自の北信地域がんデータベースを新たに構築する。それを基盤とした臨床研究（高額な薬剤の有効利用法の探索を含む）成果の国内・国際学会発表や英語論文発表を推進することで、専攻生や教育スタッフの意欲を高め、本事業の求心力を保ち、データベースの情報や論文等の成果を北信がんプロの教育コースへも還元する。研究成果を継続的に社会に発信・還元することで、将来のがん対策の一環として地域住民へ「がん教育（がんの理解）・予防・検診受診・早期発見・早期治療・早期社会復帰」に対する啓蒙を行う。

以上の県の枠を超えた戦略的がん医療人材育成システム構築活動により6大学から輩出される医師・歯科医師・薬剤師・看護師・遺伝子カウンセラー等は、現状の北信地域、ひいては将来の日本の超少子高齢化社会において、ゲノム医療や多職種による就労支援及び切れ目ない緩和ケアを実践し活躍できる先進的がん医療人材となることが期待されるが、このような育成モデル確立に挑戦する点に最大の新規性がある。

④社会との関係（がん患者及びその家族等の視点）

信州大を中心とした遺伝カウンセラー養成では、家族性腫瘍（乳がん、卵巣がん等を含む）の患者・家族のカウンセリングを行い、心のケアや検診・早期発見・早期治療を支援する。また、北信地域の患者会等と連携し、地域メディア（テレビ、新聞、雑誌等）や合同市民公開講座を通じて地域住民にがん教育を行い、がん予防、検診受診による早期発見・早期治療、早期社会復帰等の啓蒙活動を積極的に行う。これらの活動を通じて患者や家族の意見を収集し、北信がんプロ運営協議会でその対応を議論し、がん患者及び家族の視点に立った取組みを推進する。また、2期北陸がんプロでは小・中学校教諭向けがんe-learning教材を作成し、北陸3県の小・中学校に無償配布を行った。本事業ではゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん等の内容を盛り込んだ教材の改訂を行い、北陸3県に加えて長野県や高校にも配布し、がん教育を支援する。全国的にも実態が把握されていない障がい者のがんや特にAYA世代のがん患者や家族において重大な問題となる妊孕性保存についても北信地域がんデータベースで実態を把握し、患者や家族のための対策立案に取り組む。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

北信がんプロでは教員（各大学数名ずつ）を海外連携機関へFD研修に派遣し、後日TV会議システムを活用した北信地域でのFD講習会で成果発表させることにより、国際化と教育のキャリア形成を行う。また、多職種連携、役割分担によるチーム医療を通じて業務の効率化を試み、女性でも継続的勤務が可能な働きやすい職場環境の実現を目指す。2期北陸がんプロで看護師の復帰支援の取組を行い実績を上げたが、連携施設間で他施設の長所を取り入れ、医師、歯科医師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、放射線技師、リハビリテーション技師、栄養士等を含む多職種についても復帰支援を積極的に行う。

⑥達成目標・評価指標

- ・教育プログラム・コースの立ち上げ時期：平成29年10月（一部平成30年4月より開始）
- ・教育プログラム・コースの実施数：本科コース 10、インテンシブコース 9、計19コース

これらの教育プログラム・コースにより、本事業全体として、355名の医師、薬剤師、看護師、遺伝カウンセラー等を輩出し、北信地域における超少子高齢化社会に対応した地域医療従事者の輩出および北信地域医療へ貢献する。
（職種別数値目標は右の表を参照）

その他の指標としては、多職種連携、FD講習、人材交流などの人材育成のためのセミナーやシンポジウムの回数、地域医療レベル向上のための地域医療機関での診療回数、セミナーの実施回数、地域のがん医療の実態を把握する北信地域がんデータベースで機能するデータベース項目数等を掲げる。
（それぞれの数値目標は右の下表を参照）

本科生コース		平成30年4月受入れ開始					
	教育コース	対象	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	先進的個別化医療	医師等	5	5	5	5	20
	個別化薬物療法	薬剤師	1	2	2	2	7
	高度化医学物理士	物理士	2	2	2	2	8
信州大	ゲノムがん治療	医師	2	2	2	2	8
	遺伝カウンセラー	多職種	1	1	1	1	4
富山大	高齢がん患者対策	医師	4	4	4	4	16
	個別化医療薬剤師	薬剤師	1	1	1	1	4
福井大	地域がん専門医	医師	2	2	2	2	8
金沢医大	がん専門医リーダー	医師	2	2	2	2	8
石川看護大	ライフステージ	看護師	2	2	2	2	8
合計			22	23	23	23	91

インテンシブコース		平成29年10月受入れ開始（一部平成30年4月開始）						
	教育コース	対象	H29	H30	H31	H32	H33	合計
金沢大	がんゲノム生涯教育	医師等	2	6	6	6	6	26
	個別化薬物実践	薬剤師	0	1	2	2	2	7
富山大	高齢がん患者対策	医師	2	2	2	2	2	10
	高齢対策薬剤師	薬剤師	1	2	2	2	2	9
	在宅緩和リハ	看護師	0	1	2	2	2	7
福井大	在宅栄養管理	医師等	0	12	22	22	22	78
	在宅緩和医療	医師等	0	24	24	24	24	96
金沢医大	がん集学的治療	医師	1	2	2	2	2	9
石川看護大	がんライフケア	多職種	2	5	5	5	5	22
合計			8	55	67	67	67	264

シンポジウム等（5年間）				
	名称	参加校数	開催数	参加者数
多職種連携	北信オンコロジーセミナー	6	18	6,500
	セミナー	6	30	4,500
FD	海外FD研修	6	1回/校	30
	FD講習会	6	3	90
人材交流	国際シンポジウム	6	2	400
	市民公開講座	6	5	1,000
	地域医療機関での診療	6	3,000	3,000
実態把握	北信地域がんデータベース	7種類以上の機能する疾患データ		

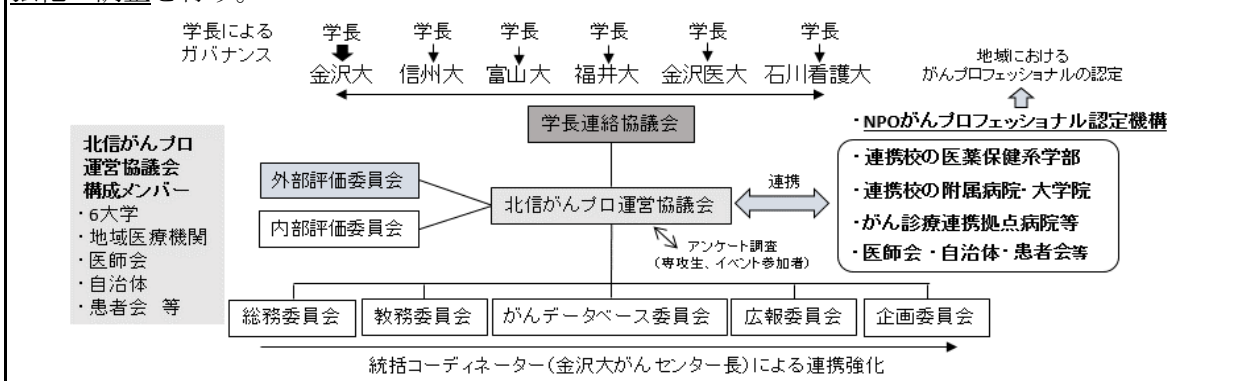
(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

各大学の学長が各施設においてガバナンスを発揮して事業を推進する。全学長が集まる**学長連絡協議会**を設置し、事業の進捗を管理する。6大学・地域医療機関・医師会・自治体・患者会等による**運営協議会**（年1回開催）を設置し、実際の意思決定及び運営を行う。さらに6大学による**総務委員会**（ステアリングコミッティー）、**教務委員会**、**がんデータベース委員会**（がんデータベースの個人情報管理状況、倫理審査状況も掌握）、**広報委員会**、**企画委員会**等を設置（年数回開催）し、実務を担当する。金沢大学がんセンター長が**統括コーディネーター**として6大学の**連携強化・調整**を行う。



②事業の評価体制

内部評価委員会（研究科長等の内部有識者）及び**外部評価委員会**（地域医療機関の長や患者会代表等の外部有識者）を立上げ、事業（特に数値目標の達成状況や一般向け情報発信状態）を定期的（中間、最終）に評価する。各評価委員会が評価結果を北信がんプロ運営協議会に提出し、同協議会で評価に対するPDCAサイクルを回して**事業計画**を見直し、運営状態の改善を常に図る。また、専攻生や市民公開講座等のイベント参加者への**アンケート調査**を行い、同様に事業内容改善を図る。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

連携6大学では学長連絡協議会・北信がんプロ運営協議会等の実施体制を整備し、各大学の強みを生かした**相互補完的教育プログラムのコース**を設置する他、北信オンコロジーセミナーやライフステージ事例検討会等を実施することで、多施設・多職種連携・チーム医療教育を行いスキルアップを図る。北信地域がんデータベースは金沢大附属病院先端医療開発センター（データマネジメント部門）による電子入力システム（Ptoshを応用）構築で、**円滑なデータ管理・運用**が可能となるメリットがある。

また、本事業の実施にあたり、金沢大がん進展制御研究所、国立がん研究センター、がん拠点病院・医師会、患者会、海外連携施設、他のがんプロチーム、文科省人材養成プログラム等と連携する。金沢大がん進展制御研究所により**がんゲノム等の基礎知識教育**を実施する。国立がん研究センター（金沢大が連携協定締結）が実施中の**がん遺伝子解析事業(SCRUM-JAPAN)**と連携し、分子標的薬等による個別化医療研究・医師主導治験に関する支援を受け北信がんプロ及び**北信地域の先進的医療の推進**を図る。シンガポール国立大や復旦大等の海外連携施設では教育・医療スタッフが**海外FD研修**（各大学が1回海外出向）を受け、医療のグローバル化を見据えて教育・医療スタッフの能力向上を図るとともに、FD講習会により北信地域の医療従事者や北信がんプロの教育コース専攻生に**教育成果を還元**する。北信4県のがん拠点病院（28施設）や医師会との連携では北信地域がんデータベース作成の支援を受ける一方で、人材交流による**地域がん医療レベルの向上に貢献**する。また、合同市民公開講座開催で**予防・検診受診による早期発見・早期治療・早期社会復帰の概念を市民に啓蒙・普及**させる。4県の患者会とは運営協議会や市民公開講座を通じて患者の意見を広く取り入れ、**患者目線の医療立案**に役立てる。他のがんプロチームとは合同シンポジウムを開催（H30年2月に名古屋大等と血液がんシンポ開催予定）し、連携を深め本事業の普及を図る。他の文科省人材養成プログラム「（未来医療人材養成プログラム、課題解決型高度医療人材養成プログラム（金沢大・北陸認プロ、信州大・次世代スーパードクターの育成）」とも合同シンポジウム等で交流し相互の事業内容の改善を図る。全国規模のe-learningシステムに参画し、**新規教材作成に協力**して本事業の情報発信を行う一方で、**必須科目教材の提供**を受ける。

(2) 取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する構想

将来の日本の超少子高齢化社会で活躍できるがん医療人材の戦略的育成のため、本事業で設置した教育コース、連携事業等は基本的に各大学の学長のガバナンスにおいて予算を確保して継続させる。特に、北信地域がんデータベース構築事業は、北信地域ひいては将来の日本の超少子高齢化社会における効率的ながん医療人材教育システム構築に向けた基盤形成事業と位置付け、改善・発展させながら継続する。そのために、自己資金の支出のみに依存せず、公的研究費獲得に向けた申請を継続的に行う。

②事業成果の普及に関する計画

本事業で構築するがん医療人材育成システムは、将来の日本の超少子高齢化社会においても機能するがん医療人材育成モデルであり、国内のがん関連学会（日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会等）や市民公開講座、ホームページ、マスメディア（TV、新聞、雑誌等）等を通じて成果を発信し、国民に「がん教育・予防・検診受診促進・早期発見・早期治療・早期社会復帰」の意識付けができるよう啓蒙に努める。

3. 年度別の計画

(1) 年度別の計画

29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 6月 学長連絡協議会、北信がんプロ各種委員会（総務委員会、教務委員会、がんデータベース委員会、企画委員会、広報委員会）の開催、事業計画（中期、年度）等協議 ② 6月～各教育コース設置に伴う関係規定等の整備に着手 ③ 6月 ホームページの立ち上げ ④ 6月 全国規模e-learningシステムへの参加 ⑤ 7月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業計画承認・決定） ⑥ 8月 北信地域がんデータベース構築に着手 ⑦ 9月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（2回/年度） ⑧ 9月 FD講習会の開催（海外FD研修の説明） ⑨ 10月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開催（2回/年度） ⑩ 11月 教育コースの一部開始（インテンシブコースの一部） ⑪ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑫ 1-3月 海外FD研修（2大学が実施予定） ⑬ 3月 内部評価委員会の開催
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議） ② 5月 北信がんプロ運営協議会の開催（事業年次計画の承認・決定） ③ 5月 ライフステージ事例検討会（TV会議方式）の開始（7回/年度） ④ 6月 北信オンコロジーセミナー（TV会議方式）の開始（4回/年度） ⑤ 9月～海外FD研修（4大学が実施予定） ⑥ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑦ 1月 国際シンポジウムの開催 ⑧ 3月 外部評価委員会（中間）の開催 ⑨ 3月 FD講習会の開催
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～④ 前年度事業と同じ ⑤ 11月 6大学合同市民公開講座の開催 ⑥ 3月 内部評価委員会の開催
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑦ 前年度事業と同じ ⑧ 2月 国際シンポジウムの開催
33年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑤ 前年度事業と同じ ⑥ 1月 内部評価（最終）の実施 ⑦ 2月 外部評価（最終）の実施 ⑧ 3月 事業成果報告会の開催
34年度 [補助期間 終了後]	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 学長連絡協議会、各種委員会の開催（事業計画等の協議） ② 4月～北信地域がんデータベース関連の会議の定期開催（改善・発展のための協議）

(2) 事業実施期間に係る補助事業予定額

(単位：千円)

年 度		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
事業予定額		131,900	131,900	131,900	95,800	54,000
内訳	補助金申請予定額	131,900	131,900	131,900	87,000	43,500
	自己負担予定額	0	0	0	8,800	10,500

(3) 平成29年度の補助金申請予定額の積算内訳

(単位：千円)

経費区分	金額	積算内訳
物 品 費	33,931	設備備品費 29,250千円
		TV会議システム・MCU一式 7,650千円 【⑥⑨関係】
		北信地域がんデータベースサーバ 10,000千円 【⑥関係】
		コンピューター・複合機1式(3台) 1,000千円 【③⑨関係】
		UV&RF-HPLC(液体クロマトグラフ)一式 7,000千円 【⑪関係】
		e-learning教材収録機器 3,600千円 【④関係】
		消耗品費 1,301千円
		プログラム支援・教材用消耗品 1,301千円 【⑩⑪関係】
		分担金配分予定(信州大) 100千円
		大学院コース、講座用消耗品 100千円 【⑦⑩関係】
		分担金配分予定(富山大) 1,700千円
		医療職者セミナー・講座用消耗品 1,700千円 【②⑪関係】
		分担金配分予定(福井大) 180千円
		講座・セミナー用消耗品 180千円 【②⑨関係】
		分担金配分予定(金沢医大) 1,000千円
事業推進用、教材用消耗品 1,000千円 【②⑧関係】		
分担金配分予定(石川看護大) 400千円		
事務用消耗品・図書購入費 400千円 【②⑨関係】		
人件費・謝金	36,373	人件費 10,000千円
		プログラム補助用事務補佐員 175千円×10月×2名=3,500千円 (6月～3月：930円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪⑬関係】
		プログラム担当特任教員 650千円×10月×1名=6,500千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(信州大) 11,013千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任助教 450千円×8月×2名=7,200千円 (8月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		コーディネーター 257千円×9月×1名=2,313千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(富山大) 1,500千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(福井大) 7,800千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：960円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		プログラム担当特任教員 630千円×10月×1名=6,300千円 (6月～3月) 【①②⑦⑧⑪関係】
		分配金配分予定(金沢医大) 1,350千円
		プログラム補助用事務補佐員 150千円×9月×1名=1,350千円 (7月～3月：1,250円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】
		分配金配分予定(石川看護大) 1,600千円
プログラム補助用事務補佐員 150千円×10月×1名=1,500千円 (6月～3月：880円/1h) 【①②⑤⑦⑨⑩⑪関係】		
謝金 3,110千円		
FD講演会等講師謝金(25回) 1,200千円 【⑧⑪関係】		
市民公開講座講師謝金(計27回) 1,350千円 【⑩関係】		
ワークショップ等講師謝金(8回) 560千円 【⑦⑨関係】		

旅費	16,806	旅費 10,250千円 運営協議会等旅費(30人×1回)金沢 450千円【⑤⑩関係】 関連学会(2人×5回)国内外 2,300千円【②関係】 海外FD研修会(5人×3大学)1月 7,500千円【⑫関係】 分担金配分予定(信州大) 472千円 関連学術調査(3人×2回)神戸、東京 273千円【②関係】 会議等交通費(1人×5回)金沢 171千円【⑤関係】 講演会講師旅費 28千円【⑩関係】 分担金配分予定(富山大) 1,200千円 関連学術調査(2人×5回) 750千円【②関係】 シンポジウム等講師旅費(14回) 450千円【⑩関係】 分担金配分予定(福井大学) 60千円 シンポジウム講師旅費(2人×1回) 60千円【⑩関係】 分担金配分予定(金沢医大) 2,314千円 関連学術調査(1人×7回)国内外 1,200千円【②関係】 国際セミナー講師招聘旅費(2名×2回)中国 890千円【⑧関係】 事業推進交通費(1人×3回) 224千円【⑤関係】 分担金配分予定(石川看護大) 2,510千円 関連学術調査(1人×3回) 150千円【②関係】 セミナー・実習講師等旅費 1,160千円【⑧⑩関係】 海外研修旅費(2人×1回)オーストラリア 1,200千円【⑫関係】
その他	34,890	外注費 21,750千円 教材コンテンツ作成委託・保守 7,220千円【⑩関係】 ホームページ作成・保守(3大学分) 7,680千円【③関係】 がんデータベースサーバー保守費 5,000千円【③関係】 テレビ会議システム保守費 1,850千円【⑦⑨関係】 印刷製本費 3,620千円 受講生募集資料等 620千円【⑩関係】 活動報告書 300千円【⑩⑫関係】 シンポジウム等ポスター等(9回) 2,700千円【⑩関係】 会議費 3,500千円 シンポジウム会場借上(9回) 3,300千円【⑩関係】 会議飲料等(6大学) 200千円【①⑤関係】 通信運搬費 750千円 各種案内状等送料等(6大学分) 450千円【①⑤関係】 テレビ会議通信費 300千円【⑨関係】 その他(諸経費) 5,270千円 シンポジウム設営費等(2回) 1,800千円【⑩関係】 シンポジウム採録記事掲載(2回) 3,470千円【⑩関係】
間接経費	9,900	
合計	131,900	

4. 同一又は類似の事業(該当が無い場合は「なし」と記入)

他の補助金等の名称	なし
選定年度	
取組名称	
取組の概要(5行以内)	
今回の申請との関連性(5行以内)	

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	先端的個別化医療コース						
対象者	医薬保健学総合研究科医学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療（手術、放射線、薬物治療等）を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目10単位を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必修科目>分子生物学入門（1単位）、分子腫瘍学特論、ほか3科目</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、腫瘍薬物学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習（1単位）ほか10科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の個別化医療は主に遺伝子解析に基づく薬物療法であったが、本コースでは、今後のわが国で必要とされる遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て北信がんプロ科目において学習し、実践できる能力を養う点に独創性がある。演習で、金沢大学附属病院において実施されている医師主導治験や先進医療等の実際を学ぶ（先端医療開発センターや国立がんセンターと連携）。選択演習として、ゲノム解析等により分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の最適化使用を目指す先端の基礎を実際に行う（がん進展制御研究所との連携）プランを設定するところにも特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学がん進展制御研究所や金沢大学の遺伝子解析、個別化医療研究のエキスパートやがんプロ卒業生が、実際に進行しているプロジェクトを通じたon-the-jobトレーニングを行う。また、e-learningやTV会議セミナー等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について教務委員会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、がんゲノム医療における世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム診療のリーダーとして貢献するとともに、高額な薬剤の有効利用により医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		5	5	5	5	20
	計	0	5	5	5	5	20

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療生涯教育コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師及び歯科医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	遺伝子解析に基づいた分子標的治療や免疫チェックポイント阻害薬による治療の概要を理解し、多職種と連携して実地医療における個別化医療を実践できる医師及び歯科医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learnin教材及び本事業の講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来のがん治療の均てん化を目的とした講義内容にとどまらず、本事業においては、今後のわが国で必要とされるであろう遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療（手術、放射線、薬物治療の逐次・同時併用を含む）を行うために必要な一連の過程（遺伝子解析検査説明と同意取得、検体採取と提出、遺伝子解析結果の解釈と患者への説明、治療法選択と治療の実施、効果判定と副作用対策、再発時の対応など）を全て教育し、将来の日本のがんゲノム医療に対応できる能力を養成する点に特色がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがんゲノム医療のエキスパートであるスタッフが、遺伝子解析に基づいた最適の集学的治療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師及び歯科医師は、多職種と連携できるがんゲノム診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院におけるがんゲノム医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師及び歯科医師	2	6	6	6	6	26
	計	2	6	6	6	6	26

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻						
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース						
対象者	医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 以上の様な業務を先駆けて実践し、広めていくことができるリーダー。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位〔必修科目2単位、選択必修科目(実習、演習)1単位を含む〕を修得すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。実習演習科目は、金沢大学医薬保健研究域薬学系又は附属病院を中心に富山大学を含めた他大学及び医療施設と共同で実施する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論（各1単位）</p> <p><選択必修科目>先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）</p> <p><選択科目>>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）ほか3科目</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	全国的にも非常に少ない6年制学士課程の本コース入学者が、将来の薬剤師の教育者、研究者・指導者となること目標とし、がん個別化薬物療法に特化した専門能力を向上させるための4年制博士課程教育の充実をはかる点に独創性がある。患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に必要な薬剤師のスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・職種の間を越えて教育し、多職種連携のリーダーとなる薬剤師を養成するところに新規性がある。						
指導体制	がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する金沢大学の薬学系教員・薬剤師が、臨床現場等でon-the-jobトレーニングにより指導する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格取得が可能となる。更に、がん薬物療法の個別化及び安全性向上を実践し、ん薬物療法及び地域包括ケアを推進する多職種連携のリーダーとなる薬剤師のキャリア形成につながる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻
教育プログラム・コース名	がん個別化薬物療法実践薬剤師コース（インテンシブ）
対象者	薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師又は緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得しようとする者。
修業年限（期間）	3月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん・緩和薬物療法の安全性・有効性を向上させ、がん患者の多様性に応じた個別化薬物療法の処方支援、有害事象回避ができる人材。 がん・緩和薬物療法に関する最新知識を有するとともに、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 がん・緩和領域における地域包括ケアを推進する人材。 次世代のリーダーになることを目指す人材。
修了要件・履修方法	北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びがんボードへの出席又は多職種連携セミナー（がんライフステージ事例検討会等）への参加。 全国e-learningクラウド等のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したがんボード、がんライフステージ事例検討会等の多職種連携セミナー等への参加による学習を行う。実習演習については富山大学との共同開催として、他大学での開講科目も履修可能とする。
履修科目等	<選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、先進的がん薬物療法個別化実習（0.5単位）、有害事象解析演習（0.5単位）、がんライフステージ演習（0.5単位）等
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本プログラムの特色は、がん患者に対する地域包括ケアにおいて、薬剤師が患者の多様性に応じた個別化薬物療法の実践に要求されるスキル（薬物療法の最適化・個別化、有害事象回避、抗がん剤・医療用麻薬の混合調製など）を地域・施設間の壁を越えて、受講者の能力・ニーズに応じた教育を受けられることにある。そのために、先進的がん薬物療法個別化実習では、受講者がそれぞれの能力・ニーズに合致する実習ユニット（個別化薬物療法、在宅緩和医療、病院がん薬物療法、先進的注射薬管理、フィジカルアセスメントなど）が選択できる。また、有害事象解析演習については、TV会議システムを用いて、北信がんプロ参加大学間で協働して実施する。このユニットは、教育プログラムを発展させ、大学間多職種参加型研究プロジェクトとして、がん薬物療法の有害事象対策を多職種連携により確立することを目指すことによって、エビデンスを発信するスキルも学べる点に新規性・独創性がある
指導体制	本コースでは、がん・緩和薬物療法に関連する専門資格を有する薬学系教員・薬剤師が、臨床現場において、on-the-jobトレーニングにより指導する。また、e-learningを活用した受講者の能動的学習を促し、実習により知識を定着化させる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者には、本プログラムを基盤として、日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。さらには、地域において、がん・緩和薬物療法の個別化および安全性を向上させ、地域包括ケアの牽引者となる。そして、それらの経験を生かし、薬剤師や薬学生に対する講義、実習を行うことで、次世代の医療者の育成者となる

受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢大大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻						
教育プログラム・コース名	個別化高度化を担う医療技術・医学物理人材育成コース						
対象者	医薬保健総合研究科（博士後期課程）保健学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	3年						
養成すべき人材像	がん治療において基礎的及び臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において放射線技術および医学物理学による個別化医療を目指す臨床研究を實踐できる診療放射線技師・医学物理士を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目12単位以上を修得し、個別化医療の基礎・臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><選択必須科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、コンサルテーション論（2単位）、分子生物学入門（1単位）、医療統計学特論（2単位）、放射線治療物理臨床技術学特講（2単位）、臨地専門マネジメント演習（2単位）</p> <p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	2期までのがんプロで放射線治療技術の底上げを目指した教育により、放射線治療技術の均てん化は進んできた。その為、2期がんプロのがん専門放射線技術・医療物理コースを改修し、放射線治療技術の更なる高度化や個別化医療に資する人材を育成することを目指す。本コースはその点に新規性がある。また、より高精度な放射線治療技術及び個別化放射線治療の包括的な知識を習得させ、自身で個別化要因を洗い出し、研究を計画・実施・評価できる能力を養う点に独創性がある。金沢大学附属病院におけるon-the-jobトレーニング演習と北陸オンコロジーセミナー等への参加により、より実践的な技術及びがん治療の全体像を学習する点に特色がある。						
指導体制	本コースでは、金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻と金沢大学附属病院の教員やがんプロ卒業生により直接on-the-jobトレーニングを行う。e-learningやTV会議等も活用して幅広く能率的に指導する。指導方法の標準化について、連携協議会で検討する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、世界水準の研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフやがん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における研究及び放射線治療の品質管理のリーダーとして貢献する。得られた知識や研究からの副作用の少ない放射線治療を医師と共同で実践し医療費コストの軽減に貢献する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医学系専攻						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース						
対象者	医学系研究科医学系専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	1) 遺伝性・家族性のがんを含めた幅広いがん治療に精通する医師、2) 個別化医療やゲノム医療の実際を経験し、その重要性を理解し、その推進に関わることができる医師 3) 個別化医療やゲノム医療へのリサーチマインドを有する医師						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞必修科目6単位、選択必修科目6単位、コース選択科目は研究特論を含む18単位、計30単位を修得し、研究論文が学位審査に合格すること。 ＜履修方法＞e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞医科学研究遂行特論ほか2科目（各2単位） ＜選択必修科目＞人類遺伝学研究方法特論（2単位）ほか6科目（各2単位） ＜コース選択科目＞臨床腫瘍学研究特論（8単位）、臨床腫瘍学（4単位）、放射線治療学（4単位）、緩和医療学（4単位）、小児血液・腫瘍学（3単位）、遺伝学的病態学論（2単位）、小児科学研究特論（8単位）、産婦人科研究特論（8単位）、外科学研究特論（8単位）ほか10科目、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位） 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当研究科では 1) 先のがんプロ事業で新規講座を開設し、その担当診療科で、AYA世代から高齢者に渡り、多がん種のがん診療を行う体制を整備した。2) 小児の血液がんおよび悪性腫瘍の診療・研究・指導体制が充実している。3) 附属病院遺伝診療研究センターで、遺伝性・家族性腫瘍患者のデータベースおよび診療が整備されている。4) 附属病院ではゲノム医療推進の試みとしてクリニカルシーケンス開設の準備中である。5) このコースでは、幅広いがん診療・治療を経験させながら、個々のがんゲノム医療の重要性とリサーチマインドを持つ医療人を育成する。						
指導体制	当研究科は従来より大学院生に対して主および副担任制度を設けている。本コースに配属する大学院生に関しては必ずコーディネイターおよび事業推進委員のどちらかの担任となり指導体制をとる。事業推進委員の各教室が連携して幅広い領域の臨床研鑽を可能とし、研究指導を行う。なお、本学医学系研究科（博士課程）は、平成30年度に総合工学系研究科とともに「総合理医工学研究科」を設置すべく準備中であり、新たな研究科の中で人材養成を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	当施設は先のがんプロにおいて大学院修了者を県内の地域がん拠点病院に輩出（2名）及び学内で指導者（2名）として雇用している実績がある。また当附属病院は都道府県がん拠点病院としての責務もあり、院外からも多くの若手ががん治療医の短期研修（総勢3名）の受け入れをし、がん薬物療法専門医等の受験資格までの指導を行ってきた。この事業でも修了者は、県内7か所の地域がん診療連携拠点病院との人材ネットワークの中核として県内全体のがん研究・診療の向上に寄与させる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	信州大学大学院医学系研究科医科学専攻
教育プログラム・コース名	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース
対象者	医学系研究科（修士課程）医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	認定遺伝カウンセラー資格を取得できる能力を身につけた医療人。 家族性・遺伝性がん診療における遺伝カウンセリングの重要性を理解でき、臨床の現場で実践できる医療人。 がん診療におけるクリニカルシーケンスの意義を理解し、臨床の現場で実践できる医療人。 遺伝性がんに関するリサーチマインドを有する医療人。
修了要件・履修方法	<修了要件> 遺伝カウンセリングコースの科目（修士課程必修科目26単位、修士課程選択必修科目4単位、計30単位及びコース必修科目23単位）に選択科目として臨床腫瘍学、がんサロン実習等を加え、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーとなるに相応しい能力があることを試験により確認する。 <履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。
履修科目等	<必修科目> 医科学研究概論（1単位）、生命倫理・医学概論（3単位）、健康科学概論（1単位）、人間機能・形態学概論（1単位）、ほか8科目 <選択必修科目> 医科学研究方法論演習Ⅰ～Ⅵ（各2単位） <コース必修科目> 基礎人類遺伝学（4単位）、遺伝医学（1単位）、染色体検査実習（1単位）、遺伝カウンセリングロールプレイ（2単位）、ほか6科目 <コース選択科目> ライフサイエンス知的財産概論（2単位）、医学科臨床腫瘍学（2単位）、臨床腫瘍学研究特論（2単位）、がんサロン実習（6単位）、ほか4科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	信州大学では平成15年本邦で初めて遺伝カウンセリングコースを設定し、毎年1～3名の学生を受け入れ、今までに15名の認定遺伝カウンセラーを全国（長野県以外では、長崎県、岡山県、福岡県、福島県2名、兵庫県、奈良県、新潟県、大分県）に輩出してきた。このコースでは、従来存在するコースの履修内容に追加して、がんに関する講義と実習の場を選択的に設定することで、がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーを養成する。北陸5大学との連携により、広報に努め、北陸地方からの応募者を積極的に受け入れる。
指導体制	従来の修士課程遺伝カウンセリングコースでは、遺伝医学・予防医学教室及び附属病院遺伝子医療研究センターの教員が、担任として、ほぼマンツーマンの体制で指導し、認定遺伝カウンセラーを養成してきたが、今回開設する「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラーコース」では、遺伝医学・予防医学教室、附属病院遺伝子医療研究センターに加えて包括的がん治療学教室及び小児医学教室の教員が副担任となり、学生の指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、臨床の現場特に当院で始めるクリニカルシーケンスの現場に携わる医療人を目指す。また、関連施設で、遺伝子性のがん診療の現場で遺伝カウンセリングに対応し、遺伝性腫瘍の疫学、臨床研究に参加・関与・推進する。
受入開始時期	平成30年4月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	カウンセラー	0	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース						
対象者	医学研究科大学院学生、医学科研究医養成コース履修者（学部学生）						
修業年限（期間）	4年（学部2年）						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢がん者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあった診療を実現する専門医を養成する。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目26単位以上、選択科目8単位以上を履修し、高齢者がんに関する基礎又は臨床研究を行い、研究論文が学位審査に合格すること。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>腫瘍薬物学等（12単位）、特別研究（14単位）</p> <p><選択科目>分子腫瘍学、がん基本生物学等（9単位）、がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p> <p>注：他大学の授業科目履修は10単位まで認められる</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢がん者に焦点を絞った研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢がん者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山県を含む北信地域は国内でも高齢化率が高い地域で、本プログラムを行う地盤は充実している。富山大学では大学病院でありながら地方の特性を生かし、地域密着型の診療を行っている。在宅療養を目指した地域連携を強化しており、高齢がん患者の看取りまでを踏まえた指導を実現する。富山大学では学部生に対し、研究医養成コースを設けており、このコース学生を本プログラムの対象とすることにより、専門医教育の底辺拡張を目指す。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	e-learningを含む座学による知識習得のほかに、実際の症例を検討する北信オンコロジーセミナーや高齢がん患者の診療を通して専門医としてのスキルを習得する。さらに、北信地域の高齢がんの実態を調査するデータベース研究を展開し、リサーチの実践にも取り組む。コース修了者は地域において最も重要な高齢がん患者診療のプロとして機能するほか、研究を発展させて他地域、次世代への貢献も期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	学部学生		2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者対策専門コース(インテンシブ)						
対象者	各種医療機関で実際にごん診療に携わる医師						
修業年限(期間)	1年(延長可)						
養成すべき人材像	がん患者の多数を占める高齢担癌者の診療を行う上で必要となる老年医学を学び、脆弱な高齢者にあつた診療を実現する専門医。本人の健康状態だけではなく、介護状況などの社会背景、家族への配慮も必要となるため、幅広い全人的医療を行う専門医。スピリチュアルペインに対応し、患者の人生観、死生観にも向き合える医師。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びキャンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したキャンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論(1単位)、小児・AYA世代・希少がん特論(1単位)、在宅緩和ケア特論(1単位)、老年医療学特論(1単位)、がんライフステージ演習(1単位)</p>						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	超高齢社会の我が国においてがん患者の年齢も高齢化している。がんは高齢者に多い疾患であるが、臨床試験が難しく、エビデンスが蓄積されにくい。こうした高齢担癌者に焦点を絞つた研究、人材育成は今まで意外なほど調査研究が進んでいない。高齢担癌者のライフステージに合わせた教育、人材育成に独創性がある。						
指導体制	富山大及び連携機関に所属する高齢者の代表的がんである肺癌の医療を専門とするエキスパートであるスタッフが、老年がん患者診療を行うために必要な一連の過程をe-learning又はシンポジウムで講義する(e-learningやシンポジウム参加、TV会議システムで受講)。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できる高齢者がん診療のリーダーとして、がん診療連携拠点病院等の地域基幹病院における地域医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年6月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	2	2	2	2	2	10
	計	2	2	2	2	2	10

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース
対象者	医学薬学教育部薬学専攻大学院学生
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	がん化学療法のほぼ全てがレジメンに基づき行われ、多くが外来通院で実施されるようになってきている。レジメンの作成や管理、外来化学療法室での医薬品管理や患者への化学療法の説明に加え、緩和医療チームへの参画など薬剤師のがん治療に対する貢献度が特段に増してきている。これらのことについては、日本病院薬剤師会等によって、数多くの講習や実習を含む事業がなされており、基礎的な事柄は6年制薬学部での教育内容に含まれてきている。そこで、我々は、現在の薬剤師を越える高度薬剤師の輩出を目指す。病院における、がん治療や緩和医療の個別化医療に加え、地域包括ケア制度に策定に伴う在宅での抗がん剤や緩和医療への貢献ができる人材の養成をしたい。特に富山県は、三世同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつあることから、大学院生レベルで、医療現場で演習を行うことは意義の高いことである。加えて、国立大学薬学部として、10年後の医療を担う人材の育成も想定し、次世代のゲノム医療にも深い理解を持つ人材を養成したい。
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）を修得し、研究論文が学位論文審査に合格すること。</p> <p><履修用法>授業はe-learning及び対面で行う。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論（各1単位）、がん治療におけるゲノム医療演習、地域包括医療でのがん治療演習、ライフステージ事例検討演習（各0.5単位）</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論、がん緩和医療学特論、がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、ほか4科目（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国立大学での6年制薬学教育を受け、薬剤師免許を有する博士課程薬学専攻の学生を対象とすることから、15年後の日本のがん治療を薬学的観点から担える人材の育成を意識している。現在の病院・薬局薬剤師が、すでに行っていることだけでなく、大学でしか実施できない高度な内容を含む。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、講義に加え、実習や遺伝子多型の検出、それらへの抗がん薬との治療効果などについて、深く学ぶシステムをとる。在宅でのがん治療に参画できるだけの薬剤師としての養成だけでなく、地域で他の職種との連携の要となれるよう本学独自の在宅研修ラボを使用して演習をし、加えて、医療現場での実習も行う予定である。演習、実習科目は、金沢大学附属病院での実施分も富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにし、富山大学での実施分も両大学の大学院生が履修できるようにし、大学間連携を持ち、地域で薬剤師としての医療を支えることを体験する。

指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関する実習のために、同医療薬学研究室 藤 秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関する講義や演習については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	全国の医学部附属病院へ薬剤師として勤務し、日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師を目指し、将来的には、がん専門認定薬剤師やがん専門指導薬剤師の取得をする。6年生薬学部卒業後、4年制の薬学専攻の大学院への入学生は全国でも100名前後であり、特に国公立大学卒業生には、将来の大学病院薬剤部長としての期待がなされている。または、厚生労働省等の中央官庁に勤務し、がん治療を含む行政職につき、日本の薬学関連の医療をリードする。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生	/	1	1	1	1	4
	計	0	1	1	1	1	4

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学医学薬学教育部薬学専攻
教育プログラム・コース名	高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース（インテンシブ）
対象者	北陸3県及び長野県の病院及び薬局薬剤師、特に、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。
修業年限（期間）	3カ月から1年（延長可）
養成すべき人材像	がん治療や緩和医療に加えて、地域包括ケア制度の策定と、高齢化に伴い、在宅での抗がん剤の使用や緩和医療への関与も求められるようになった。特に北陸や長野県は、三世帯同居率が高く、制度の整備とともに、病院薬剤師とかかりつけ薬剤師が連携を持って、治療にあたる体制が構築されつつある。一方で、在宅医療に薬剤師が参画して、間もないことから、理論や技術の習得が困難なのが現状であり、経験則で医療が行われていることも否めない。そこで、薬学系大学院が地域を牽引して、要請度の高い在宅医療でのがん治療に対する薬剤師の役割、最近の抗体医薬品やゲノム医療の講義や演習を実施し、がん治療に関して、最先端医療から地域での在宅医療を担える先導的な人材の育成をする。少子高齢化が日本で最も進んでいる地域であることから、地域全体でも、がん医療を薬学的にリードする人材を育成し、チーム医療を介して、がん患者を全人的に支えることができる薬剤師を輩出する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目6単位（必修科目4単位を含む）の修得。</p> <p><履修方法>授業はe-learning及び対面で行う。本プログラムから開始する高齢者における薬物治療やゲノム医療については、本学の専門家が講義をすることから、1年目は、講義を実施するが、TV会議システムを活用し、金沢大学や他の地域へも公開する。在宅医療に関係する実習については地域病院と共同して実施する。演習・実習科目は金沢大学薬学系が開講する科目の履修を認め、単位互換を可能とする。</p>
履修科目等	<p><必修科目>分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、ほか3科目</p> <p><選択科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）、臨床疫学（2単位）、最先端医療（2単位）、AYA世代診療（2単位）、腫瘍学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか3科目</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義科目は、e-learningにより受講。本プログラムから開始されるがん治療におけるゲノム医療の講義については、平成29、30年度は講義を実施し、平成31年度以降はe-learningに移行する。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分も単位認定を行い、地域連携をする。
指導体制	富山大学大学院医学薬学教育部薬学専攻の統括は、医学薬学研究部・薬物治療学研究室 新田淳美教授が担当する。さらに、地域医療における薬剤師職に関係する実習のために、同医療薬学研究部 藤秀人教授が実習の計画に参画する。また、がん治療へのゲノム医療に関係する講義については、同がん細胞生物学 櫻井宏明教授が担当する。

<p>教育プログラム・ コース修了者の キャリアパス構想</p>	<p>日本医療薬学会が認定するがん専門・指導薬剤師や日本緩和医療薬学会が認定する緩和薬物療法認定薬剤師の資格を取得する。受講者の所属している医療提供機関によって異なるが、急性期病院に勤務する者は、がん化学療法を含むチーム医療に貢献し、ゲノム医療を含めた先進的な化学療法の従事し、臨床研究への参画を期待している。慢性期病院や薬局に所属する者は、緩和医療や終末期医療をはじめ、がん患者へのケアを地域で牽引するようにする。実務実習指導薬剤師となり、次世代の人材養成にも貢献する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成29年10月</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>H31年度</p>	<p>H32年度</p>	<p>H33年度</p>	<p>計</p>
	<p>病院・薬局薬剤師及び薬系大学 教員</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>
	<p>計</p>	<p>1</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>2</p>	<p>9</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	富山大学大学院医学医学薬学研究部（博士前期課程）医学領域看護学専攻成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	在宅がん緩和リハビリテーションコース（インテンシブ）						
対象者	看護師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目指して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージの個人、家族、及び集団に対して、総合的な判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養い、全人的緩和医療が行える看護師。						
修了要件・履修方法	<修了要件>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位）及び「公開講座」又は「実技演習」（1単位）を修得すること。 <履修方法>授業は、TV会議システムにより行う。						
履修科目等	<必修科目>在宅がん緩和リハビリテーション事例演習（1単位） <選択科目>「公開講座」又は「実技演習」（1単位）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県におけるTV会議システムや富山がん事例検討会にて、緩和ケア・がんリハビリ、在宅療法、化学療法中患者等の困難事例について意見交換・演習を通して、在宅医療における患者・家族のQOL向上・症状コントロールを図るための知識・技術を得る点に特色がある。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師を中心に、医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどそれぞれの立場から意見交換や講義演習を実施する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者にはNPOがんプロフェッショナル認定機構より、「在宅がん緩和リハビリテーション・スペシャリスト」（仮）の認定証を授与する。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		1	2	2	2	7
	計	0	1	2	2	2	7

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学大学院医学系研究科統合先進医学専攻						
教育プログラム・コース名	地域がん専門医養成コース						
対象者	医学系研究科統合先進医学専攻先端応用医学コース腫瘍医学部門の大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたPET、MRIの機能画像診断を用いた臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成						
修了要件・履修方法	<p><修了要件> 共通科目18単位、腫瘍医学部門の科目6単位以上、分野専門科目6単位以上を含む30単位以上を取得し、研究論文が学位審査に合格すること。なお、腫瘍医学部門の科目においては、腫瘍専門科目（北信がんプロ科目）との読み代えにより、修了要件の単位数に算入する。</p> <p><履修方法> e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><共通科目> 医科学基礎総論（4単位）、実験基礎演習（2単位）ほか2科目 <選択科目> 臨床腫瘍学特論（4単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（4単位）、機能画像医学特論Ⅱ（2単位）、機能画像医学演習（4単位）、新設する北信がんプロ科目（5科目：各1単位） 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	従来の統合先進医学専攻 先端応用医学コース 腫瘍医学部門の科目及び北信がんプロ養成プログラムの科目を履修すると共に本学医科学コースの機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、画像診断能力の知識を修得する。						
指導体制	福井大学腫瘍病態治療学講座及び福井大学の教職員が対応する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	研修の修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	大学院学生		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅栄養管理コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	栄養学は全ての医療の基本であり、在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や、脳血管障害その他の慢性疾患で在宅医療を行う場合にも地域の医療資源として在宅栄養管理を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する必要がある。在宅医療においても、経口摂取の維持、経管栄養、静脈栄養など患者の状態に最も適した栄養法を安全に行う事が求められる。そのためには在宅栄養パスの効率的な利用も必要である。この研修は、日本静脈経腸栄養学会NST専門療法師資格取得にも繋がる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）3単位を履修し、試験に合格すること。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設にて20時間以上の研修又は以下の研修を持ってこれに代えることができる。医師にあっては、日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師資格セミナーを受講。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>臨床栄養、在宅緩和ケア、在宅栄養（各1単位）</p> <p><選択科目>以下のいずれかを演習として履修する。NST実習（20時間）</p> <p>医師：日本静脈経腸栄養学会の開催するTNT研修会または医師セミナーを受講。</p> <p>医師以外のスタッフ：日本静脈経腸栄養学会の開催するNST専門療法師セミナーを受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	在宅緩和医療を推進する上で最も重要な技術は栄養管理である。がんにかかわらず全ての慢性疾患で終末期のQOLを高く維持するためには一定以上の技術の習得を要する。拠点病院と在宅のスタッフがこのインテンシブコースを履修することで、在宅栄養管理パスが機能し、シームレスな在宅移行が可能となる。また、地域の各職種の栄養管理技術がレベルアップすることで、安全かつ満足度の高い在宅医療が実現できる。						
指導体制	福井大学医学部附属病院をはじめ、各大学病院の栄養サポートチームが中心となる。日本静脈経腸栄養学会認定教育施設の研修サポートを受ける事ができる。日本静脈経腸栄養学会北陸支部会、TNT委員会もサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師ではNSTのチェアマン、地域NSTの指導者として期待される。医師以外のスタッフは、日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法師資格の取得をめざすことができる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	医師以外		10	20	20	20	70
	計	0	12	22	22	22	78

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福井大学医学部附属病院						
教育プログラム・コース名	在宅緩和医療コース（インテンシブ）						
対象者	一般医師、歯科医師、後期研修医、在宅医療に関わる看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、理学療法士、運動療法士、その他の医療スタッフ						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和は全ての医療の目的であり、特に在宅医療にあっても欠かせない医療技術である。終末期がん患者や慢性疾患の終末期を在宅で療養する場合にも地域の医療資源として緩和医療を安全かつ有効に行うことができる医療者を養成する。在宅医、訪問看護師、訪問薬剤師又は地域の調剤薬剤師、その他地域の医療者が対象となる。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>必修科目（e-learning）4単位を履修し、試験に合格すること。がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加すること。又は国の定める緩和ケア研修会の受講をこれにあてることができる。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目> 緩和医療（1単位）、在宅緩和ケア（1単位）、栄養、在宅栄養（1単位）</p> <p><選択科目> がんプロキヤンサーボードにおける緩和ケア症例検討会に2回以上参加する。又は国の定める緩和ケア研修会の受講。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸地域で用いられている在宅緩和医療パスを用いて、病院から在宅へのシームレスな連携を行うための医療者を養成する。在宅栄養にも重点をおく。						
指導体制	北陸信州の大学緩和ケアチームと緩和医療学会専門医、認定医、暫定指導医が中心に教育を行う。緩和医療学会緩和ケア研修会が研修をサポートする。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了者は、医師では施設の緩和ケアチーム医師、緩和ケア病棟医師、地域緩和ケアチームのリーダーとしての活躍が期待できる。また、日本緩和医療学会の専門医を目指す為の教育を提供できる。医師以外のスタッフでは、地域緩和ケアチームのスタッフとして期待される。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		4	4	4	4	16
	医師以外のスタッフ		20	20	20	20	80
	計	0	24	24	24	24	96

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース						
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院学生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	希少がんを含むがん患者を臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指し、がん患者の思いに寄り添い、最新のエビデンスと情報を集めると同時に、患者・家族の希望を叶えられるように努力できる、がん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士（医学）を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目12単位を含む15単位を修得したのものには北陸がんプロフェッショナル認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法>e-learning教材、TV会議によるセミナー、演習等で履修する。</p>						
履修科目等	<p><必修科目>腫瘍薬物学特論（1単位）、腫瘍放射線医学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）ほか9科目</p> <p><選択科目>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、臨床統計学演習、分子生物学入門 がんゲノム学特論、在宅緩和ケア特論、老年医療学特論、がんライフステージ演習、北信がんプロ科目（5科目）（各1単位）</p> <p>全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢医科大学再生医療センターにおける希少がん等対象の免疫療法・再生医療、金沢医科大学病院集学的医療部遺伝子医療センターにおける遺伝カウンセリングにおける独自の教育内容を有する。また金沢医科大大学院医学研究科腫瘍内科学/金沢医科大学病院腫瘍内科では肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明癌などの臓器横断的分野の診療・教育・研究を行っている。						
指導体制	腫瘍内科学：元雄 良治、安本和生、再生医療学：下平 滋隆、先進呼吸器外科学：浦本 秀隆、消化器外科治療学：小坂 健夫、遺伝子医療センター：新井田 要、をはじめとする本施設の教育スタッフが指導を行う。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本教育コースの修了者は、各専門分野の専門医・認定医等の資格を取得し、その後は地域を問わず広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できる。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻						
教育プログラム・コース名	がん集学的治療医養成コース（インテンシブ）						
対象者	地域でがん診療に携わる医師						
修業年限（期間）	1年（延長可）						
養成すべき人材像	富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療などに造詣の深い医師を養成する。						
修了要件・履修方法	<p><修了要件>北信がんプロフェッショナル授業科目3単位以上の修得及びカンサーボードへの出席又は多職種連携セミナーへの参加。</p> <p><履修方法>全国規模のe-learning教材及び本事業が開催するがんゲノムシンポジウムにおける講義教材を利用して自己学習を行うのみならず、TV会議システムを利用したカンサーボード又は多職種連携セミナーへの参加による学修を行う。</p>						
履修科目等	<p><選択科目>がんゲノム学特論（1単位）、小児・AYA世代・希少がん特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、北信オンコロジーセミナー（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当施設が実地医療を担当している地域のがん診療に携わる医師を対象として、希少がんや小児がんを含む様々ながんの集学的治療の教育機会を提供する点に新規性がある。						
指導体制	大学及び連携機関に所属するがん集学的治療のエキスパートであるスタッフが、様々ながん種に対する集学的治療を行うために必要なスキルをe-learning又はシンポジウムで講義する（e-learningやシンポジウム参加、TV会議で受講）。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された医師は、多職種と連携できるがん集学的治療のリーダーとして、地域基幹病院におけるがん医療に貢献する。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	地域医療機関の医師	1	2	2	2	2	9
	計	1	2	2	2	2	9

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフステージコース						
対象者	看護専門看護師コース大学院学生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者のQOLの向上を目的として、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける痛みに関する知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。						
修了要件・履修方法	共通科目と各専門看護分野の専門科目から38単位の他に「がんライフステージ演習」を履修すること。「がんライフステージ演習」は、各大学のTV会議システムからの参加でも可能とする。						
履修科目等	<必修科目>看護科学論（2単位）、看護研究（2単位）、フィジカルアセスメント（2単位）、病態生理学（2単位）、臨床薬理学（2単位）、特別研究（6単位）、成人看護学特論（2単位）、がん看護援助論（2単位）、がん病態治療学特論（2単位）、緩和ケア演習Ⅰ（2単位）、がん看護学演習Ⅰ（2単位）、ほか6科目 <選択科目> コンサルテーション論（2単位）、ケアと哲学（2単位）、がんゲノム学特論（1単位）、在宅緩和ケア特論（1単位）、老年医療学特論（1単位）、がんライフステージ演習（1単位）、ほか5科目 全国規模のe-learning科目〔がんゲノム科目（1単位）、小児・AYAがん科目（1単位）、希少がん科目（1単位）、ライフステージ科目（1単位）〕						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでの「がんライフステージ演習」は、テレビ会議システム等を活用し、がん看護専門看護師養成コースを有する大学（石川県立看護大学、富山大学、福井大学）が提携し、単位互換を可能とする。従来の教育とは異なり、各大学の教授陣の専門を学ぶことが出来る。講師として、がん看護、小児看護、老年看護、リエゾン看護の専門看護師を採用することで、それぞれの専門性の視点から、各ライフステージにおけるがん看護について理解を深めることができる。						
指導体制	北信越におけるがん看護専門看護師、小児看護専門看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師を講師に迎え、講義や演習を通してライフステージにおけるがん看護の特徴と支援の在り方を教授する。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了には北信がんプロNPO機構より「がんライフステージ・スペシャリスト」の認定を授与する。また、本コース修了生は、北信がんプロのインテンシブコース等で講義、演習を行い、さらに自身のキャリアアップを行う。						
受入開始時期	平成30年4月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師		2	2	2	2	8
	計	0	2	2	2	2	8

教育プログラム・コースの概要

大学名等	石川県立看護大学大学院看護学研究科（博士前期課程）看護学専攻実践看護学領域成人看護学分野						
教育プログラム・コース名	がんライフケアコース（インテンシブ）						
対象者	看護師、薬剤師、医師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等						
修業年限（期間）	6月～1年						
養成すべき人材像	これまでのがん看護経験又はすでに取得している専門看護師が、がん看護、小児看護、老年看護のそれぞれの専門性を活かし、全人的痛みに関する事例やミニレクチャーを通して、小児、AYA世代、壮年、高齢者といった各ライフステージにおける全人的痛みに関する生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師を養成する。						
修了要件・履修方法	＜修了要件＞がんライフステージ演習1単位以上の修得及び公開講演への参加。 ＜履修方法＞TV会議によるセミナー、演習等で履修する。						
履修科目等	＜必修科目＞がんライフステージ演習（1単位）、公開講演への参加。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸3県においてTV会議システムやWeb会議システムを利用して、各専門看護師や薬剤師、医師で、緩和ケア、がんリハビリ、化学療法中の患者への疼痛ケア事例について意見を交換をおこない、各対象に応じた緩和ケアの知識・技術を得ることができる。						
指導体制	北陸3県のがん看護専門看護師と薬学部の学生、薬剤師を中心に、小児専門看護師、老人看護専門看護師、薬剤師、医師、理学療法士がそれぞれの専門的立場からテレビ会議システムを通して、事例検討する。それぞれの専門を互いに共有することで、小児、AYA世代、老年期の特徴を理解すると共に患者の全人的理解とそのケアについて検討していく。がん患者の会などとも連携を取り、事例検討のうち1-2回は、患者会にも参加していただく。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了者は、地域基幹病院のみならず、僻地におけるがん医療に貢献する。また、この経験を生かし、看護師、学部生（看護、薬学、医学）への関わりの中で、次世代のがん医療従事者の育成に関わる。						
受入開始時期	平成29年10月						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	看護師	1	3	3	3	3	13
	看護師以外の多職種	1	2	2	2	2	9
	計	2	5	5	5	5	22

事業の実施体制（担当者一覧）

	氏名	所属(研究科・専攻等)・職名	事業における役割
	(事業責任者)		
1	矢野 聖二	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、がん進展制御研究所教授	事業推進統括コーディネーター、北信がんプロ運営協議会会長、総務委員会
2	山崎 光悦	金沢大学学長	学長連絡協議会会長
3	吉崎 智一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院研修医・専門医総合教育センター長	広報委員会委員長
4	絹谷 清剛	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院核医学診療科長	プログラム間連携担当
5	中田 光俊	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院脳神経外科診療科長	がんセンターハウス委員会委員長
6	溝上 敦	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院泌尿器科診療科長	教務委員会委員長
7	大島 正伸	金沢大学がん進展制御研究所教授	広報委員会委員長
8	村山 敏典	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院臨床開発部長	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
9	土屋 弘行	金沢大学医薬保健研究域医学系教授、附属病院整形外科主任教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
10	衣斐 寛倫	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻准教授、がん進展制御研究所准教授	北信地域がんセンターハウス担当 (コアメンバー)
11	堀 修	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科長	医学系内の調整
12	原田 憲一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授	教育カリキュラム開発・編成担当
13	蒲田 敏文	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻教授、附属病院病院長	実習総括
14	谷本 梓	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科医学専攻助教、がん進展制御研究所助教	実習コーディネーター担当（医学総括）
15	稲垣 美智子	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻長	北信がんプロ運営協議会委員、保健学系内の調整
16	武村 哲治	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻教授	保健学系内の調整
17	松下 良	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授	北信がんプロ運営協議会

18	菅 幸生	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻助教	教育カリキュラム開発・編成担当
19	松永 司	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授	薬学系内の調整
20	国嶋 崇隆	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻長	薬学系内の調整
21	玉井 郁巳	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻教授、大学院医薬保健学総合研究科薬学専攻長	薬学専攻内の調整
22	濱田 州博	信州大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
23	田中 栄司	信州大学学術研究院医学系教授、大学院医学系研究科長	事業総括
24	小泉 知展	信州大学学術研究院医学系教授（包括的がん治療学教室）	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
25	中沢 洋三	信州大学学術研究院医学系教授（小児科学教室）	教育カリキュラム開発・編成担当
26	伊藤 研一	信州大学学術研究院医学系教授（外科学第二教室）	事業推進委員会委員
27	塩沢 丹里	信州大学学術研究院医学系教授（産婦人科教室）	事業推進委員会委員
28	古庄 知己	信州大学学術研究院医学系准教授（遺伝子医療研究センター）	事業推進委員会委員
29	本田 孝行	信州大学学術研究院医学系教授、医学部附属病院長	事業推進委員会委員
30	遠藤 俊郎	富山大学長	事業総括
31	齋藤 滋	富山大学附属病院長	事業推進プロジェクトリーダー
32	林 龍二	富山大学附属病院臨床腫瘍部教授	教育カリキュラム開発・編成担当（総括）
33	長田 拓哉	富山大学附属病院集学的がん診療センター人材育成部門長	広報戦略担当
34	北村 寛	富山大学大学院医学薬学研究部泌尿器科教授	教育カリキュラム開発・編成担当
35	関根 道和	富山大学大学院医学薬学研究部疫学・健康政策学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
36	梶浦 新也	富山大学附属病院集学的がん診療センター緩和ケア部門長	実習コーディネーター担当（総括）
37	牧野 輝彦	富山大学大学院医学薬学研究部皮膚科准教授	実習コーディネーター担当
38	新田 淳美	富山大学大学院医学薬学研究部・薬物治療学研究室教授	富山地域での薬学関連事業の総括、金沢大学や他大学病院との連携担当
39	藤 秀人	富山大学大学院医学薬学研究部・医療薬学研究室教授	地域医療に対する実習・演習担当
40	櫻井 宏明	富山大学大学院医学薬学研究部・がん細胞生物学教授	ゲノム医療に関する講義実施の総括
41	眞弓 光文	福井大学長	事業総括・学長連絡協議会委員
42	片山 寛次	福井大学大学院医学領域附属病院部がん診療推進センター長	総務委員会委員、教務委員会委員、広報・ICT委員会委員、キャンサースポード運営委員会委員

43	谷澤 昭彦	福井大学大学院医学領域 がん専門医育成推進講座教授	総務委員会委員、カンサポード運営委員会委員、備品調達委員会委員
44	上野 栄一	福井大学大学院看護学領域 基礎看護学分野教授	広報・ICT委員会委員、看護保健系会議委員
45	磯見 智恵	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野教授	総務委員会委員、教務委員会委員
46	小林 基弘	福井大学大学院医学領域腫瘍 病理学分野教授	教務委員会委員
47	山下 芳範	福井大学大学院医学領域附属 病院部医療情報部准教授	備品調達委員会委員
48	繁田 里美	福井大学大学院看護学領域成人・老年看護分野准教授	看護保健系会議委員
49	神田 享勉	金沢医科大学学長	事業総括・学長連絡協議会委員
50	元雄 良治	金沢医科大学腫瘍内科学教授	金沢医科大学コーディネータ、教育カリキュラム開発・編成担当
51	安本 和生	金沢医科大学腫瘍内科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
52	下平 滋隆	金沢医科大学再生医療学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
53	浦本 秀隆	金沢医科大学呼吸器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
54	小坂 健夫	金沢医科大学消化器外科学教授	教育カリキュラム開発・編成担当
55	新井田 要	金沢医科大学総合医学研究所 准教授	教育カリキュラム開発・編成担当
56	石垣 和子	石川県立看護大学（看護学・ 地域看護）学長	事業総括・学長連絡協議会委員
57	牧野 智恵	石川県立看護大学（看護学研究科・ がん看護）研究科長	事業推進プロジェクトリーダー、事業推進委員会委員長、教育プログラム責任者
58	川島 和代	石川県立看護大学（看護学研究科・ 老年看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
59	西村 真実子	石川県立看護大学（看護学研究科・ 小児看護）教授	がん看護教育カリキュラム開発
60	岩城 直子	石川県立看護大学（看護学研究科・ がん看護）准教授	事業推進委員

申請資格の適合状況

以下に記載の i) から vii) の各指標について、該当する場合は<該当する>欄に○を、該当しない場合は<該当しない>欄に○を記入してください。

	該当する	該当しない
(組織運営関係)		
i) 学生募集停止中の大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
iv) 平成28年度に実施した再推費の事後評価の結果において、「事業目的が達成できなかった」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
v) 申請時点において、再推費のプログラムの中間評価で、「中止することが必要」と評価された大学（対象プログラムは別紙1のとおり。）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
(設置関係)		
vi) 設置計画履行状況等調査において、「警告」が付されている大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
vii) 大学、大学院、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第1条第3号の要件を満たしていない大学又は第2条第1号若しくは第2号のいずれかに該当する者が設置する大学	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

上記の回答について、間違いありません。

事業責任者職名・氏名 金沢大学がん進展制御研究所教授 矢野 聖二

申請の基礎となる教育改革の取組状況

設置計画履行状況等調査への対応状況

【指標への対応状況】対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応予定時期を記入。

対応済	○	未対応		(全学での対応完了時期)
-----	---	-----	--	--------------

【実施計画】

--

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

整理番号

5

申請担当大学 (連携大学)	金沢大学(計6大学) (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
プログラム名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	矢野 聖二(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科学教授)
取組の概要	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンシブ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>	
<p>○北信地域は超少子高齢化地域であり、本地域でのがん医療の進め方は、今後、他地域や都市圏でのがん医療のモデルとして評価できる。</p> <p>○各大学の役割分担に具体性があり、かつ連携のメリットが明示されている点が評価できる。</p> <p>○相互補完的教育プログラムの追加と導入は、本事業活性化の点で評価できる。</p> <p>○地区医師会や患者会を含めた運営協議会を設置し、意思決定や運営を行うこと点は先進的な取組であり評価できる。</p> <p>●取組継続に関して、各大学の学長のガバナンスにおいて予算確保の継続は評価するが、中長期的戦略も必要であり、公的資金以外にも資金確保の工夫を期待したい。</p> <p>●事業計画の進捗管理・改善や北信地域がんデータベースの構築に関する方法論、実施体制等が提示されていない。</p> <p>●少子高齢化と小児・AYA世代のがん医療についてどのような問題点があり、どのように解決していくのか明確となっていない。</p> <p>●外部評価は隔年施行予定とあるが、アドバイスの、監査的要素も入れて毎年関与されるシステムの構築が望ましい。</p> <p>●北信地域の特徴は記してあるが、遠隔教育システムやデータベースを新たに構築する以外、その特徴に対して、具体的な教育・研究活動が明瞭に示されていない。</p> <p>●各大学の得意な領域を活用する趣旨は評価できるが、他大学の院生がどのような形でその恩恵に与えるのか具体策が不明確である。</p> <p>●人材養成モデルの情報発信の方法が不明確である。単なる教員、院生の研究成果の発表にとどまらないよう考慮する必要がある。</p>	

外部評価結果（総括）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

〔実施状況に関するコメント〕

北陸および信州地区の連携6大学がそれぞれの特徴を活かし連携しながら、第3期がんプロの事業のスタートを順調に切ったと全体的に評価できる。第3期がんプロのテーマであるゲノム医療、小児・AYA世代のがん、希少がん、ライフステージに対応するがん医療に対応する医療人の養成を6大学がそれぞれ分担する形を取っていることも優れた点である。事業計画によく練られた内容と新しい発想の取組みも盛り込まれて、非常に優れた内容である。初年度の取組み内容は、6大学の連携体制の構築、スタッフ研修、人材交流、市民啓発などが中心であるが、5年間の準備状況として高く評価できる。

（優れた点）

超少子高齢化地域としてモデルになる北信地域におけるがん医療人材の養成は今後の地域や国全体のモデルになると考えられ、評価できる。

がん登録データをベースにがん対策に活用するプランも評価できる。

海外FD研修などで海外交流を深めている点が評価できる。

テレビ会議システムを利用して、大学およびがん拠点病院、協力病院などが参加する症例検討会を開催して、北信地域のがん医療のレベルアップと均てん化に貢献している。

今年度は準備期間で、受入れはインテンシブコースのみであるが、おおむね目標とした受入れ人数を達成している。次年度から本格的な教育が始まるので、多くの受入れ人数を期待したい。

（改善を要する点）

ホームページを一新して内容がわかりやすく、見やすくなった点は良いが、作成中の所がいくつかあり、情報提供の上で遅れているので、改善をお願いしたい。



E-ラーニングが教育の中心であり、良い内容のものを多数作成して大変な努力とは思いますが、少し整備が遅れていて不十分な所があるので次年度の教育に間に合うように準備頂きたい。

第2期がんプロの大学院生が在籍しているので、引き続き教育に励んで頂くとともに、第3期がんプロとの関連（別個にやるのか、移行するのか）についても考慮、記載頂きたい。

ゲノム人材養成がにわかに関重要課題として浮かび上がってきているが、北信がんプロではゲノム人材のコースが大学院2コース、インテンシブ1コースのみと少ない。ゲノム医療の実現のためにはゲノム医療の専門家だけでなく、関係する幅広い医療スタッフにある程度の知識を普及啓発する活動も必要なので、可能であればインテンシブコースの形で追加することを考慮頂きたい。また、がんプロにおけるゲノム医療人材養成の取組みとゲノム医療連携病院としてゲノム医療実践との関連性を考慮しながら事業を進めて頂きたい。

多くのセミナー、シンポジウムを開催している点を評価するが、これらの開催はがんプロ事業の一環であるということ意識して、がんプロの広報にも努めて頂くようお願いしたい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：  

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

- ・北陸がんプロの5大学に加え、先端的ゲノム治療を実施し、遺伝子診療部を設立した信州大学が加わったことにより、北信がんプロの取り組む教育内容や活動が、より充実したものになった。
- ・北信がんプロ6大学、国立がんセンター、各県のがん診療連携拠点病院や協力病院などが協力・連携し、がんのデータベースを共有化したり、北信地域の高度がん診療プロフェッショナルを多職種にわたり育成していることは、素晴らしいことだと思います。

（優れた点）

- ・旧北陸がんプロコンテンツを全国e-クラフトシステムに登録したり、加盟6大学がそれぞれ特色を生かしたe-ラーニングの教材を作ったり、テレビ会議システムを利用して、大学、地域拠点病院、協力病院などが参加する症例検討会を開催するなど、北信地域のがん医療のレベルアップと均等化に多大に貢献しています。

（改善を要する点）

- ・がんプロ事業の一つとして、市民公開講座やシンポジウム等を既に開催いただいておりますが、今後さらにながの定期検診などの予防、早期発見、早期治療の重要性を説き、最新のがん診断や治療の情報を一般市民に提供したり、がん患者の社会復帰を支援するなどのがん教育をするなどの啓蒙活動を積極的に行っていただきたいと思ひます。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島喜幸
(自筆にてサインをお願いします)

【評価結果】
<input type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] 本科コースへの受入者数で若干懸念されるところもあるが、全体的には特に大きな問題もなく、計画通りに進んでいる。
(優れた点) 北信がんプロは6大学の強みを生かし、第3期がん対策推進基本計画の重点項目（ライフステージにマッチした全人的なケア、希少がん、AYA/高齢者医療、ゲノム医療と遺伝カウンセリング、希少がん病理診断、在宅緩和ケア、グリーフケアなど）の教育プログラムを新設している点は評価に値する。また、28のがん診療連携拠点病院が参加する形で構築されているがん登録データを活用しがん対策に活用するプランもよい。世界の医療は今ものすごい勢いで進展していることから、国際シンポジウムを通して、優れた人材を招聘する、また海外FD研修会を通して国際交流を深めている点は評価できる。
(改善を要する点) ◎海外FD研修会の成果として、得られた知識をベースとして新しいe-Learning講座が開設される、あるいは新しい人脈が継承されるように例えばフェロシップを設けて、人材交流を継続するなどの工夫があるといい。 ◎全国と比較して15年以上進んだ『少子高齢化社会』のニーズは他の地域と比較してどのよう異なるのが明示されるといい。社会のニーズを15年以上先取りした地域のがんプロ養成講座とはどうあるべきか。患者・家族・医療関係者ならびに地域の病診連携もふくめ、そのような観点からこの地域のがん診療体制全体の現状と課題を説明し、その解決策となるように、がんプロ育成プログラムに育て上げ、全国の「モデル」になっていただきたい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 石岡千加史



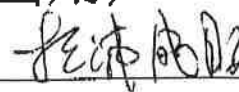
（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】	<i>* 事前配布の資料に基づき評価しました。</i>
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。	
<input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。	
<input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。	
[実施状況に関するコメント]	
連携する6大学が、それぞれの特徴を生かし、大学間で相互補完しながら事業を推進する計画である。第3期がんプロのテーマである、がんゲノム医療、小児・AYA世代の癌、希少癌・難治癌や患者のライフステージに対応するがん医療に対応する医療従事者を養成する取り組みが種々計画されており、計画どおりに進捗すれば、北信越地域のがん医療水準の向上に大いに貢献するであろうと期待できる事業内容である。	
(優れた点)	
平成29年度（今年度）は事業が6月からのスタートであり、実施期間が短かったが、種々の講義コースを開講したほか、多くのセミナーや研修会を実施するなど、初年度の取り組みとしては次年度以降の事業推進のための準備が良く行われた。今年度に海外研修が複数実施または計画されており、この点も評価できる。	
(改善を要する点)	
1. 配付資料か e-learning の収録がやや遅れていると判断した。6大学の地理的状況（相互に遠隔地）や第3期がんプロは第2期までにない新しいテーマが盛り込まれていることを考慮して、次年度上4半期にはほぼ収録を完了させてほしい。	
2. がんゲノム医療に従事する人材をどのように養成するか、平成29年度の取り組みとして具体性にやや欠ける点が見られた。厚生労働省のがんゲノム医療中核拠点病院が平成30年2月全国に11病院指定され、全国にがんゲノム医療連携病院が平成30年3月に指定される状況にあり、本プランの連携6大学の複数がこのがんゲノム医療連携病院に申請していると考えられる。がんゲノム医療連携病院では、ゲノム診断のエキスパートパネル、遺伝子診療部、包括的同意によるバイオバンクの実施体制、診療情報部、検査部や病理部との連携体制など院内	

整備が求められおり、本プランにおけるがんゲノム医療に関連する取り組みが、大学病院のがんゲノム医療連携病院の取り組みとどのように関連するのか、同時進行で on-job training 等で人材養成を進める必要があると考えられるので、次年度はこの点をもう少し明確にするのが望ましいと考える。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：



（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
 一部問題や不十分な点がある。
 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

新しいがんプロのスタートを順調に切ったと全体的に評価できる。よく練られた内容と新しい発想の取組みも盛り込まれて、非常に優れた内容と考える。初年度の潟仰指定は、実施に向けた6大学の連携体制の構築、スタッフ研修、人材交流、市民啓発などは高く評価できる。Eラーニングが教育の中心であり、良い内容のものを多数作成して大変な努力とは思いますが、少し整備が遅れていて不十分な所があるので次年度の教育に間に合うように準備頂きたい。

（優れた点）

超少子高齢化地域としてモデルになる北信地域におけるがん医療人材の養成は今後の地域や国全体のモデルになると考えられ、評価できる。

第3期がんプロのテーマを6大学がそれぞれ分担する形を取っていることも優れた点である。

今年度は準備期間で、受入れはインテンシブコースのみであるが、おおむね目標とした受入れ人数を達成している。次年度から本格的な教育が始まるので、多くの受入れ人数を期待したい。

（改善を要する点）

ホームページを一新して内容がわかりやすく、見やすくなった点は良いが、作成中の所がいくつかあり、情報提供の上で遅れているので、改善をお願いしたい。

第2期がんプロの大学院生が在籍しているので、引き続き教育に励んで頂くとともに、第3期がんプロとの関連（別個にやるのか、移行するのか）についても考慮、記載頂きたい。

ゲノム人材養成がにわかには重要課題として浮かび上がってきているが、北信がんプロではゲノム人材のコースが大学院2コース、インテンシブ1コースのみと少ない。ゲノム医療の実現のためにはゲノム医療の専門家だけでなく、関係する幅広い医療スタッフにある程度の知識を普及啓発する活動も必要なので、可能であればインテンシブコースの形で追加することを考慮頂きたい（改善を要するという意味ではないが）。

多くのセミナー、シンポジウムを開催している点を評価するが、これらの開催はがんプロ事業の環であるということ意識して、がんプロの広報にも努めて頂くようお願いしたい。